

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	表見返 1		[イネ えい花]内えいの指示部位 子房の指示部位	不正確である。	3-(1)	
2	表見返 7		[イネ]ごま葉枯れ病 縞葉枯れ病 白 葉枯れ病 苗立枯れ病 紋枯れ病 [トウモロコシ]ごま葉枯れ病 [96ページ12行]白葉枯れ病・縞葉枯れ 病	不正確である。	3-(1)	
			[100ページ13行]ごま葉枯れ病 [101ページ16行]苗立枯れ病 [108ページ図17]ごま葉枯れ病 紋枯 れ病 白葉枯れ病 [112ページ2～3行]ごま葉枯れ病, 紋			
			枯れ病, 縞葉枯れ病 白葉枯れ病 セ ンチュウ心枯れ病 [112ページ11行]ごま葉枯れ病 [112ページ図25]ごま葉枯れ病 [112ページ側注1]ごま葉枯れ病 紋枯			
			れ病 苗立枯れ病 白葉枯れ病 縞葉 枯れ病 センチュウ心枯れ病 [113ページ1行]紋枯れ病 [113ページ6行]縞葉枯れ病 [113ページ9行]センチュウ心枯れ病			
			[113ページ12行]苗立枯れ病 [174ページ5行]ごま葉枯れ病 [186ページ14行]立枯れ性 [235ページ13行]苗立枯れ病 [252ページ14行]立枯れ病			
			[255ページ29行]紋枯れ病			
3	3		[左1行]実験① 142 [142ページ1行]実験 [左1行]実験② 143 [143ページ1行]実験	表記が不統一である。	3-(4)	
4	3		[左 トウモロコシ 1-①栽培の現状 と特性]186	誤記である。	3-(2)	
5	4		[左 その他の作物 1-③ヒエ]224	誤記である。	3-(2)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
6	6	14	タイマ	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (タイマが繊維作物として一般的であると誤解する。)	3-(3)	
7	7	図3	[アフリカセンター]モロコシ	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (トウモロコシと同じと誤解する。)	3-(3)	
8	7	側注1	The Dirersity of Crop Plants	誤記である。	3-(2)	
9	8	コラム	聖護院大根など変異に富んだ遺伝資源が残されていることに驚いたといわれる。	不正確である。 (出典に記載がない。)	3-(1)	
10	9	7	気分をリラックスさせるカフェイン	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (カフェインの効果を誤解する。)	3-(3)	
11	11	側注3	GLOBALGAP	不正確である。	3-(1)	
12	12	16	水田にコウノトリが生育できる	生徒にとって理解し難い表現である。 (「生育」が理解し難い。)	3-(3)	
13	12	17	「コウノトリ農法」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (一般的な名称と誤解する。)	3-(3)	
14	12	17 - 19	米ぬかなどを利用して深水栽培で雑草を抑制し、冬に水を落とさずに多様な生物をはぐくむ「ふゆみずたんぼ農法」などの実践例がある。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ふゆみずたんぼ農法には米ぬかなどを利用して深水栽培で雑草を抑制することが必要と誤解する。)	3-(3)	
15	12	側注2	有機栽培で収穫した農産物などには、有機JASマーク(図10)をはることで付加価値が高まる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (有機JASマーク獲得の条件の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
16	13	4 - 5	2020年現在、この制度を利用して約100種類の農産物が登録されている。□	最新のものを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	
17	13	10	セシウムをはじめとする放射性物質	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全てのセシウムが放射性物質と誤解する。)	3-(3)	
18	14	8	世界の耕地面積は15.7億ha(2019年)であり、少しずつ増えているが、横ばい状態である。	不正確である。 (15.7億ha 「少しずつ増えているが、横ばい状態である。」)	3-(1)	
19	14	10 - 11	世界の人口は2020年に約78億人に達し、	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
20	14	18 - 20	1961年には609万ha～437万haとなった。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
21	14	20 - 22	耕作放棄地の面積は～42.3万haに達した。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
22	14	表1	各作物の生産量 [トウモロコシ]インドネシア	不正確である。	3-(1)	
23	15	1	耕地利用率は91.4%となっている(2019年)。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
24	15	1 - 3	日本の食料自給率はカロリーベース②で38%、生産額ベースで66%(2019年)であり、先進国のなかで最も低い。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
25	15	4 - 5	日本の人口は2011年から減少し始め、2018年で1億2,650万人	不正確である。 (出典がなく、1億2,650万人が不正確である。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
26	15	10 - 13	農業就業人口は168万人(2019年)～平均年齢は66.8歳で、70%が65歳以上となっている(2019年)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (出典がなく、平均年齢の算出法が不明で理解し難い。)	2-(10)	
27	15	図1	全体	誤りである。 (横軸の間隔)	3-(1)	
28	15	表2	全体	生徒にとって理解し難い表である。 (出典年次の数値でないもの、出典にない作物があることおよびジャガイモの出典年次が[50ページ表1]と異なることが理解し難い。)	3-(3)	
29	16	3	79%	誤りである。	3-(1)	
30	16	4 - 5	米、野菜、果実の産出額はいずれも低下してきており、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (1984年から低下し続けていると誤解する。)	3-(3)	
31	16	8 - 11	輸出総額は近年増加し、9,100億円(2018年)～農産物が6.6兆円で68%を占める。	生徒にとって理解し難い表現である。 (出典がなく、図2と出典年次が異なることが理解し難い。)	3-(3)	
32	16	11 - 14	農作物では飼料用トウモロコシ、コムギ、油料用のダイズとナタネなどを大量に輸入しており、日本は世界有数の食料輸入国となっている(図2)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (図2に飼料用トウモロコシがないことおよび図2から日本は世界有数の食料輸入国であることが理解し難い。)	3-(3)	
33	16	図2	農林水産省「食料需給表(2019年)」	誤りである。	3-(1)	
34	16	側注1	農業生産に関する統計(2018年)	誤りである。 ([2～7行]「全体」の出典としては誤りである。)	3-(1)	
35	17	表3	農林水産政策研究(2001年、2010年) □	不正確である。 (出典表記が不十分である。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
36	18	側注1	サツマイモやチャのような栄養繁殖性の作物は30年,	誤りである。 (サツマイモやチャのような栄養繁殖性)	3-(1)	
37	19	2	自然環境から閉鎖されている植物工場	生徒にとって理解し難い表現である。 (「自然環境から閉鎖されている植物工場」が理解し難い。)	3-(3)	
38	19	11	モノカルチャーなどの集約的農業技術	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全てのモノカルチャーが集約的農業技術と誤解する。)	3-(3)	
39	19	15 - 16	モノカルチャーなどによる在来品種や品種の多様性の喪失など農業が環境に及ぼす悪影響	生徒にとって理解し難い表現である。 (農業が環境におよぼす悪影響に在来品種や品種の多様性の喪失があることが理解し難い。)	3-(3)	
40	21		[下段中央]写真	作業の安全について適切な配慮がされていない。	固有 1-(1)	
41	26	8 - 9	作物は世界に3,000種類以上、そのうち、日本には約500種類あるといわれている(図1)。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
42	27	参考	T. durum Desf	不正確である。	3-(1)	
43	28	25 - 26	在来品種とは数千年以上にもわたって農家により選抜、採種、保存されてきた品種をいう。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (在来品種というには数千年以上にもわたって農家により選抜、採種、保存される必要があると誤解する。)	3-(3)	
44	29	側注1	多殖性作物	誤りである。	3-(1)	
45	30	側注3	重要な遺伝子の一部の塩基配列をDNAマーカーとして作成すれば	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全てのDNAマーカーは重要な遺伝子の一部を利用していると誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
46	31	24	除草剤抵抗性のダイズ [184ページ図9]除草剤耐性遺伝子組換えダイズ	生徒にとって理解し難い表現である。 (「除草剤抵抗性」と「除草剤耐性」の使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
47	31	側注2	2020年現在、～バラの9作物、140品種である。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([側注2]「2021年現在、遺伝子組換え作物の商業的な栽培は、日本ではバラを除いて行われていない。」と年次の異なり理解し難い。)	3-(3)	
48	32	16 - 17	育成者権の存続期間は、品種登録の日から、種子繁殖性作物は25年、栄養繁殖性作物は30年である。	不正確である。	3-(1)	
49	32	19 - 21	違反すると、刑事罰として個人には3年以下の懲役または300万円以下の罰金、法人には1億円の罰金が科せられる。	誤りである。	3-(1)	
50	37	29 - 31	冠根とよばれる。分けつ茎の各節からも冠根が発生する(図8)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (〔7行〕「分けつ」と分けつ茎の違いの説明がないためおよび図8に分けつ茎がないため理解し難い。)	3-(3)	
51	40	18	早く十分な葉面積を確保するためには、 [19～20行]茎の成長がさかんとする温度が高い季節を選ぶ	生徒にとって理解し難い表現である。 (葉面積の確保と茎の成長の関係が理解し難い。)	3-(3)	
52	41	20	木部(→p. 42, 64) [42ページ2行]木部に入る。(→p. 64)□	生徒にとって理解し難い表現である。 (64ページに「木部」の記載がなく理解し難い。)	3-(3)	
53	41	図14	san-ohら「Field Crops Res. (2006)」 [47ページ図24]Simpsonら「Plant Physiol. (1983)」 [51ページ図3]箕田ら「日本作物学会紀事(2015)」	生徒にとって理解し難い表現である。 (出典を特定することが困難な記載である。)	3-(3)	
			[54ページ図9]Taylaranら 「J. Exp. Bot. (2011)」 [57ページ図18]Hirasawara 「Jpn. J. Crop. Sci (1994)」 [88ページ図37]松島「日本作物学会紀事(1964)」			
			[89ページ図38]田中「日本作物学会紀事(1964)」 [89ページ図39]「日本作物学会紀事(2012)」			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[156ページ図18]松山ら「日本作物学会紀事(2014)」			
54	46	18 - 19	モモやリンゴなどの果実の果肉は子房壁が発達したもの	誤りである。 (リンゴの果実の果肉は子房壁が発達したものではない。)	3-(1)	
55	47	16	窒素はアミノ酸の形で運ばれていく。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (すべてアミノ酸の形で運ばれると誤解する。)	3-(3)	
56	50	表1	ジャガイモの出典	不正確である。	3-(1)	
57	51	図3	[縦軸]日数(日) 2か所	生徒にとって理解し難い図である。 (縦軸に何の日数であるかの記載がなく理解し難い。)	3-(3)	
58	52	側注1	近年の地球温暖化により、日本の平均気温も上昇している。しかし、北日本では、6～8月の平均気温の上昇は、他地域に比べ小さい。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
59	54	側注1	二酸化炭素濃度がこれ以下になると、二酸化炭素濃度が減るにもなって、光合成速度も低下する。とくに、イネ、コムギ、ダイズ～、光合成速度が二酸化炭素濃度の増加にもなって大きく増え続ける	生徒にとって理解し難い表現である。 (「二酸化炭素濃度がこれ以下になると、」が理解し難い。)	3-(3)	
60	54	表3	全体	最新のものをを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがある。 (現在の平年値ではない。)	2-(11)	
61	56	2 - 3	世界には約61.5億haの乾燥地があり、これは陸地面積の約42%を占める。□	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
62	57	2	日本の年平均降水量は約1,750mm	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
63	58	13 - 14	日本のコムギでは，毎年作付面積のほぼ10～30%が湿害を受けている(図19)。 [図19]全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (図19に近年のデータがなく理解し難い。)	3-(3)	
64	59	図21	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
65	59	図21	[⑤]腐植 2か所 [⑥]腐植 2か所 [60ページ2行]腐植 [61ページ7行]腐植 [61ページ10行]腐植	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (腐植と土壌有機物が同じものと誤解する。)	3-(3)	
			[61ページ12行]腐植は土壌有機物ともいわれ， [61ページ13行]腐植 [61ページ15行]腐植 [61ページ図25]腐植の役割 2か所			
			腐植自体 [61ページ側注1]腐植 2か所 [62ページ5行]腐植 [62ページ10行]腐植 [62ページ図26]腐植 2か所			
			[62ページ図27]腐植 [171ページ10行]腐植 [234ページ12行]腐植			
66	67	図31	[判断]圃場 [68ページ3行]ほ場 [68ページ13行]ほ場 [95ページ28行]ほ場 [107ページ側注3]ほ場	表記が不統一である。	3-(4)	
67	68	6	水耕液 [16行]培養液	生徒にとって理解し難い表現である。 (「水耕液」と「培養液」の使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
68	68	12 - 13	果樹でも果樹園面積の2～3%で施設栽培が行われている。	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
69	71	12 - 13	(2019年, 表2)	誤りである。	3-(1)	
70	71	13 - 14	世界の生産量のうち, 国外に輸出されているのは1割よりも少なく, おもな輸出国はインド, タイ, ベトナムである。	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
71	71	15 - 16	日本の米の生産量は年々減少しており, 2010年には玄米で約848万t, 作付面積は約163万haであった	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
72	71	19 - 22	2020年までの10年間の単位面積あたりの収量は, 全国平均10aあたり約510~540kgで推移しており, 地域別では長野県で最も高く600kgをこえ, ついで山形県, 青森県が続いている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
73	71	側注2	日本で栽培されているうちは通常18%程度のアミロースを含んでいる。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
74	71	表2	全体	誤りである。	3-(1)	
75	71	表3	茨城の作付面積と生産量 栃木の作付面積	誤りである。	3-(1)	
76	73	8 - 9	発芽できる最低温度は8~10℃, 最適温度は30~32℃, 最高温度は44℃である	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
77	74	16	×1.2 [17行]×1.2 [144ページ図2]1.2倍	不正確である。 (1.2)	3-(1)	
78	88	図36	全体	不正確である。 (出典の最適温度が生育適温の上限となっている。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
79	94	側注1	現在、日本で栽培されているイネの品種数は、うるちが300種あまり、もちが約70品種である。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(11)	
80	94	側注1	全国の作付面積の10%に満たないが、飼料に用いるイネが栽培されている(2019年)。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
81	94	表4	出典	不正確である。	3-(1)	
82	95	5 - 7	1穂もみ数が少ない品種は穂数が多く、1穂もみ数が多い品種は穂数が少ない。このような性質を草型といい、	生徒が誤解するおそれのある表現である。(草型について誤解する。)	3-(3)	
83	98	7 - 9	2期作栽培～真夏の時期の労働となることや	生徒が誤解するおそれのある表現である。(2期作栽培だけが真夏の時期の労働があると誤解する。)	3-(3)	
84	101	17 - 18	窒素・リン酸・カリの肥料を均一に混和し、育苗箱1箱あたりそれぞれ1.5～2g程度施肥する。	生徒にとって理解し難い表現である。(肥料自体の質量か肥料の成分量なのか不明確で理解し難い。)	3-(3)	
85	103	図8	[成苗]2 分けつ	生徒にとって理解し難い表現である。(「2 分けつ」が理解し難い。)	3-(3)	
86	108	図17	栄養成長期と生殖成長期の間および分けつ期と幼穂発育期間の縦線 [109ページ図19]栄養成長期と生殖成長期の間および分けつ期と幼穂発育期間の斜め線	表記が不統一である。	3-(4)	
87	109	3	穂ばらみ期から糊熟期頃までである(図19)。 [図19]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。(図19に糊熟期がなく理解し難い。)	3-(3)	
88	109	図19	深水 4～6cm	生徒にとって理解し難い表現である。([16行]「15～20cmの深水」からみて理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
89	110	図20	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
90	110	側注1	茎の長さが長くなってモーメントが大きくなることと、ざせつ荷重が小さくなることから、イネが倒れやすくなる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (モーメントが大きくなることとざせつ荷重が小さくなることの両方が必要と誤解する。)	3-(3)	
91	114	18 - 20	物理的防除法としては、まず除草機を用いて土壌を反転させて雑草を埋め込むと同時に、土壌中に酸素を送り込んで根を健全に保ち、生育を促進する方法がある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (何の根を健全に保つかが理解し難い。)	3-(3)	
92	115	9 - 10	土壌中にある多年生雑草の栄養器官を表面に出して枯死させ(表2), [表2]全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (出典と本文との関係が理解し難い。)	3-(3)	
93	122	表4	①品質	誤りである。	3-(1)	
94	124	13 - 15	苗の初期生育は、種もみの貯蔵養分の量によって異なるため、苗箱に播種したとき、出芽率、出芽の早さ、草丈、発根の状態にその違いが現れる(図44, 45)	生徒にとって理解し難い表現である。 (図44, 図45から出芽率、出芽の早さ、草丈、発根の状態の違いが理解し難い。)	3-(3)	
			[図44, 45]全体			
95	125	図48	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
96	127	側注2	福井県では、穂肥を与えるための基準として、葉色値はコシヒカリで3.5, イクヒカリで4.0~4.3, ハナエチゼンで4.5となっている。	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
97	130	図57	伸長を始めている期間	誤りである。 (「期間」)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
98	130	図58	[葉耳間長(0)](0) 止葉の葉耳	表記が不統一である。 ([葉耳間長(+10cm)]「(+10cm)」「止葉葉耳」)	3-(4)	
99	130	図58	葉耳間長(-10cm)の図	生徒にとって理解し難い図である。 (止葉葉耳の位置の記載がなく理解し難い。)	3-(3)	
100	130	表5	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
101	132	5	水分含有率 水分計で玄米の水分が適正値であるかを確認する。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (収量の計算で玄米の水分含有率を補正しないと誤解する。)	3-(3)	
102	133	図63	写真	生徒にとって理解し難い写真である。 (退化えい花と退化2次枝こうがどこにあるかが理解し難い。)	3-(3)	
103	138	9 - 10	1967年には最大の1,445万tの生産量(供給量)となった。	誤りである。 ([表1]「米の生産」, 注, 「作付面積」, 「収穫量」, 「10a当たり収量」は水稲。)および[139ページ8行]「米の作付面積は146.2万ha」からみて, 1,445万tは誤りである。)	3-(1)	
104	138	12	1967年には需要量は1,341万tでピークとなった。	誤りである。 (1967年)	3-(1)	
105	138	22 - 23	主食用米から非主食用米への誘導が行われてきた。それにより数%は非主食用米に移行したが, □	生徒にとって理解し難い表現である。 ([139ページ8~9行]「2020年産の米の作付面積は146.2万ha(うち主食用作付面積136.6万ha)」と数%の関係が理解し難い。)	3-(3)	
106	138	26 - 27	米の海外からの輸入を抑制する関税化を猶予するために,	生徒にとって理解し難い表現である。 (「輸入を抑制する関税化を猶予する」が理解し難い。)	3-(3)	
107	138	側注5	国内に需要がなくても輸入しなければならない(最低輸入義務)米	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ミニマム・アクセス米を誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
108	139	8 - 9	2020年産の米の作付面積は146.2万ha(うち主食用作付面積136.6万ha)で②, 1ha以下の小規模農家の作付けが多い。 [側注2]農林水産省「作物統計」	不正確である。 (出典が不十分である)	3-(1)	
109	145	7	粗植区	誤記である。	3-(2)	
110	145	25	10gあたりの玄米	不正確である。	3-(1)	
111	148	13	2019年の世界の麦類の総生産量は約9億7千万t [15～16行]約7億7千万t [149ページ1～2行]約94万4千t [149ページ3～4行]約22万3千t	不正確である。	3-(1)	
112	149	4 - 5	日本のコムギ, オオムギの作付面積と収穫量は, 第2次世界大戦以後大きく減少したが(図3),	生徒にとって理解し難い表現である。 (図3に第2次世界大戦時および作付面積のデータないため理解し難い。)	3-(3)	
113	149	12 - 13	オオムギは, 世界全体では生産量の7～8割が飼料に, 残りの大半がビールやウイスキーの原料に使われる。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
114	149	図2	収穫量の数値 その他の数値	不正確である。	3-(1)	
115	149	表1	アメリカ合衆国の栽培面積と収穫量 カナダの収穫量	誤りである。	3-(1)	
116	150	7 - 8	発芽の最低温度は0～2℃, 最高温度は38～42℃, 最適温度は24～26℃である。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
117	154	図16	全ての収穫量の数値 2条オオムギの佐賀県の数値 6条オオムギのその他の数値 ハダカムギの大分県の数値	不正確である。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
118	154	側注3	幼穂は発育が進むと寒さに対して弱くなり、 $-4\sim-3^{\circ}\text{C}$ の低温にあうと幼穂は凍死する。また、出穂・開花の頃に 0°C 近くになると不稔となる。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
119	155	表2	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
120	158	図1	出典	不正確である。	3-(1)	
121	158	図2	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
122	159	16 - 17	麦類は土塊が大きいと出芽が悪くなる(図5)。 [図5]全体	生徒が誤解するおそれのある表現、図である。(麦類の出芽が悪くなる理由が図5だけと誤解する。)	3-(3)	
123	164	8 - 15	1960年頃、オオムギ(2条・6条オオムギ、ハダカムギ)はほぼ国内生産で国内需要をまかなっていたが、～1975年頃の自給率は、コムギが4%、オオムギが9%まで低下した。～2018年度の	不正確である。(表1にオオムギの自給率がなく、また「1960年頃」、「オオムギが9%」、「オオムギで9%」が不正確である。)	3-(1)	
			自給率はコムギで12%、オオムギで9%となっている(表1)。 [表1]全体			
124	164	表2	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
125	165	2	麦類の流通は、国産と輸入、コムギとオオムギによって異なる。	生徒にとって理解し難い表現である。(コムギとオオムギの流通の違いの説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
126	166	14	米生産に比べると労働時間も生産費用も少ない。	生徒にとって理解し難い表現である。(米生産の労働時間と生産費用の記載がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
127	166	表3	10aあたりの収量の全データ	誤りである。	3-(1)	
128	166	表4	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
129	168	7 - 8	2020年の子実用トウモロコシの収穫面積は約1億9千万ha、生産量は約11億5千万tとなっている。	不正確である。	3-(1)	
130	168	14 - 16	世界平均収量は5.8t/haであるが、アメリカ合衆国では11t/ha、中国やブラジルでは6t/ha、メキシコでは4t/ha、インドでは3t/haと国による差異も大きい。	不正確である。 (出典、年次がなく、「アメリカ合衆国では11t/ha、中国やブラジルでは6t/ha、メキシコでは4t/ha、インドでは3t/ha」は不正確である。)	3-(1)	
131	168	側注1	野菜統計	誤りである。	3-(1)	
132	169	側注2	(ジャパクロップ「スイートコーンの生産状況」)	不正確である。 (他の出典から引用したデータを掲載しており、出典として不正確である。)	3-(1)	
133	169	側注3	農畜産業振興機構「調査・報告畜産の情報(2020)」	不正確である。	3-(1)	
134	169	表1	全体	生徒にとって理解し難い表である。 ([168ページ図1]「FAOSTAT」と出典が異なりデータの整合性がなく理解し難い。)	3-(3)	
135	169	コラム	アメリカ合衆国(表1)では、生産量の約30%がバイオエタノールに使われる。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
136	171	2 - 4	発芽の最低温度は6~10℃、最適温度は32~36℃で、生育は4℃以下、48℃以上で停止する。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
137	171	図5	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
138	172	側注4	アメリカ合衆国の～ゲノム編集技術により～ワキシーコーンを作成した。□	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ワキシーコーンがゲノム編集技術によりできたものと誤解する。)	3-(3)	
139	173	6 - 8	日本でも2000年から2020年までのあいだに飼料用トウモロコシ47品種が育成された②。 [側注2]F1品種が12品種でそれ以外はF1の親品種であり、デント系親品種の	誤りである。 (出典がなく、47品種、16品種は誤りである。)	3-(1)	
			方がフリント系親品種よりも若干多い。			
140	176	1 - 4	道東と道北を除いた寒地から暖地までの各地域の奨励品種試験の平均乾物収量は1,800kg/10a以上であり、これはアメリカ合衆国並みの高収量である。しかし日本の農家の実収量はその6～8	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
			割程度			
141	176	18 - 19	国内生産される濃厚飼料約1,100万トンの原料として約1,500万トンのトウモロコシ子実が輸入されている(2015年)。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
142	176	18	トン [19行]トン	表記が不統一である。 ([168ページ8行]「t」と異なる。)	3-(4)	
143	176	側注3	イネでは全国平均22.6時間/10a、コムギでは3.3時間/10a(2016)	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
144	176	側注3	子実トウモロコシの実証試験や先駆的な農業法人では～追肥・除草が0.8時間/10aである。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
145	176	側注4	北海道の道東・道北では、～栽培面積の拡大に貢献した。	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
146	176	コラム	アメリカ合衆国(3,317万ha)，～スペインとポルトガルの11万haを除いては栽培されていない。	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
147	176	コラム	日本では，政府により86品種の遺伝子組み換えトウモロコシが国内栽培を認証されているが(2019年)，	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
148	176	コラム	[右段4行]遺伝子組み換えトウモロコシ	表記が不統一である。 ([コラムタイトル]「遺伝子組換えトウモロコシ」)	3-(4)	
149	178	11 - 15	ダイズやインゲンマメには，～リジンが多く含まれ，メチオニン，シスチンは少ない。一方，米，コムギ，トウモロコシでは，その逆であるため，これらの穀物と豆類の食べあわせは人間の	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (出典がなく，米，コムギ，トウモロコシはリジンよりメチオニン，シスチンが多く，またダイズやインゲンマメよりメチオニン，シスチンが多く含まれていると誤解する。)	3-(3)	
			栄養バランスにとって都合がよい。			
150	179	表2	世界の生産量の全データ 作物統計	誤りである。 (出典が不十分で，値が違う。)	3-(1)	
151	180	12	現在は世界一のダイズ輸入国でもある。	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
152	180	表1	ブラジル，アメリカ合衆国，中国，カナダの数値	誤りである。	3-(1)	
153	181	5	発芽は10～35℃の範囲で良好	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
154	183	表2	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
155	184	表3	ユキホマレR , サチユタカの育成年次	不正確である。	3-(1)	
156	184	コラム	世界のダイズ作付面積の3/4, 遺伝子組換え作物全体の約半分に相当する。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
157	185	5	好適土壌pHは6~6.5, 生育適温は22~27℃である。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
158	185	6	ダイズシストセンチュウ(→カラーページ10) [カラーページ10]シストセンチュウ	表記が不統一である。	3-(4)	
159	188	7 - 8	アズキの国内の栽培面積は1~3万ha程度, 生産量は3~7万t程度 [側注1]特定作物統計調査(2019年)	不正確である。 (1~3万ha, 3~7万t, 特定作物統計調査(2019年))	3-(1)	
160	189	2 - 3	花は葉えきから伸びる花梗につき(図2), [188ページ図2]全体	生徒にとって理解し難い表現, 図である。 (図2に花梗がなく理解し難い。)	3-(3)	
161	189	10 - 12	発芽には最低10℃必要で, 最適温度は30~34℃である。最適な生育温度は20~25℃ [14~15行]pHは6~6.5が適している。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
162	190	6 - 7	施肥は窒素, リン酸, カリをそれぞれ10aあたり3kg, 10kg, 10kgとし,	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (施肥量が条件によらず一定と誤解する。)	3-(3)	
163	191		[ラッカセイの履歴書]日本には18世紀初頭に中国から伝来し, 南京豆の名がついた。沖縄県では古くから栽培されていた	生徒にとって理解し難い表現である。 (「18世紀初頭に中国から伝来」と「沖縄県では古くから」の関係が理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
164	192	8	空さや	生徒にとって理解し難い表現である。 （[194ページ10行]「空さや」に「から」のルビがあることが理解し難い。）	3-(3)	
165	196	表1	生産量に関する数値	誤りである。	3-(1)	
166	197	11	さまざまな工夫(→p. 204コラム)	生徒にとって理解し難い表現である。 (→p. 204にコラムがなく理解し難い。)	3-(3)	
167	198	9 - 10	2019年の世界の生産量は3億7,044万tである(表1)。 [11～13行]収穫面積は1945～1965年には約22万haであったが、近年(2015～2019年の平均値)は7.5万ha	誤りである。 (値が誤りである。)	3-(1)	
			[14行](1965年は世界5位) [15行]近年は237.7万t [16～17行]北海道が80.3%を占め、ついで鹿児島県が約4.0%、長崎県が3.7%			
168	198	図1	1880～1890年間の収量 1900～1920年間の収穫面積	誤りである。	3-(1)	
169	198	表1	中国の収量以外 アメリカ合衆国と日本の収穫面積以外 世界の全て 日本31位 世界割合の全て	誤りである。	3-(1)	
170	201	側注2	アンデスのめざめ(黄)	誤りである。	3-(1)	
171	201	表2	インカのめざめ以外の作付率 (農林水産省「令和元年度いも・でん粉に関する資料」より作成)	誤りである。 (出典にない記載もあり、値も誤りである。)	3-(1)	
172	202	4 - 7	国内の平均生産量は227.7万t、輸入量は40.0万t(冷凍いもが92%)、年間267.7万tのジャガイモが消費されており、自給率は85%である。その用途はでんぷん用29%、生食用24%、加工食品	誤りである。 (出典がなく、すべての値が誤りである。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			用21%, 種子用5%で			
173	202	11 - 12	生育の適温は20～25℃, 塊茎の肥大適温は15～20℃である。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
174	205	図15	農機具費と種苗費の図の位置 7万7700円 物財費, 農業薬剤費, その他, 労働費 の割合	誤りである。	3-(1)	
175	206	11 - 13	日本では, 第二次世界大戦後の食糧難の頃には収穫面積が約40万ha, 生産量は650万t(1961年の生産量は中国に次いで世界2位)であった	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (1961年は第二次世界大戦後の食糧難の頃であり, 収穫面積が約40万haあった年代と生産量が650万tあった年代が同じと誤解する。)	3-(3)	
176	206	15 - 16	近年の地域別生産量の割合は鹿児島県が35.7%, 茨城県が21.2%, 千葉県が12.5%である。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (出典がなく, 出典がFAOSTATと誤解する。)	3-(3)	
177	206	表1	タンザニア, エチオピア, アンゴラ, 日本以外の生産量 タンザニア, エチオピア, アンゴラ以外 の世界割合 タンザニア, エチオピア, アメリカ合	誤りである。	3-(1)	
			衆国, ベトナム, 日本以外の収穫面積 タンザニア, ウガンダ, エチオピア, アンゴラ, 日本以外の収量			
178	207	図4	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
179	208	12 - 15	2015～2019年における国内の平均生産量は80.5万t, 輸入量は1.6万tで, 年間82.2万tのサツマイモが消費されており, 自給率は98%である。その用途は生食用48%, アルコール用25%, でん	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			ぶん用13%, 加工食品用9%で,			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
180	208	表2	[ジョイレッド]1987 [品種名]安納芋 [べにはるか]九州農試 粘 (農林水産省「令和元年度いも・でん粉に関する資料」より作成)	誤りである。 (安納芋は品種名でないこと, 2007年には九州農試はないこと, 出典にない記載があることなど)	3-(1)	
181	209	図5	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
182	211	13 - 16	収穫面積は1.2万ha, 生産量は15.0万tで, 地域別生産量の割合は, 千葉県が12.0%, 埼玉県が11.6%, 宮崎県が7.9%となっている。サトイモの輸入量は3.6万t(冷凍いもが88%), 自給率は80%	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			である。			
183	211	図1	(1960年以前:農林水産省「令和元年度いも・でん粉に関する資料」,1961年以降:FAO「FAOSTAT」より作成)	誤りである。	3-(1)	
184	212	13 - 14	ほう芽の最低温度は15℃, 生育適温は25~30℃である。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
185	214	13 - 14	群馬県が2019年では日本の収穫量の93.6%を占めている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
186	214	図1	全体	誤りである。 (出典の作物統計にデータのない年次が記載されている。)	3-(1)	
187	214	側注2	コンニャクいもの日本の輸入量は, ~日本, 中国, ミャンマーおよび韓国である。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
188	216		[作物あれこれ]一般的なコンニャク製品は水分が96%, 食物繊維が3%	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
189	218	11 - 12	10aあたりの収量は、45～60kg	不正確である。	3-(1)	
190	218	14 - 15	中国、アメリカ合衆国、ロシアなどから約9.4万t(2019年)が輸入されている。	誤りである。 (出典がなく、輸入量が誤りである。)	3-(1)	
191	219	4 - 5	無機質、ビタミンB1、B2、ルチンを豊富に含んでおり、栄養価が高い。必須アミノ酸がバランスよく含まれている(表3)。 [表3]全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (表3から無機質、ビタミンB1、B2、ルチンを豊富に含み栄養価が高いこと、必須アミノ酸がバランスよく含まれていることが理解し難い。)	3-(3)	
192	219	表1	全体	生徒にとって理解し難い表である。 (出典名が不正確で、収量が誤りで、[237ページ表2]「全体」と異なり栽培面積順で並んでいることが理解し難い。)	3-(3)	
193	219	表2	全体	生徒にとって理解し難い表である。 (数値の多くが誤りで、[206ページ表1]「全体」と異なり栽培面積順で並んでいることが理解し難い。)	3-(3)	
194	219	表3	灰分 無機質計	生徒にとって理解し難い表現である。 (灰分と無機質の違いが理解し難い。)	3-(3)	
195	221	14 - 15	これまでに56品種が育成されている。	誤りである。 (出典がなく、品種登録取り下げを考慮しておらず誤りである。)	3-(1)	
196	221	22 - 23	高嶺ルビーをはじめ5品種が育成されている。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
197	221	図6	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
198	221	側注2	ダットンソバは、北海道(307ha)、長野県(65ha)を中心に全国で411ha作付けされている(2018年)□	不正確である。 (出典がなく、411haが不正確である。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
199	223	表5	全体	不正確である。 (出典がなく、レラノカオリ、会津のかおり、常陸秋そば、宮崎早生かおりの熟期が不正確である。)	3-(1)	
200	224	3 - 6	1901年には最大で3.7万ha、1950年には2.6万ha栽培されていたが、2018年では沖縄県、長崎県、岩手県などで134ha栽培されているにすぎない①。 [側注1]農林水産省「農林水産統計 (2018年)」	誤りである。 (出典と3.7万haが誤りである。)	3-(1)	
201	224	17	複総状花序	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
202	224	26 - 27	施肥量は10aあたり窒素3～4kg、リン酸5kg、カリ5kgとする。 [225ページ26～27行]施肥量は10aあたり窒素、リン酸、カリをそれぞれ4kgとする。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (施肥量が条件によらず一定と誤解する。)	3-(3)	
			[226ページ26～27行]施肥量は10aあたり窒素、リン酸、カリをそれぞれ4～5kgとする。 [227ページ23～24行]施肥量は、10aあたり窒素、リン酸、カリをそれぞれ			
			8kgとする。			
203	225	4 - 7	1879年に最大で10.8万haの作付面積があり、1950年でも3.3万ha栽培…2018年では岩手県、鹿児島県などで58ha栽培されているにすぎない①。 [側注1]農林水産省「農林水産統計 (2018年)」	誤りである。 (出典、鹿児島県、58haが誤りである。)	3-(1)	
204	226	4 - 6	1879年に最大で24.8万haの作付面積があり、1950年でも6.6万ha栽培されていたが、2018年では岩手県、長崎県などで40ha栽培されているにすぎない① [側注1]農林水産省「農林水産統計	誤りである。 (出典と1879年、24.8万haが誤りである。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			(2018年) 」			
205	227	13 - 14	2018年では富山県, 岩手県, 栃木県, 島根県などで1,016ha栽培されている ①。 [側注1]農林水産省「農林水産統計(2018年)」	誤りである。 (出典と1,016haが誤りである。)	3-(1)	
206	228	6 - 7	大形な多年生植物	誤記である。 (「大形」)	3-(2)	
207	228	10 - 11	1979年の3.5万haを最高に徐々に減少し, 2019年には約2.7万ha(表2)となっている。 [229ページ表2]鹿児島県, 沖縄県, 全国の収穫面積	誤りである。 (1979年, 3.5万ha, 約2.7万ha, 3県の収穫面積, 出典名)	3-(1)	
			作物統計作況調査			
208	228	図1	右図	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
209	229	表1	ブラジル, タイ, 中国, 世界の収穫面積 ブラジル, インド, パキスタン, 日本の生産量 中国, パキスタン, 日本, 世界の収量	誤りである。	3-(1)	
210	230	2 - 3	出穂する程度は品種によって異なる。□	生徒にとって理解し難い表現である。 (「出穂する程度」が理解し難い。)	3-(3)	
211	231	24 - 25	零細農家の占める割合が高く, 生産コストの5割は労働費, 労働時間の3割が収穫作業となっている。	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
212	232	側注1	第2次世界大戦後, 北東北や九州でも栽培された	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
213	232	側注2	農林水産統計	不正確である。	3-(1)	
214	232	表4	アメリカ合衆国, 中国, 世界の収穫面積 アメリカ合衆国, 世界の生産量	誤りである。	3-(1)	
215	232		[学名]アカザ科	誤りである。	3-(1)	
216	233	1 - 2	茎葉の成長には高温が適しており, 20℃をこえると1日あたりの出葉数が0.5枚と最大になるが, それ前後では低下する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (20℃が高温ということが理解し難い。)	3-(3)	
217	234	15 - 17	収量6~7tを目標にする場合, 火山性土では10aあたり窒素18kg, リン酸22kg, カリ16kg, 低地土では10aあたり窒素16kg, リン酸20kg, カリ14kgである。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (火山性土と低地土では他の条件によらず施肥量が一定と誤解する。)	3-(3)	
218	234	19	日本では74%が移植栽培である(2018年)。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
219	234	表5	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
220	235	14 - 15	アシグロハモグリバエ(→カラーページ8)	誤記である。	3-(2)	
221	235	28 - 29	肥料費は, 10aあたり生産費の約30%を占めている	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
222	236	18 - 19	1957年に作付面積が25.9万ha, 生産量は28.6万t	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
223	237	側注3	カナダにおける定義では、油分の脂肪酸中エルシン酸含量が2%未満で、風乾した脂肪粕に含まれる特定のグルコシノレート類が1gあたり30 μ mol未満のナタネ種子をカノーラとして扱う。	生徒にとって理解し難い表現である。 (出典がなく、「ダブルロー品種」と「ダブルゼロ品種」の違いが、含量の違いかカナダとEUの違いかが理解し難い。)	3-(3)	
			エルシン酸とグルコシノレートの含有利用の低いナタネ品種は一般的に「ダブルロー品種」とよばれ、現在は広く利用されている。また、EUにおいては、油分の脂肪酸中エルシン酸含量が2			
			%以下で、種子(水分含量9%)に含まれるグルコシノレート類が1gあたり25 μ mol以下のナタネ品種を「ダブルゼロ品種」とよんでいる。			
224	237	表1	パーム油のタイ、世界 ダイズ油のブラジル、世界 ナタネ油のカナダ、世界 ヒマワリ油の世界	誤りである。	3-(1)	
225	238	21 - 22	施肥量は10aあたりで窒素10～14kg、リン酸とカリはそれぞれ8～10kgである。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (施肥量が条件によらず一定と誤解する。)	3-(3)	
226	238	表3	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
227	240	4 - 6	日本の油料用としての収穫面積は、兵庫県、大分県、香川県、島根県などであわせて約103haである(2017年)。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
228	240	21	生育最適気温は20～25℃	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
229	240	31 - 32	低温ではリノール酸が70%も含まれ、高温ではオレイン酸が多くなる。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
230	240	側注1	宮崎県では、おもに景観・緑肥用として広く栽培され、その栽培面積は約80haにも及ぶ(2017年)。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
231	241	10 - 12	施肥量は10aあたり窒素5kg, リン酸10kg, カリ8kgとする。播種量は10aあたり300g	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (施肥量や播種量が条件によらず一定と誤解する。)	3-(3)	
232	241	28 - 29	最低発芽温度は12℃前後, 最適生育温度は23～25℃	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
233	243	1 - 2	世界のチャの収穫面積は508万ha, 生産量は650万tで(2019年)	誤りである。 (508万ha, 650万t)	3-(1)	
234	243	1 - 2	世界のチャの収穫面積は508万ha, 生産量は650万tで(2019年), そのうち中国が約60%を占めている(表1)。 [表1]全体 [4～5行]おもな産地は静岡県, 鹿児島	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (面積の大小比較だけで生産量の大小比較が常に正しくできると誤解する。)	3-(3)	
			県である(表2)。 [表2]全体 [250ページ表9]全体 [260ページ トウガラシ]乾燥トウガラシはインド(収穫面積78.0万ha), エ			
			チオピア(17.4万ha), ミャンマー(10.9万ha), 生トウガラシは中国(79.6万ha), インドネシア(30.0万ha), メキシコ(15.0万ha), トルコ(9.2万ha)がおもな生産国である。			
			[260ページ コショウ]インドネシア(収穫面積18.8万ha), エチオピア(16.9万ha), インド(13.8万ha), ベトナム(11.1万ha)がおもな生産国である			
235	243	3	生葉で約33万t	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
236	243	表1	インド, ケニア, 日本以外の数値	誤りである。	3-(1)	
237	244	表3	(農林水産省「作物統計(2012年)」)	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
238	245	22 - 26	定植した年は10aあたり窒素10～15kg, リン酸8～10kg, カリ10～12kgを4～5回に分けて行う。定植2年目は窒素25～30kg, リン酸10～12kg, カリ15～18kgを4～5回に分けて行う。施肥は新	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (定植2年目までの施肥量が条件によらず一定で、摘採でもち出される窒素成分のみを考えればよいと誤解する。)	3-(3)	
			芽摘採によってもち出される窒素成分にみあった分を肥料として施用するのが原則である。			
239	250	表9	全体	誤りである。 (出典が不正確で、県の記載順が本文と異なり、値が誤りである。)	3-(1)	
240	251	表10	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
241	253	3 - 6	日本の栽培面積は184haで、収穫量は498tである。県別では、岩手県が61ha, 秋田県が46ha, 山形県が39haであり、減少傾向である(2018年)①。 [側注1]財団法人日本特産農産物協会	誤りである。 (出典が不正確で、減少傾向がわからず、数値が誤りである。)	3-(1)	
			2018年			
242	254	8 - 9	栽培しているのは日本、中国、韓国だけである。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
243	254	16	1993年には作付面積で日本をこえた。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
244	254	26 - 27	発根限界は日平均気温で7℃であり、発根成長の適温は15～20℃である。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
245	255	17 - 18	施肥量は10aあたり窒素46kg, リン酸12kg, カリ41kgとする	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (施肥量が条件によらず一定と誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-1		学校 高等学校		教科 農業	種目 作物	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
246	255	表1	出典 涼風(すずかぜ)の作付面積	誤りである。	3-(1)	
247	257	3 - 5	ワタのおもな生産国は中国、インド、 アメリカ合衆国、ブラジル、パキスタ ン、トルコである。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
248	257	5 - 6	日本では、1887年に9万8,000haの栽培 があった	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
249	257	16 - 17	発芽最低温度は12℃以上、生育適温は 25～28℃である。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
250	257	23 - 24	施肥量は10aあたり窒素1.5kg、リン酸 、カリをそれぞれ4～5kgとする。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (施肥量が条件によらず一定と誤解する。)	3-(3)	
251	257	図3	蒴果の指示箇所	生徒が誤解するおそれのある図である。 (裂開したものをだけを蒴果と誤解する。)	3-(3)	
252	258	19 - 21	適する水温は8～17℃であり、最適な 水温は12～15℃である。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
253	259	側注1	農林水産統計(2019年度)	誤りである。	3-(1)	
254	270	表	WCS用稲は、稲発酵粗飼料用稲。	生徒にとって理解し難い表現である。 (WCSの説明が不十分で理解し難い。)	3-(3)	
255	276		[う]内えい……72 [278ページ ふ]節……74 節間……74	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校	教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
1	表見返 1		[カブ]Brassica campestris L. (rapifera group) [表見返し2 チンゲンサイ]Brassica campestris L. [表見返2 ハクサイ]Brassica	不正確である。 (「campestris」, イタリアック体, スイートコーンの 学名)	3-(1)
			campestris L. (pekinensis group) [80ページ学名]Solanum lycopersicum L. [90ページ学名]Solanum melongena L. [96ページ学名]Capsicum annuum L.		
			[102ページ学名]Cucumis sativus L. [112ページ学名]Cucumis melo L. [124ページ学名]Citrullus lanatus (Thunb.) Matsum. et. Nakai [132ページ学名]Cucurbita spp.		
			[138ページ学名]Fragaria × ananassa Duch. [148ページ学名]Glycine max(L.) Merrill [150ページ学名]Zea mays L.		
			[156ページ学名]Brassica oleracea L. (capitata group) [164ページ学名]Brassica campestris L. (pekinensis group) [172ページ学名]Brassica campestris		
			L. (var. B. chinensis L.) [174ページ学名]Brassica oleracea L. var. italica [178ページ学名]Lactuca sativa L. [186ページ学名]Spinacia oleracea		
			L. [192ページ学名]Allium fistulosum L. [198ページ学名]Allium cepa L. [206ページ学名]Raphanus sativus L.		
			[213ページ学名]Daucus carota L. [236ページ学名]Ocimum basilicum L. [237ページ学名]Brassica japonica SIEB. [237ページ英名]potherb mustard		
			[238ページ学名]Momordica charantia L. var. pavel [239ページ学名]Asparagus officinalis L.		
2	表見返 1		[イチゴ]オランダ	生徒にとって理解し難い表現, 図である。 ([138ページ イチゴの履歴書] 「現在のイチゴは , コロンブスによってヨーロッパに伝えられたバージ ニアイチゴとチリイチゴをもとに育成された。」か らみて理解し難い。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
3	表見返 1		温室メロン	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (作物名と誤解する。)	3-(3)	
4	表見返 1□		[トマト]Lycopersicon esculentum Mill. [80ページ学名]Solanum lycopersicum L.	表記が不統一である。	3-(4)	
5	表見返 7		なると金時	不正確である。	3-(1)	
6	4		[右 ⑦]施設園面積	誤記である。	3-(2)	
7	12	表1	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
8	12	表1	[鎌倉～桃山時代 d]トウモロコシ [45ページ表5]トウモロコシ	表記が不統一である。 ([表見返し1]「スイートコーン」と表記が不統一である。)	3-(4)	
9	13	図1	カブの食べる部分のほとんどは、茎が肥大したものである。(c)根菜類(カブ)	不正確である。 (茎)	3-(1)	
10	13	側注1	本書では、系統分類に従って野菜の科を記述している。 [表2]注 APG植物体系分類では、1)ウマノスズクサ科、2)ヒガンバナ科、3)キジカクシ科、4)ヒユ科、5)ハス科と	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (近年、一般的に使用されている分類法を誤解する。)	3-(3)	
			されている。 [14ページ表5]注 APG植物体系分類では、1)ヒガンバナ科とされている。 [186ページ側注1]APG植物体系分類では、ヒユ科とされている。			
			[192ページ側注1]APG植物体系分類では、ヒガンバナ科とされている。 [198ページ側注1]APG植物体系分類では、ヒガンバナ科とされている。			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	13	側注1	APG植物体系分類 [表2]APG植物体系分類 [14ページ表5]APG植物体系分類 [186ページ側注1]APG植物体系分類 [192ページ側注1]APG植物体系分類	誤りである。	3-(1)	
			[198ページ側注1]APG植物体系分類			
12	13	表2	アブラナ科 サイシン1) [注]1)ウマノスズクサ科	誤りである。 (アブラナ科のサイシンはAPGでウマノスズクサ科に変更されていない。)	3-(1)	
13	14	表3	パースニップ(白ダイコン) ルタバカ	不正確である。	3-(1)	
14	14	表5	ユリ科 ペコロス [19ページ図5]アカザ科 ユリ科 スイレン科 [74ページ表4]ユリ科 アスパラガス	誤りである。	3-(1)	
			・ニンニク・ネギ(坊主不知ネギ)・ラッキョウ・ワケギ・アサツキ スイレン科 レンコン(ハス) [239ページ]ユリ科 [裏見返8 スイスチャード]アカザ科			
15	16	図2	「1人1日あたりの野菜摂取量の推移」 70歳以上の値 [図3]「年代別野菜摂取量(2019)」 野菜合計の値 [表2 供給量](kg/年)	誤りである。 (図のタイトル、値、出典が令和元年で2019年データがない。)	3-(1)	
			[17ページ表3 ニンジン A]6900			
16	17	13	とりたての野菜にはビタミンCが多く含まれている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (すべてのとりたての野菜に多いと誤解する。)	3-(3)	
17	17	18	機能を強化した野菜を機能性野菜といい、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「機能を強化した」が理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
18	17	表3	全体 [20ページ11～12行]野菜の自給率は約80%を前後して推移している。 [20ページ20～21行]一方で、台湾、香港、東南アジアへの輸出が増加傾向にある。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(11)	
			[21ページ12～13行]青果の卸売り市場経由率は5割程度まで減少した。			
19	18	11 - 12	同じ野菜を一つの産地で、作型を組み合わせる場合、栽培する場所によって、露地と施設に大別する。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (露地と施設に大別するのは、同じ野菜を一つの産地で、作型を組み合わせる場合だけと誤解する。)	3-(3)	
20	18	21 - 22	太陽光型植物工場 [58ページ2行]太陽光利用型植物工場 [58ページ7行]太陽光利用型植物工場	表記が不統一である。	3-(4)	
21	18	22	人工光型植物工場 [58ページ2行]完全人工光型植物工場 [58ページ11行]完全人工光型植物工場	表記が不統一である。	3-(4)	
22	19	3	約2兆4,500円で、農業総産出額の約26% [図3]全体	誤りである。 (図3は2019年のデータでない。)	3-(1)	
23	19	5 - 8	野菜の作付面積は、1984年ごろをピークに減少し、2018年には約46万haまで減少した。出荷量も、1986年ごろをピークに減少に転じ、2018年には約1,120万tになった(図4)。	誤りである。 (図4ではピーク年次がわからず、ピーク年次も誤りである。)	3-(1)	
			[図4]全体			
24	19	10 - 16	野菜の販売農家数は2010年に、～主として野菜に取り組む戸数の割合は66%と高い(露地37%、施設29%)。	最新のものをを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがあり、また、学習上必要な出典が示されていない。	2-(11)	
25	19	図5	葉根菜類	生徒にとって理解し難い表現である。 ([図5]「根菜類」があり理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
26	19	図5	パプリカ	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (パプリカの名前で指定野菜に入っていると誤解する。)	3-(3)	
27	20	4 - 7	1993年以降、たび重なる異常気象で国内野菜が不作になり、その不足を補うために生鮮野菜の輸入が始まると、2001年まで増え続けた。しかし、輸入野菜の安全性が問題になってからは、	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (1993年に生鮮野菜の輸入が始まったと誤解し、図6は生鮮野菜の図でなく、また本文の内容がわからない。)	3-(3)	
			消費者の安全志向が高まり、その量は停滞している(図6)。 [図6]全体			
28	20	図6	「野菜の輸出入量の推移(2020)」 出典	誤りである。	3-(1)	
29	21	3	食料の流れを川にたとえると、食品の原材料を扱う農漁業から、 [図7]農漁業	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (食品の原材料を扱うのは農漁業だけと誤解する。)	3-(3)	
30	21	5 - 7	このような流れと、それに関係する制度、行政措置、技術革新、情報伝達などを含めて、全体を一つの体系としてとらえフードシステムという(図7)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「関係する制度、行政措置、技術革新、情報伝達」の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
31	21	12	卸売り市場 [220ページ13行]卸売り市場	表記が不統一である。	3-(4)	
32	21	21 - 22	大型量販店、外食産業、食品製造業などが自社農場をもち生産部門に進出している(図8)。 [図8]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (「[235ページ4~7行]「農家が1次産業としての生産を行うだけでなく、加工の2次産業、流通・販売の3次産業を一体的に行い、～これを農業の6次産業化という。」からみて理解し難い。)	3-(3)	
33	22	4 - 5	情報は利用しても消費されず	生徒にとって理解し難い表現である。 (「消費されず」が理解し難い。)	3-(3)	
34	22	28 - 33	農林水産省では①優良な新品種の知的財産の取得を進めるとともに、②権利侵害が発生した場合警告や差し止めを行うとともに、③海外流出を防止する取り組みが行われるようになった。こ	生徒にとって理解し難い表現である。 (「これらの法律」が理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			これらの法律により、野菜の生産と供給が適切にはかかれるようになる。			
35	24	11 - 12	同じ畑に何年も同じ野菜をつくり続ける連作は、計画的に異なる作物を作付ける輪作 [46ページ11行]同じ野菜を続けて作付けすることを連作といい、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (異なる作物なら同じ科でよいと誤解する。)	3-(3)	
			[46ページ側注1]いくつかの異なる作物を、一定の順序を決めて交替で栽培すること。 [88ページ4～5行]連作やジャガイモ(同じナス科なので)の後作で発生しや			
			すい。			
36	24	15	その病気にかからない台木	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (その病気に全くかからないと誤解する。)	3-(3)	
37	24	29 - 30	植物の新品種の保護に関する国際条約(UPOV②) [側注2]International Union for the Protection of New Varieties of Plants	誤りである。	3-(1)	
38	24	図3	ダイコンの多様な品種群	生徒にとって理解し難い表現である。 (「品種群」が理解し難い。)	3-(3)	
39	25	32 - 33	耕地面積の0.5%(2万3,700ha, 2018年)にすぎない有機農業と組み面積を25%(100万ha)まで拡大する。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
40	26	21 - 22	園芸植物により、精神的な安定を回復させる療法を、園芸療法とよんで、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (精神的な安定を回復させるだけと誤解する。)	3-(3)	
41	30	9 - 11	多くの種子は、光が当たると発芽が悪くなる(暗発芽種子あるいは嫌光性種子)。一方、レタス・ゴボウなどは、弱い光に当たったほうが発芽がよくなる(明発芽種子または好光性種子)。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「あるいは」と「または」の使い分けが理解し難く、「暗発芽種子あるいは嫌光性種子」と「明発芽種子または好光性種子」の2つしかないと誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検定意見書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
42	30	図4	Proc. Amer. Soc. Hort. Sci. vol:23 [33ページ図11]全体 [34ページ図13]全体 [34ページ図14]全体 [35ページ図17]全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			[45ページ表4]全体 [45ページ表5]全体 [46ページ表6]全体 [48ページ12～15行]1985年頃にはガラス温室や大型鉄骨ハウスが全国的に普			
			及した。プラスチックフィルムを用いたハウスは、年々増加し、1999年には、5万1千haをこえたが、それ以降は微減している。 [50ページ表3]全体			
			[50ページ表4]全体 [50ページ表5]全体 [50ページ表6]全体 [53ページ4～7行]東京都の調布に建設したハイドロポニックファーム(1946			
			～1960年)は、世界で最初の生産目的の養液栽培施設とされている。日本と世界の養液栽培は、同施設が出发点となり発展・普及した [56ページ表11]全体			
			[56ページ図16]全体			
43	31	17 - 18	タマネギの球は、葉のつけねが変形・肥大したもの	生徒にとって理解し難い表現である。 ([7行]「葉のつけね(葉えき)のところ」との違いが理解し難い。)	3-(3)	
44	31	図6	[頂端分裂組織]3の記載位置	生徒にとって理解し難い図である。	3-(3)	
45	33	17 - 18	気温が高いときには上方へ多く運ばれ、地温が高いときには根に多く運ばれる(図12)。 [図12]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (図に出典や記載がないことが本文に記載されており理解し難い。)	3-(3)	
			[41ページ16～18行]ナスや訪花昆虫を使う野菜では、果実の色づきが悪くなったり、昆虫が正常に行動できなくなるので、利用できない(図2)。 [41ページ図2]全体			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
46	34	5	支根 [図14]1次支根 [119ページ図2]1次支根	表記の基準によっていない。 (園芸学用語集)	3-(4)	
47	36	3 - 4	低温の影響を受けて花芽分化し、開花する。この現象を春化(バーナリゼーション)という。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (低温の影響のみで花芽分化し、開花することを春化と誤解する。)	3-(3)	
48	41	側注1	篤農家	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
49	42	2 - 3	日本は、北海道から沖縄まで南北の緯度の差が大きいので、気温差も15～20℃にも及ぶ。 [48ページ15～17行]温室の被覆資材は、塩化ビニルが8割を占めているが、	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
			最近では、風に強く光の透過もよいため、長期展張が可能なフッ素樹脂フィルムやポリオレフィン系のフィルムが増加している。 [49ページ18～19行]パイプハウスとよ			
			ばれており、日本のプラスチックハウスの90%以上の面積を占めている。			
50	42	9 - 11	夜間の温度が高いと、呼吸による光合成産物の消耗が激しいが、昼夜の温度差が10℃近くあると、それを防ぐことができる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (昼夜の温度差が10℃近くあると夜間の温度が高くて、呼吸による光合成産物の消耗は激しくないと誤解する。)	3-(3)	
51	42	表1	全体 [44ページ表3]全体	不正確である。 (出典と異なっている。)	3-(1)	
52	43	表2	[ナス ピーマン]病害名 発病適温 [ナス ピーマン]黒枯れ病 [キュウリ]つる枯れ病	不正確である。 (病害名と発病適温は出典と異なり、「黒枯れ病」、「つる枯れ病」は表記が不正確である。)	3-(1)	
53	45	7	土壌中の土(固相)	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
54	45	9 - 11	土の粒子には、一つずつが単独になっている単粒構造と、数個がひとかたまりになっている団粒構造とがある(図7)。 [図7]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (主語述語の関係、図7の写真、図7(b)は数個の土の粒子のかたまりではなく(a)の土の粒子のかたまりとの違いが理解し難い。)	3-(3)	
55	45	表5	全体 [81ページ4行]pHは5.0～7.0 [91ページ3行]pH5.0～7.0 [125ページ3行]pH5～7 [132ページ16行]pHは、5.6～6.8	生徒にとって理解し難い表現、表である。 (表と本文で数値が異なり理解し難い。)	3-(3)	
			[150ページ11行]pHは、5～8 [174ページ16行]pHは、5.5～6.6 [179ページ7～8行]pHは6.0～7.0 [186ページ16～17行]pHは、6.3～7.0 であり、5.5以下では栽培できない。			
			[198ページ17行]pHは6.0～6.5 [213ページ16行]pHは6.0～6.5 [239ページ9～10行]pH5.8～6.1			
56	48	9 - 10	1953年に農業用塩化ビニルが開発	不正確である。	3-(1)	
57	48	図2	(b) 単棟式パイプハウス 1950年から60年代にかけて、ハウスの骨材は割竹や材木が主流であった。	生徒にとって理解し難い表現である。 (図2(a)の説明文と同一であり、[49ページ18～19行]「パイプハウスとよばれており、日本のプラスチックハウスの90%以上現在の面積」からみて理解し難い。)	3-(3)	
58	50	18 - 19	被覆資材だけでは施設内の気温が維持できない季節には、カーテンを併用し、トンネルやべたがけをする	生徒にとって理解し難い表現である。 (「カーテンを併用」と「トンネルやべたがけ」の関係が理解し難い。)	3-(3)	
59	52	表7	水源による分類 ポンプ・水道・落差	生徒にとって理解し難い表現である。 (水源の記載でポンプと落差あることが理解し難い。)	3-(3)	
60	53	6 - 7	日本と世界の養液栽培は、同施設が発点となり発展・普及した(図9, 10)。	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (図9, 10からは記載内容が理解し難い。)	3-(3)	
61	53	図11	出典 [図12]出典 横軸の09と12との間の間隔	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
62	53	図11	みつば いちご	表記が不統一である。 （[12ページ表1 江戸時代]「ミツバ」「イチゴ」と表記が不統一である。）	3-(4)	
63	54	5	固形培地耕こていばいちこう	誤記である。 （こてい）	3-(2)	
64	54	図14	[NFT栽培装置]チャンネル [55ページ3行]ベッドが軽量で、	生徒にとって理解し難い表現、図である。 （チャンネルの説明がないこと、図にベッドがないことが理解し難い。）	3-(3)	
65	58	17	環境にやさしい栽培技術	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （投入コストを考慮しておらず、一般的な地球環境にやさしいものと誤解する。）	3-(3)	
66	60	14	固体	誤記である。	3-(2)	
67	60	23	人為交配 [63ページ17行]人為交配	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （一般的な用語と誤解する。）	3-(3)	
68	62	21 - 22	植物種によっては徐々に近株の勢いがなくなる	生徒にとって理解し難い表現である。 （「近株」が理解し難い。）	3-(3)	
69	63	13 - 15	F1品種には、アメリカ(1920年代)の トウモロコシ品種や、日本(1926)が育 成したナス品種がある。	誤りである。 （日本(1926)）	3-(1)	
70	63	19 - 21	葉菜類では、日本(1938)で育成したキャベツの品種が世界最初のF1品種であり、さらに1950年にハクサイでF1品種が育成された。	誤りである。 （日本(1938)）	3-(1)	
71	65	7 - 8	1960年代には、ポリポットで育苗するポリ鉢育苗が普及した。さらに、1985年頃からセル成型苗が欧米から導入され、 [74ページ表4]全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
72	67	10	ピート	表記が不統一である。 （[73ページ5行]「ピートモス」と表記が不統一である。）	3-(4)	
73	68	表1	全国農業改良普及協会	誤りである。	3-(1)	
74	70	図5	全体	生徒にとって理解し難い図である。 （さしつぎとわりつぎの違いが理解し難い。）	3-(3)	
75	74	2 - 18	栄養繁殖苗の育苗 全体	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （自家増殖の例外等の説明がなく、自家増殖に法的制約がないと誤解する。）	3-(3)	
76	75	16	幼植物を多数得る方法(図10)	生徒にとって理解し難い表現である。 （[図10]「全体」と本文と関係が理解し難い。）	3-(3)	
77	76	8	1990年頃から、農業人口の高齢化と担い手不足が進行した。	誤りである。	3-(1)	
78	80	13	種子の発芽適温は27～30℃である。 [80ページ16～18行]花粉の発芽は15℃以上で行われ、25℃が適温である。35℃以上では花粉が発芽せず、40℃以上では花粉の形成が悪くなる。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			[81ページ図3]全体 [82ページ表1]全体 [83ページ図12]全体 [93ページ表1]全体 [96ページ11～12行]地温は17～24℃が			
			適温である。 [103ページ3行]地温は17～18℃である。 [103ページ図4]全体 [109ページ15～17行]生育初期はpF2.2			
			～2.3とやや控えめにし、生育後期はpF2.0～2.2になるように十分にかん水する。 [113ページ図5]全体 [114ページ2～3行]1棟60～100m ² のス			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			リークオータ型の温室を年4回利用して生産されることが多い。 [114ページ7～8行]栽培規模は、一般的には1人あたりで200m ² が標準である。			
			[118ページ ハウスメロン・マクワ型メロンの履歴書]日本へは、1980年代に導入された。 [119ページ図2]全体 [119 ページ図4]全体			
			[121ページ図8]全体 [121ページ図9]全体 [121ページ図10]全体 [122ページ図11]全体 [124ページ12～13行]夜間は15～18℃			
			程度に下げると充実した雌花がつく。 [124ページ スイカの履歴書]日本には江戸時代に中国から導入された。 [125ページ図4]全体 [125ページ図6]全体			
			[130ページ図17]全体 [131ページ 野菜あれこれ]足軽から大名に出世したスイカ～秀吉にもたとえられた。 [133ページ図3]全体			
			[136ページ12～13行]えき病は、梅雨期に長雨と低温が重なると発生しやすい。斑点細菌病は窒素過多や肥切れ [138ページ12～14行]40℃以上になると花粉の形成が悪くなる。また、開花			
			期は35℃以上では受精障害を起こし、10℃以下では花粉の発芽がおさえられる。雌しべは、-1℃以下の温度で凍害を受ける。 [140ページ図4]全体			
			[141ページ表2]全体 [145ページ表4]全体 [146ページ図22]全体 [148ページ12行]pH4～7			
79	81	図4	出典 [91ページ図3]出典 [97ページ図3]出典 [103ページ図3]出典 [113ページ図3]出典	不正確である。 (出典論文の記載としては不正確である。)	3-(1)	
			[125ページ図3]出典 [139ページ図3]出典 [139ページ表1]出典 [169ページ図14]出典 [179ページ図4]出典			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[187ページ図5]出典 [199ページ図3]出典 [202ページ図13]出典			
80	82	10	オーキシンのホルモン剤	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
81	82	17 - 18	一般に、比較的低温で、十分な光を受けてゆっくり成熟した果実は、全糖含量も多く、食味・品質ともによい(図9)。 [図9] 全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (図9で「比較的低温で、十分な光を受けてゆっくり成熟した果実」「食味・品質ともによい」ことはわからず理解し難い。)	3-(3)	
82	82	図6	全体	誤りである。	3-(1)	
83	82	図7	果皮と果壁の指示位置	生徒にとって理解し難い図である。 (果皮と果壁の違いが理解し難い。)	3-(3)	
84	83	8 - 10	労働時間のめやすは、10aあたり促成栽培で約1,600時間、雨よけ栽培で約750時間とされている。 [84ページ11行]トマト生産の約2割を占める	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
			[89ページ図25]全体 [97ページ12～13行]労力の半分は収穫・選果・出荷である [105ページ12～13行]栽培に要する施設や肥料代などの割合が高く、生産費			
			を多く必要とする。 [120ページ6～7行]栽培に要する労力は、仕立て方や品種によって差があるが、10aあたり320～800時間である。 [126ページ11～12行]大玉スイカの生			
			産量は減少傾向にあり、小玉スイカの生産が増加傾向にある。 [126ページ13～14行]耕地面積の広い畑作地帯の夏野菜としての栽培が多く、			
			[133ページ11～12行]生産費はほかの野菜に比べて少ない [133ページ16～20行]労働時間は10aあたり露地栽培で120時間、トンネル栽培で250時間と少ない。しかし、施設			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			利用の立ち栽培は、10aあたり約1,000～1,300時間と、かなりの労力を要する。 [134ページ3行]カボチャの全生産量の8～9割を占める			
			[141ページ15～16行]1戸あたりの栽培面積は30a程度			
85	84	23 - 24	苗の空間が狭いため老化しやすい	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
86	84		[野菜あれこれ]トマトの消費が多く、南のイタリアでは、日本の約10倍である。調理トマトでつくったケチャップやピューレ、煮ものが「ママの味」となっている。	誤りである。	3-(1)	
87	85	17 - 18	幼苗つぎ・セル成形苗育苗では、高温や弱光になりやすいので、注意が必要である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (高温や弱光になりやすい理由の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
88	85	20 - 21	青枯病や萎ちょう病、ネコブセンチュウなどの土壌伝染性病虫害	生徒にとって理解し難い表現である。 (「土壌伝染性病虫害」は理解し難い。)	3-(3)	
89	87	12	地上部地下部の環境	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
90	87	26	日照や肥料不足のさいに発生するすじ腐れ果	不正確である。 (肥料不足)	3-(1)	
91	88		[野菜あれこれ]トマトの西欧のことわざ そこでトマトを食べる習慣に長い歴史を持つ西欧では、「トマトが赤くなると、医者が青くなる」とか、「トマト	生徒にとって理解し難い表現である。 (「西欧のことわざ」と「長い歴史」が理解し難い。)	3-(3)	
			がある家に胃病なし」などということわざがある。			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
92	89	5	大きさは120～180gのM・L級で、 [表3]全体	生徒にとって理解し難い表現である。 （[84ページ14～15行]「大玉・中玉・小玉トマト」 からみて「大きさは120～180g」「4kg箱詰数」は理 解し難い。）	3-(3)	
93	89	側注1	農薬の使用回数50%以下□	不正確である。 （農薬）	3-(1)	
94	90	図1	全体	生徒にとって理解し難い図である。 （「収量」と「収穫終了」の関係が理解し難い。）	3-(3)	
95	92	図8	博多長なすの写真	誤りである。	3-(1)	
96	93	2	ふた葉□	表記が不統一である。 （[69ページ15行]「子葉」）	3-(4)	
97	94	16	促成栽培は7～8月に種まきをして、 [92ページ図7]促成栽培の種まき	生徒にとって理解し難い表現、図である。 （本文と図で種まきの月が異なり理解し難い。）	3-(3)	
98	94	図10	黒丸と双葉の位置関係 うねの中の黒丸の位置	生徒にとって理解し難い図である。 （双葉と黒丸の位置がずれていることおよび黒丸が うねの右や左に偏っていることが理解し難い。）	3-(3)	
99	94	表3	全体	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （この表の記載以外のものはないと誤解する。）	3-(3)	
100	95	2 - 3	低温期に発生する半身萎ちょう病	生徒にとって理解し難い表現である。 （低温期の温度域が不明で理解し難い。）	3-(3)	
101	95	13 - 15	ナスは開花後12～14日で未熟果を収穫 する(図13)。大きさや品種は地域によ って異なるので、出荷する地方の消費 者の好みで収穫期をかえる。	生徒にとって理解し難い表現である。 （「12～14日で未熟果を収穫する」のに「収穫期を かえる。」ということが理解し難い。）	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
102	95	15 - 16	収量は露地栽培で5～8 t, 施設栽培で10～12 tである [149ページ27行]収量は, 600～800kg	誤りである。 (収量の単位が誤りである。)	3-(1)	
103	96		[ピーマンの履歴書]インドにはいて, 辛みの強いトウガラシに発達した。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (インドでピーマンが辛みの強いトウガラシになったと誤解する。)	3-(3)	
104	97	7 - 8	ピーマンの花は, 長花柱花で, 花粉は風や昆虫に運ばれて受精する(図5)□	生徒にとって理解し難い表現である。 ([図5]「全体」と本文と関係が理解し難い。)	3-(3)	
105	98	18	立枯れ病	誤りである。 (正式な表記ではない。)	3-(1)	
106	98	図7	トンネル栽培 [127ページ図10]トンネル栽培	生徒にとって理解し難い表現である。 ([18ページ図2]全体の作型の種類名と異なり理解し難い。)	3-(3)	
107	99	12	うね幅130cm [図8]全体 [129ページ2～3行]うね間240cm, 株間75cmに植える(図15)。	生徒にとって理解し難い表現, 図である。 (うね間とうね幅の違いが理解し難い。)	3-(3)	
			[129ページ図15]全体 [149ページ16行]うね幅110cm [182ページ表3]うね幅			
			[182ページ図12]全体 [189ページ3行]うね幅45～60cm [189ページ4～5行]うね幅90～140cmの2条まき, 180cmの4条まき			
			[189ページ図12]全体			
108	99	15	分枝点	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
109	100	20	ビニルハウス [106ページ13行]ビニルハウス	生徒にとって理解し難い表現である。 （[49ページ15行]「プラスチックハウス」や[49ページ18行]「パイプハウス」との使い分け方が理解し難い。）	3-(3)	
110	101	17	葉茎の勢い	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
111	105	16	キュウリは全生育期間が、夏は3～4か月 [106ページ図13]全体	生徒にとって理解し難い表現，図である。 （本文と図で全生育期間が異なり理解し難い。）	3-(3)	
112	105	図11	追肥とその他のデータ	不正確である。	3-(1)	
113	106	14	収穫期間を長くするため加温することもある(図13)。 [図13]全体	生徒にとって理解し難い表現，図である。 （図に加温がなく理解し難い。）	3-(3)	
114	111	20	つる下げ。	生徒にとって理解し難い表現である。 （説明がなく理解し難い。）	3-(3)	
115	115	9	強いしゃ光は飛び節の原因となる。□	生徒にとって理解し難い表現である。 （しゃ光を行うという説明がなく，「飛び節」の説明がなく，理解し難い。）	3-(3)	
116	116	7	1日1株あたり，1.2Lの吸水がある。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 （生育時期や天候によらず一定と誤解する。）	3-(3)	
117	116	16	土壌伝染性の病害虫	生徒にとって理解し難い表現である。 （土壌伝染性の害虫が理解し難い。）	3-(3)	
118	117	11	モールドパック	生徒にとって理解し難い表現である。 （説明がなく理解し難い。）	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
119	118		[ハウスメロン・マクワ型メロンの履歴書]ハウスメロンは、中近東の砂漠地が原産。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([112ページ温室メロンの履歴書]「アフリカ原産」と異なることおよび温室メロンとハウスメロンとの違いの説明がないことが理解し難い。)	3-(3)	
120	119	6 - 8	受粉は、気温が15℃をめやすにし、これ以上高ければ早朝から始め、午前中に終わらせる。気温が25℃以上になると花粉の活力が低下するので、着果しにくくなる	生徒にとって理解し難い表現である。 (主語述語の関係、15℃未満の場合どうするのか、花粉の活性は何か理解し難い。)	3-(3)	
121	119	8 - 9	栽培規模が大きいときは、ミツバチやマルハナバチなどの訪花昆虫を利用して受精をはかる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (訪花昆虫が直接受精をはかるおよびすべてのマルハナバチが制限なく利用できるかと誤解する。)	3-(3)	
122	121	表1	[液肥2号(10-4-8)]全量42 追肥48	誤りである。	3-(1)	
123	123	3 - 4	外観からみても、ネットの有無、果皮の色、果肉の色、肉質・糖度などが大きく違う	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (外観からみて果肉の色、肉質・糖度が違うことがわかると誤解する。)	3-(3)	
124	123	18 - 27	1. 温室メロンの着花節位と～③13～15節着花 2. 温室メロンのかん水量を～なるだろうか。 [表2]温室メロン(アンデス・タカミ・クインシー)	生徒にとって理解し難い表現である。 ([118ページ]「5-2 ハウスメロン・マクワ型メロン」の項目内に温室メロンに関する記載があることが理解し難い。)	3-(3)	
125	124	12	生育の適温は25～32℃ [125ページ図2]生育適温(昼間)の温度域	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (適温の範囲が異なり理解し難い。)	3-(3)	
126	129	2 - 10	半促成栽培・トンネル栽培・露地栽培では～子づる3～4本仕立てとする。～促成栽培・抑制栽培では、親づる1本仕立てで、～30節前後で摘心する。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (作型によって仕立て方等が決まっていると誤解する。)	3-(3)	
127	129	5	つる戻し	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
128	130	6	花落ち部	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
129	132	9	日本カボチャ [9～10行]西洋カボチャ [カボチャの履歴書]日本カボチャ [カボチャの履歴書]西洋カボチャ [134ページ2行]西洋カボチャ	不正確である。 (作物名の表記として不正確である。)	3-(1)	
			[134ページ7行]日本カボチャ [134ページ8行]日本カボチャ [134ページ図7]西洋カボチャ [134ページ図8]日本カボチャ [137ページ17行]西洋カボチャ			
			[137ページ17行]日本カボチャ [137ページ図14]西洋カボチャ [137ページ図14]日本カボチャ [137ページ図15]西洋カボチャ			
130	132		[カボチャの履歴書]日本カボチャは～ 日本には江戸時代前期に伝わった。西 洋カボチャ～明治初期に日本に渡来し た。	不正確である。	3-(1)	
131	134	8	土着品種	生徒にとって理解し難い表現である。 ([14ページ16～17行]「地方野菜」との違いが理解 し難い。)	3-(3)	
132	136	2 - 6	暖地を中心に無加温の施設で、軟質フ ィルムを用いた多重被覆によるハウス 促成・半促成栽培がある。促成栽培で は9月下旬に種まきをして、植え付け は11月下旬、収穫は1月上旬から6月ま	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (本文と図8の記載が異なり理解し難い。)	3-(3)	
			で行われる。半促成栽培では、1月に 種まき、2月に二重トンネル内に植え 付け、5月から7月初めにかけて収穫す る。 [134ページ図8]全体			
133	136	15 - 16	害虫は～予防を中心として管理する。 [211ページ7～9行]おもな害虫～予防 を中心として管理する	生徒にとって理解し難い表現である。 (予防を中心とした管理の具体的な方法について記 載されておらず理解し難い。)	3-(3)	
134	136	図12	えびすの例 みやこの例 [図13]えびすの例 みやこの例	生徒にとって理解し難い表現である。 (「えびす」「みやこ」の記載理由が理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
135	137	図14	全体 [177ページ図8]全体 [191ページ図16]全体 [197ページ図13]全体 [212ページ図12]全体	生徒にとって理解し難い図である。 (出典や最大値の記載がなく理解し難い。)	3-(3)	
			[214ページ図3]全体			
136	138	11 - 14	温度と生育との関係は、図2のとおりで、花粉が形成される時期は高温に弱く、40℃以上になると花粉形成が悪くなる。また、開花期は35℃以上では受精障害を起こし、10℃以下では花粉の	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (図2から記載内容はわからない。)	3-(3)	
			発芽がおさえられる。雌しべは、-1℃以下の温度で凍害を受ける。 [139ページ図2]全体			
137	138		[イチゴの履歴書]現在のイチゴは、コロンブスによってヨーロッパに伝えられたバージニアイチゴとチリイチゴをもとに育成された。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (コロンブスが伝えたイチゴから育成したと誤解する。)	3-(3)	
138	139	1 - 3	日長の影響は、短日になると花芽が分化する。そのときの気温が低すぎたり高すぎたりすると、花芽は分化しない。長日条件下では、花芽分化が抑制される。	生徒にとって理解し難い表現である。 (花芽分化に関する日長や温度の影響の記載内容が異なり理解し難い。)	3-(3)	
			[15～21行]花芽分化 全体			
139	141	図8	[糖度(%)]2.1	誤りである。 (出典がなく、「2.1」は誤りである。)	3-(1)	
140	141	側注1	指定野菜及び指定野菜に準ずる野菜の作付面積、収穫量及び出荷量	不正確である。	3-(1)	
141	142	5	休眠を少しする品種 [10行]休眠の少ない品種 [16行]あまり休眠しない品種	生徒にとって理解し難い表現である。 (用語の使い分け理由が理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
142	142	6	夜冷育苗 [143ページ18行]夜冷短日処理	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (両用語の違いが理解し難い。)	3-(3)	
143	142	9 - 13	半促成栽培 ハウスやトンネルで栽培し、露地栽培よりも1~2か月程度早く収穫する作型である。休眠の少ない品種を用いる場合は、11月下旬に保温をして、3~6月頃まで収穫する。	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (本文間および本文と図との間の記載が異なっており理解し難い。)	3-(3)	
			露地栽培 自然条件で栽培し、5~7月頃に収穫する作型である。寒冷地では6~7月の遅出し栽培を行っている。 [図10]全体 [143ページ12~13行]苗とりは、促成			
			用は7月に、半促成・露地用は8月に行う。 [144ページ10~11行]促成栽培は9月上・中旬、半促成栽培や露地栽培は10月上・中旬が適期である。			
			[145ページ4~5行]半促成栽培では、麗紅など、休眠のやや深い品種は、11月下旬から保温を行う。			
144	145	4	麗紅など、休眠のやや深い品種	誤りである。	3-(1)	
145	146	3 - 6	おもな病害虫は、うどんこ病・灰色かび病・炭そ病(図20)・アブラムシ類・ハダニ類などで、これらは農薬散布で防除するとともに、雨よけ育苗・天敵なども活用する。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (記載の病害虫すべてに雨よけ育苗が有効と誤解する。)	3-(3)	
146	147	4 - 5	鮮度を保つために、イチゴでは予冷出荷が欠かせない。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (イチゴでは予冷しなければ出荷できないと誤解する。)	3-(3)	
147	148	21 - 22	もぎとり機	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
148	149	16 - 17	うね幅110cm, 株間15cmで4~6条, 2本植とする。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (記載の方法しかないと誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
149	149	23	播種後75～85日で収穫期となる。 [図3]全体	生徒にとって理解し難い表現，図である。 (本文と図との間の記載が異なっており理解し難い。)	3-(3)	
150	150		[スイートコーンの履歴書]日本には明治時代にアメリカ合衆国から導入された。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (明治時代にはじめて導入されたと誤解する。)	3-(3)	
151	151	12	作型を少しずつづらして	生徒にとって理解し難い表現である。 ([152ページ図6]「全体」からみて「作型を少しずつづらして」が理解し難い。)	3-(3)	
152	153	2	生育が早いので多肥栽培とする。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (多肥栽培の理由を誤解する。)	3-(3)	
153	153	19 - 20	苗立枯病は，種まき後の低温により発芽障害を受けた場合に発生しやすい。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (高温で発生しやすいものがないと誤解する。)	3-(3)	
154	156		[キャベツの履歴書]日本には明治初年の開拓使とともに導入され，	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (明治初年にはじめて導入されたと誤解する。)	3-(3)	
155	157	5 - 6	光飽和点は4万lx程度である。 [157ページ図3]全体 [165ページ11行]光飽和点も4万lxと低い [165ページ16行]pHは，6.5～7.5	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			[165ページ図3]全体 [166ページ16～17行]およそ平均気温12℃なら1～2週間で分化する [168ページ8～9行]ハクサイの品種は，チーフー・ホウトウレン・愛知・加			
			賀の4群に分けることができる [172ページ7～8行]種子の発芽適温は15～25℃，生育適温は23～27℃で，耐暑性が強い。最低気温は，3℃あれば生育可能である。			
			[175ページ1～2行]花らいの発育適温は，早生品種では15～20℃，中・晩生品種では10～15℃である。 [175ページ4～6行]花らいの発育中に30℃以上の高温に連続してあうと，花			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			らいのあいだに小さな葉がでたり(リーフィー)、つぼみが枯死しかつ変したりする(ブラウンビーズ)ことがある。 [175ページ表1]全体			
			[179ページ図3]全体 [187ページ図3]全体 [193ページ1行]光合成の光飽和点が4万lx [199ページ15～16行]外温が17℃以上			
			になると休眠からさめて、 [202ページ12～14行]リン酸は根張りをよくするため、苗床から越冬時まで必要である。また、カリは球の肥大をよくする働きがある。			
156	159	3	ばれいしょ [222ページ図5]バレイショ	表記が不統一である。 ([12ページ表1 鎌倉～桃山時代d]「ジャガイモ」と表記が不統一である。)	3-(4)	
157	159	6 - 7	おもな産地としては、夏は群馬・北海道・長野、冬は愛知・千葉、春は千葉・神奈川などである。 [159ページ15行]機械化すると約1/3の労働時間ですむ。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
			[160ページ表2]全体 [167ページ2～3行]ハクサイの作付面積は、野菜のなかではダイコンやキャベツについて多い [167ページ10～11行]冬どりが10aあた			
			り120時間程度であり、夏どりでは冬どりの約50%である。 [167ページ11～13行]最近では、セル成型苗を利用した移植機の導入が進んでいる。移植機による定植作業時間は			
			手植えに比べ、1/4～1/6に省力化できる(図10)。 [175ページ11～12行]労力は10aあたり140～160時間 [177ページ18行]10aあたり1tが一般的			
			な収穫量である。 [180ページ7～9行]労働時間は、夏どり栽培で10aあたり80～100時間と少ないが、収穫・調整・出荷が大部分である。			
			[190ページ14～15行]ホウレンソウは、カロテンと鉄を多く含む野菜で、とくに秋まき栽培のほうが春・夏まき栽培に比べ栄養価が高い。			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
158	159	図7	写真 自然条件をいかした広大な土地における粗放露地栽培	生徒にとって理解し難い表現、写真である。□ (写真から粗放栽培であることはわからない。)	3-(3)	
159	160	27 - 31	強い雨などに当たると病害発生の原因となるので、寒冷しゃなどで苗床を被覆する(図10)。 [図10]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (本文と図の関係が理解し難い。)	3-(3)	
160	161	14	植え付け距離	生徒にとって理解し難い表現、図である。 ([152ページ図7]「条間」「株間」と異なり理解し難い。)	3-(3)	
161	162	4	土のpHを適正な範囲になおしたり、	生徒にとって理解し難い表現である。 (「適正な範囲」が理解し難い。)	3-(3)	
162	167	4 - 5	約66%	誤りである。	3-(1)	
163	167	図8	[横軸]2015年と2018年の間隔	誤りである。	3-(1)	
164	169	3	直まき育苗 うね幅と株間の標準は表1のとおりである。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([表1]全体から見て「育苗」が理解し難い。)	3-(3)	
165	169	14 - 15	施肥量は、10aあたり窒素20～25kg、～標準である(表2)。 [表2 成分量]窒素25.72 [176ページ14～15行]施肥のめやすは	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (本文の数値と図の数値が異なり理解し難い。)	3-(3)	
			, 10aあたり窒素25～30kg, リン酸15～20kg, カリ20～25kgとし, [176ページ表2 成分量]全体			
166	172	16 - 18	出荷の最盛期は3～5月および10～12月であるが、近年、周年で平準化している(図1)。 [図1]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (「最盛期は3～5月および10～12月」と図が異なり理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
167	176	9	自動移植機に対応したセルトレイ(128穴)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「セルトレイ(128穴)」だけと誤解する。)	3-(3)	
168	178	10	一般に、本葉15~20枚くらいの若い時期に収穫する。 [185ページ7行]葉が15枚程度で収穫し	生徒にとって理解し難い表現である。 (葉数が異なり理解し難い。)	3-(3)	
169	179	14 - 16	レタスは一定の大きさになると、高温に感応して花芽分化を起こす。感応する苗の大きさは、茎の太さが0.7~0.8cm以上とされる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (高温でしか花芽分化を起こさないと誤解する。)	3-(3)	
170	181	31 - 32	赤い葉の玉レタスであるトレビス、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (トレビスがレタスであると誤解する。)	3-(3)	
171	182	表3	[サラダナ]全体	誤りである。 (記載の数値では計算が合わない。)	3-(1)	
172	187	2 - 3	ハウレンソウは、代表的な長日植物で13~16時間以上の日長になると花芽分化する。	誤りである。 (13~16時間以上の日長が花芽分化する条件ではない。)	3-(1)	
173	187	図2	生育限界温度	生徒が誤解するおそれのある表現である。 ([186ページ11行]「-10℃の低温まで耐えられる。」から生育できる限界温度であることが理解し難い。)	3-(3)	
174	188	3	秋冬どり栽培 [12行]秋冬栽培 [13行]春・夏栽培	生徒にとって理解し難い表現である。 ([図9 作型]「秋まき栽培」[表1 西洋種]「春まき・夏まき」との違いが理解し難い。)	3-(3)	
175	189	17 - 18	間引きは、2回行う。1回目は、本葉が1~2枚の頃に3cm間隔に間引き、2回目は、本葉が4~5枚の頃に6cm間隔に間引く。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([6行]「10~15cmの株間」および[図12]「全体」からみて「3cm間隔」、「6cm間隔」が理解し難い。)	3-(3)	
176	191	表3	洗いすぎり	生徒にとって理解し難い表現である。 (「洗いすぎり」が理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
177	195	5 - 6	育苗期間は、春まきで約90日、秋まきで約160日くらいである。 [図7 秋まき夏秋どり]種まきから植え付けまでの期間 [図7 初夏どり]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (本文と図で育苗期間が異なっていること、および初夏どりの図で種まきがなく育苗期間が不明なことが理解し難い。)	3-(3)	
178	196	19	株分け数を多くする	生徒にとって理解し難い表現である。 (「株分け数」が理解し難い。)	3-(3)	
179	200	3	63%	誤りである。	3-(1)	
180	204	5 - 6	出荷は、20kg詰めの段ボール箱または網袋に入れて行う(表4)。 [表4]容器はダンボール箱・ネット袋とし、量目は販売時に10kg、15kgを標準とする。	生徒にとって理解し難い表現、表である。□ (「20kg詰め」と「量目は販売時に10kg、15kg」の関係、「段ボール箱または網袋」と「ダンボール箱・ネット袋」の使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
181	207	8	pHは5.8～6.8 [214 ページ7～9行]およそ10℃くらいの低温に、7～10日間連続してあうと、長根種の金時では葉数3～7枚、短根種では4～9枚くらいの株が感応する。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
182	207	12	低温適応性	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
183	207	17 - 18	その表面の皮層が裂けて脱皮し、	生徒にとって理解し難い表現である。 ([206ページ5行]「直根の初生皮層がはがれ」との関係が理解し難い。)	3-(3)	
184	208	6 - 8	夏季の高温期に需要が低迷するため、一般に夏どり栽培で単価は低く、反対に、需要が多くなる冬から春は単価が高くなる傾向がある(図5)。	誤りである。 (図5の卸売価格の推移と異なっている。)	3-(1)	
185	208	10 - 11	一般に、単位面積あたりの粗収益は少なく、大面積経営に適する野菜である。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (単位面積当たりの粗収益が少ないと大面積経営に適すると誤解する。)	3-(3)	
186	209	3 - 6	品種の特徴を、根の形・大きさ、肥大する位置で示したのが図7である。現在の主要品種の大部分は、みの早生群・宮重群・練馬群・聖護院群、二年子・時無群のいずれかにはいる。	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (本文と品種群と図の品種が異なり理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[図7]全体			
187	209	7 - 8	青首系ダイコンは、もともと秋ダイコンの宮重総太り系が大部分である	生徒にとって理解し難い表現である。 (「青首系」と「宮重総太り系」の関係が理解し難い。)	3-(3)	
188	211	7 - 8	シンクイムシ・サルハムシ	不正確である。 (正式名称でない。)	3-(1)	
189	213	4 - 5	120～150日くらいで収穫できる(図1)。 [218ページ11～12行]収穫時期は、作型や品種によって異なるが、播種後、およそ100～150日目である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (日数が異なっており、理解し難い。)	3-(3)	
190	215	5	5～6月の単価が高くなる傾向がある。 [図7]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (本文と図で高くなる時期が異なり理解し難い。)	3-(3)	
191	215	9 - 11	1農家あたりの適正栽培面積は、30～60a程度である。10aあたりの労働時間は約150時間	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
192	217	表2	[金時]全体	誤りである。 (記載の数値では計算が合わない。)	3-(1)	
193	220	図1	2008年の国産青果のデータ	誤りである。 (出典にないデータである。)	3-(1)	
194	221	19 - 20	生産者の手取り価格は、卸売価格から手数料と出荷経費を差し引いたもので、小売価格の10～50%となる。 [222ページ14～15行]流通経費の占める割合は小売価格の50～60%になる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「生産者の手取り価格は小売価格の10～50%」と「流通経費の占める割合は小売価格の50～60%」の関係が理解し難い。)	3-(3)	
195	222	5	集出荷販売経費 [図5]集出荷・販売経費	表記が不統一である。	3-(4)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
196	222	13 - 15	仲卸経費は卸売価格の10～15%、小売経費は仲卸価格の30%程度が加わるため、流通経費の占める割合は小売価格の50～60%になる。 [232ページ図7]全体	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
			[233ページ図9]全体			
197	222	26 - 27	高値のときには、緊急輸入を行って市場価格を引き下げるなどして、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (市場価格を引き下げるのは緊急輸入だけと誤解する。)	3-(3)	
198	222	図5	全体	生徒にとって理解し難い図である。 (横軸の数値や単位がなく理解し難い。) □	3-(3)	
199	223	7	光合成作用	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
200	223	10	(図3)	誤りである。	3-(1)	
201	223	14 - 15	野菜はその重さの約90%が水分である	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (すべての野菜が約90%が水分であると誤解する。)	3-(3)	
202	223	表4	蒸散の形	生徒にとって理解し難い表現である。 (「蒸散の形」が理解し難い。)	3-(3)	
203	223	表4	全体 [234ページ表4]全体 [236ページ9行]25℃以上でおう盛な生育を示す [237ページ9行]生育適温は15～25℃	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			[237ページ9～10行]pHは、6.0～6.5 [238ページ8行]生育適温は20～30℃ [239ページ7～9行]発芽適温は25～30℃、ほう芽の最低気温は5℃であるが、伸長には10℃以上の温度が必要であ			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			る。生育の適温は16～20℃ [239ページ グリーンアスパラガスの履歴書]グリーンアスパラガスが広がったのは、1964年（昭和39年）以降である。			
			[242ページ]⑦施設園芸面積の推移 [242ページ]⑧主要野菜の種まき量と種子粒数 [244ページ]⑩主要野菜の温度環境特性と種子の発芽試験法			
204	225	7 - 8	完全に包装してしまうと、呼吸による二酸化炭素の逃げ道がなくなり、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (完全に包装するだけで二酸化炭素の逃げ道がなくなると誤解する。)	3-(3)	
205	226	図1	我が国の食料消費の将来設計	誤りである。	3-(1)	
206	226	図3	<input type="checkbox"/> 加工用・業務用 <input checked="" type="checkbox"/> 家計消費用 用途別主要野菜に占める国産の割合	誤りである。 ([12行]「加工・業務用需要における主要野菜の国産品割合」と異なる。)	3-(1)	
207	227	6 - 7	近年における野菜の輸入量は、新鮮、加工品を合わせて260～290万t程度で推移している①。 [側注1]農林水産省「令和元年青果物卸売市場調査報告」	誤りである。 (出典、260～290万t程度)	3-(1)	
208	229	図5	全体	生徒にとって理解し難い図である。 (「生産者から消費者までのサプライチェーン」と記載があるのに消費者が図内にない。)	3-(3)	
209	231	12 - 14	施設をもつことが経営を安定するためにきわめて有効な方法であるため、広く普及している(図2, 3)。 [図2]全体 [図3]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (図2, 図3から広く普及していることが理解し難く、また「農業構造動態調査」は2000年と2015年のデータはなく、2000年と2015年のデータとタイトルの農家数の推移(2019)の関係が理解し難い。)	3-(3)	
210	231	16 - 17	葉根菜類の露地栽培が適している。機械化によって省力化したり(図4)、 [図4]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (図4は葉根菜類の露地栽培の機械化ではなく理解し難い。)	3-(3)	
211	231	表3	[キュウリ 変化した栽培・流通内容] 環境抑制技術	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
212	233	9 - 13	いずれの栽培でも、最も多いのが収穫作業を主体とする労働費である。家族労働では労働の対価がはっきりしないが、雇用労働を主体とする大規模経営では労働費がかさみ、深刻な問題である。	生徒にとって理解し難い表現である。 [232ページ図7]全体[233ページ図9]全体からは本文内容がわからず理解し難い。）	3-(3)	
			る。 [234ページ2～3行]野菜の生産費のなかで、労働費はつねに大きな割合を占めている。			
213	236	2	ハーブ(バジル)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ハーブの別名をバジルと誤解する。)	3-(3)	
214	237	16	床幅	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
215	238	11	長形型と短径型があり	生徒にとって理解し難い表現である。 (「長形型」と「短径型」が理解し難い。)	3-(3)	
216	238	15 - 16	72穴セルトレイに播種し、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「72穴セルトレイ」だけと誤解する。)	3-(3)	
217	238	29	一般に、長さ30cm、重さ300gをめやすに	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (長形型と短径型の共通のめやすと誤解する。)	3-(3)	
218	239	1	グリーンアスパラガス	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (作物名と誤解する。)	3-(3)	
219	239	17 - 18	72穴セルトレイに	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「72穴セルトレイ」だけと誤解する。)	3-(3)	
220	239	図1	作型	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-2		学校 高等学校		教科 農業	種目 野菜	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
221	240		[北海道]夕張メロン [東北]秋田大落 [関東]落合胡瓜 金時サツマイモ [北陸]銀泉甘瓜 [東海]橋田なす だるま	不正確である。	3-(1)	
			[近畿]貝塚早生 [中国]らくだ 玉ラッキョウ [四国]なると金時 十市在来			
222	241		[天敵昆虫]スリップス(アザミウマ)2 か所 [しゃへい効果]スリップス	表記が不統一である。 ([光線選択]「アザミウマ類」と表記が不統一である。)	3-(4)	
223	241		[シュードモナス フルオレッセンス] トマト萎ちょう病 [パーティシリウムレカニ]アブラムシ 類	不正確である。	3-(1)	
224	243		[ジャガイモ C]25 [サツマイモ C]28 「β-カロテン」とそれらの値	誤りである。 (25と28は誤りで、β-カロテンは[17ページ表3]「 ビタミンAはβ-カロテン当量の値」と異なっている。 。)	3-(1)	
225	246		[な]長花柱花	誤りである。	3-(1)	
226	裏見返 10		[中段中]アブラムシによる食害 写真全体	生徒にとって理解し難い表現、写真である。□ (食害の写真であることが理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	表見返 6		[ナシ]ビヤクシン	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
2	8	11 - 12	世界には約2,800種の果樹が存在するとされているが、実際に日本で栽培・利用されているものは約120種程度である。 [16ページ14～15行]1人・1日あたりの	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			果実供給粗食量は2019年には127g [18ページ6～8行]2019年度における日本の果樹産出額は8,399億円であり、農業総産出額(88,938億円)の構成比では、約9.4%になっている。			
3	8	図1	全体	生徒にとって理解し難い図である。 (出典の入荷量と凡例の分け方の基準が理解し難い。)	3-(3)	
4	8	図1	オウトウ [9ページ表1]オウトウ [12ページ表2]甘果オウトウ [15ページ表2]オウトウ [17ページ18行]オウトウ	生徒にとって理解し難い表現である。 (オウトウと甘果オウトウの使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
			[17ページ表3]オウトウ [27ページ表1]甘果オウトウ [29ページ表2]オウトウ [32ページ図11]オウトウ [32ページ表3]甘果オウトウ			
			[35ページ表1]甘果オウトウ [45ページ表2]甘果オウトウ 2か所 [49ページ表1]甘果オウトウ [59ページ表1]甘果オウトウ [62ページ表2]甘果オウトウ 2か所			
			[63ページ表1]甘果オウトウ 2か所 [71ページ表1]甘果オウトウ 2か所 [74ページ表1]甘果オウトウ [79ページ表1]パクロブトラゾール, エテホン, シアナミド]オウトウ			
			[81ページ2行]甘果オウトウ [81ページ3行]甘果オウトウ [81ページ4行]甘果オウトウ [81ページ表1]甘果オウトウ [81ページ表2]甘果オウトウ			
			[220ページ1行]オウトウ [220ページ3行]甘果オウトウ [221ページ2行]甘果オウトウ [221ページやってみよう]甘果オウトウ			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[222ページ2行]甘果オウトウ [222ページ13行]甘果オウトウ			
5	10	図2	さじょう	生徒にとって理解し難い図である。 (さじょうがどの部位であるかが理解し難い。)	3-(3)	
6	11	3 - 4	クリ・クルミ・アーモンド(図8)などは、～子房壁は肥大せず、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (アーモンドは子房壁が肥大しないと誤解する。)	3-(3)	
7	12	8 - 10	堅果類には、ほかの果実に比べ、デンプン・タンパク質・脂質が多く含まれている(表2)。 [表2]全体	生徒にとって理解し難い表現、表である。 (表2にデンプン・タンパク質・脂質がなく理解し難い。)	3-(3)	
8	12	表2	クリの糖はデンプンを示す。	生徒にとって理解し難い表現である。 (表に糖がなく理解し難い。)	3-(3)	
9	13	図11	農漁業	生徒にとって理解し難い図である。 ([3行]「農林水産業から出荷された食品原料」からみて「農漁業」が理解し難い。)	3-(3)	
10	14	図1	全体	誤りである。	3-(1)	
11	14	表1	生産量 全体 オレンジとブドウの主要生産国	誤りである。	3-(1)	
12	15	4 - 6	日本の果樹の栽培面積は1973年、生産量は1975年をピークに減少し、2019年の栽培面積は1973年の約43%に、生産量は1975年の約35%になっている(図2①)	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (ピーク年次と43%が出典と異なり、図2から1973年と1975年がピークであることが理解し難い。)	3-(3)	
			[図2]全体			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
13	15	6	図2① [14行]図2② [図2]全体	生徒にとって理解し難い表現，図である。 (図2に①と②がなく理解し難い。)	3-(3)	
14	15	21	わい化(低樹高)栽培	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (わい化栽培だけが低樹高栽培と誤解する。)	3-(3)	
15	15	図2	15年と19年の間隔 [86ページ図2]15年と19年の間隔 [108ページ図1]15年と19年の間隔 [132ページ図1]15年と19年の間隔 [185ページ図2]15年と19年の間隔	誤りである。	3-(1)	
			[200ページ図2]15年と19年の間隔			
16	15	表2	[タイトル]栽培面積 [ブドウ]16,000 [モモ]9,500	誤りである。	3-(1)	
17	16	1 - 2	二ホンナシは，二十世紀が中心であったが，最近では幸水と豊水が多くなっている。 [3～6行]ブドウの生産量は，カキより少ないが，大粒系で無核栽培が可能な	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
			巨峰やピオーネ，最近ではシャインマスカットが消費者に受け入れられ，これまでデラウェアでも実施されてきた施設栽培が増加した。			
18	16	13	「毎日くだもの200g運動」	不正確である。	3-(1)	
19	16	15	粗食量	誤記である。	3-(2)	
20	16	20 - 21	経営規模が小さく，集約技術によって営まれている	生徒にとって理解し難い表現である。 (「集約技術」が理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
21	16	図3	全体	誤りである。 (出典がなく、下図のPとFが増加しCが同じということが誤りである。)	3-(1)	
22	16	図4	イタリア, メキシコ, 中国, スペイン, アメリカ, オーストラリア, インド, 韓国 の数値	不正確である。	3-(1)	
23	17	図5	(年度)	誤りである。	3-(1)	
24	17	図5	ナシ パイナップル サクランボ	表記が不統一である。 ([7行]ニホンナシ[16行]パイナップル[16行]オウトウと表記が不統一である。)	3-(4)	
25	17	図5	グレープフルーツ・ポメロ	生徒にとって理解し難い表現である。 (出典に「ポメロ」がなく理解し難い。)	3-(3)	
26	18	図6	全体	生徒にとって理解し難い図である。 (果実摂取量が果実供給量より多い年次があることが理解し難い。)	3-(3)	
27	18	表4	[山形]28.9	誤りである。	3-(1)	
28	20	20	精神医療(園芸セラピー)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (精神医療を園芸セラピーと誤解する。)	3-(3)	
29	29	表2	全体 [30ページ図6]全体 [31ページ図10]全体 [33ページ図13]全体 [35ページ6～7行]落葉果樹の芽の休眠	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			を打破するには、一般に7℃以下の低温に一定時間おかれる必要がある。 [38ページ11～14行]カリウムは、頂端分裂組織、形成層、花の形成される部分、果実などに多く含まれている。と			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			くに、果実には窒素の1.5～3.0倍(全灰分の30～60%)も含まれていて実肥(玉肥)とよばれている。 [39ページ表4]全体 [40ページ図8]全体			
30	33	4	発芽	生徒にとって理解し難い表現である。 ([27ページ15行]「萌芽」との使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
31	35	表1	全体	生徒にとって理解し難い表である。 (主要産地が15ページ表2と異なり、また気温や降水量の測定地点が不明であり理解し難い。)	3-(3)	
32	35	表2	[カンキツ類57%]46 [カンキツ類77%]50	生徒にとって理解し難い表である。 (しゃ光の程度が大きい方が乾物重が大きいことが理解し難い。)	3-(3)	
33	37	4	16元素 [表3]全体	誤りである。	3-(1)	
34	38	1 - 3	リン酸は、～根の生育や開花結実を促す(根肥、実肥)。 [11～14行]カリウムは、～実肥(玉肥)とよばれている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (一般にリン酸は根肥、実肥と、カリウムは実肥、玉肥といわれていると誤解する。)	3-(3)	
35	43	5	高接ぎ	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
36	44	6 - 7	適度の湿度を含んだ砂か土壤中に貯蔵	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (砂か土壤中だけに貯蔵と誤解する。)	3-(3)	
37	45	表2	全体 [49ページ表1]全体 [51ページ図1]全体 [53ページ図6]全体 [54ページ図9]全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			[55ページ図10]全体 [57ページ図1]全体 [59ページ5行]日本の年平均降水量は1,700mmほど [59ページ図1]全体			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[63ページ表1]全体 [66ページ表1]全体 [67ページ表2]全体 [69ページ図6]全体 [74ページ表1]全体			
			[81ページ表2]全体			
38	46	図10	[(a)圧条法 1年目の秋]1回目 2回目□	生徒にとって理解し難い表現である。 (1回目, 2回目が何であるかが理解し難い。)	3-(3)	
39	48	15	石灰類 [49ページ17行]石灰 [55ページ10行]石灰質資材 [55ページ12~13行]石灰質資材 [55ページ表3]石灰質資材	生徒にとって理解し難い表現である。 ([55ページ5行]「石灰質肥料」との使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
			[167ページ2行]石灰 [167ページ5行]石灰 [190ページ側注1]石灰質資材			
40	50	12	腐植 [52ページ4行]腐植 [52ページ11行]腐植 [52ページ図2]腐植	生徒にとって理解し難い表現である。 ([52ページ4行]「有機物」との使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
41	50	12 - 13	腐植に富み, 団粒化した土壌に入れかえる(客土)。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (土壌を入れかえることを客土という誤解する。)	3-(3)	
42	50	図5	[実施年]1.5~2m	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全て1.5~2mで切ると誤解する。)	3-(3)	
43	62	10 - 11	明きよ	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
44	64	5 - 6	マメコバチ(ツツハナバチ)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (マメコバチとツツハナバチが同じと誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
45	65	側注1	MCPB	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
46	66	表1	[ウンシュウミカン(早生)]30~35葉 [ウンシュウミカン(普通)]25~30葉 [67ページ表2 ウンシュウミカン]25~30 [92ページ11行]ウンシュウミカンで25	生徒にとって理解し難い表現である。 ([66ページ表1]全体 と他の記載部分の数値が異なり理解し難い。)	3-(3)	
			~30枚 [リンゴ(つがる)]3~4頂芽に1果, 25~30葉 [リンゴ(ふじ)]4~5頂芽に1果, 40~			
			50葉 [67ページ表2 リンゴ]25~50 [115ページ12~14行]1頂芽の健全葉を10~15枚程度とすると, つがる・紅玉などは3~4頂芽に1果, ふじ・陸奥な			
			どは4~5頂芽に1果 [モモ]1回目は満開20~30日後, 2回目は満開40~50日後, 晩生品種では70~80日後に3回目を行う。			
			[モモ(早生)]30~40葉 [モモ(中生)]40~50葉 [モモ(晩生)]50~60葉 [67ページ表2 モモ]30~60 [189ページ9~10行]一般に摘果は2回			
			に分けて行い, 満開後20~30日までに予備摘果をする [189ページ11~12行]ついで満開後40~50日までに, 葉果比を早生品種で40~50, 中生品種で50~60, 晩生品種で			
			60~70			
47	68	7 - 8	芽の構造[葉芽・花芽・中間芽(発育初期は葉芽か花芽か区別できないもの)](図1), [図1]全体	生徒にとって理解し難い表現, 図である。 (図1に中間芽がなく理解し難い。)	3-(3)	
48	68	9	複芽 (→p. 26)	生徒にとって理解し難い表現である。 (参照先が理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検定意見書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
49	77	25	防除歴	誤記である。	3-(2)	
50	80	図2	全体 [81ページ表1]全体	最新のものを用いておらず，学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	
51	82	10	ブドウではきめ細かな温度管理が行われている。(→p.182)	生徒にとって理解し難い表現である。 (参照先が理解し難い。)	3-(3)	
52	86	6 - 7	世界のカンキツ類の生産量は約19,507万t(2018年)で，中国が世界一の生産国である(表1)。 [表1]全体	生徒にとって理解し難い表現，図である。 (年次が異なり理解し難い。)	3-(3)	
			[86ページ9～10行]日本のカンキツ類の生産量は約108万t(2018年)で，ウンシュウミカンが生産量の約70%を占め， [86ページ13～14行]ウンシュウミカン			
			の施設栽培面積は389ha，生産量は19,200t(2019年)である。			
53	86	9 - 11	日本のカンキツ類の生産量は約108万t(2018年)で，ウンシュウミカンが生産量の約70%を占め，中晩生カンキツ類は，イヨカンやナツミカン，不知火などが栽培されている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			[86ページ13～14行]ウンシュウミカンの施設栽培面積は389ha，生産量は19,200t(2019年)である。 [87ページ3～5行]ウンシュウミカンは年平均気温が15.5℃以上で，最低気温			
			が-5℃以下にならない地域が適する。晩生カンキツ類では年平均気温が16℃以上必要である。 [87ページ9～10行]pH5.5～6.5の微酸性が適する。			
			[87ページ側注2]良質な果実を生産するには，ヒュウガナツは年平均気温16℃以上，ブンタンは17℃以上が必要である。 [88ページ表2]全体			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検定意見書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[89ページ表3]全体 [91ページ7～8行]開花した花数に対して、80～90%の花や幼果が5～7月にかけて生理落花(果)する。 [104ページ図1]全体			
54	86	表1	アメリカ、スペイン、トルコ以外の数値	誤りである。	3-(1)	
55	88	表2	[日南1号]枝変わり	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
56	89	表3	マンダリン類 雑柑・スイートオレンジ類 タンゴール・タンゼロ類	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
57	89	表3	[雑柑・スイートオレンジ類]川野ナツダイダイ ナツダイダイ [101ページ20行]ナツダイダイ [101ページ図4]甘ナツ [103ページ側注1]ナツミカン	生徒にとって理解し難い表現である。 (川野ナツダイダイ、甘ナツ、ナツダイダイ、ナツミカンの違いが理解し難い。)	3-(3)	
58	94	側注3	有機入り配合肥料 [167ページ10行]有機配合肥料	表記が不統一である。	3-(4)	
59	95	10 - 11	かいよう病は中晩生カンキツ類に発生しやすい。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 ([89ページ表3]の中晩生カンキツ類はすべて同程度に発生しやすいと誤解する。)	3-(3)	
60	96	表3	シアントラニリブロー	誤記である。	3-(2)	
61	98	図22	第1亜主枝 第2亜主枝	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
62	100	表1	全体 [125ページ表2]全体 [149ページ表2]全体 [194ページ表4]全体 [210ページ表1]全体	不正確である。 (階級区分の境界値に以上、以下、未満等の記載がない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[219ページ表3]全体 [222ページ表4]全体 [225ページ表2]全体 [228ページ表3]全体 [231ページ表3]全体			
			[234ページ表4]全体 [240ページ表3]全体			
63	101	図5	全体	誤りである。	3-(1)	
64	106	図2	[右図 縦軸]販売量(万t)	誤りである。	3-(1)	
65	106	表2	全体 [130ページ表2]全体 [154ページ表2]全体 [182ページ表3]全体 [198ページ表2]全体	生徒にとって理解し難い表, 図である。 (表間で単位が異なることおよび値の計算方法が理解し難い。)	3-(3)	
			[214ページ表2]全体			
66	106	表2	家族農業労働1時間あたり所得 [130ページ表2]家族農業労働1時間あたり所得 [154ページ表2]家族農業労働1時間あたり所得	生徒にとって理解し難い表, 図である。 (表と図との間の値が異なり理解し難い。)	3-(3)	
			[182ページ表3]家族農業労働1時間あたり所得 [198ページ表2]家族農業労働1時間あたり所得 [246ページ図1]全体			
67	106	表3	全体 [130ページ表3]全体 [154ページ表3]全体 [182ページ表4]全体 [198ページ表3]全体	生徒にとって理解し難い表, 図である。 (表間で単位が異なり理解し難い。)	3-(3)	
			[214ページ表3]全体			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
68	108	9	世界の生産量の1.2%(世界第15位)	誤りである。	3-(1)	
69	108	表1	アメリカ合衆国 [156ページ表1]アメリカ合衆国	表記が不統一である。 ([14ページ18～19行]「アメリカ合衆国(以下アメリカ)」)と異なる。)	3-(4)	
70	108	表1	アメリカ合衆国, チリ, 合計の数値	誤りである。	3-(1)	
71	109	4 - 8	リンゴの栽培に適する気温は, 年平均気温6～14℃, 4～10月の平均気温13～21℃とされている。寒冷地果樹であるリンゴは, 冬の休眠期間中に7.2℃以下の低温に1,400時間以上にあわない	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			と, 正常な発芽や生育を示さない			
72	110	12 - 13	全国的な構成比は, 早生品種10～20%, 中生品種30～40%, 晩生品種40～50%となっている。	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
73	114	3	図3(d), (→p.103)	誤りである。 (p.103)	3-(1)	
74	114	4 - 5	さびの発生が少ない。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「さび」の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
75	115	図9	落花卉	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
76	117	15 - 16	三要素の施肥比率は窒素10に対してリン酸3～4, カリウム7～8とする。 [表3]全体	生徒にとって理解し難い表現, 表である。 (本文と表の数値が異なり理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
77	118	11	高接ぎ病 [119ページ図16]高接ぎ病	不正確である。	3-(1)	
78	118	16	寄せ接ぎする(図17)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「寄せ接ぎ」の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
79	118	表4	薬剤名間の「・」 [119ページ表5]薬剤名間の「・」 [142ページ表4]薬剤名間の「・」 [143ページ表5]薬剤名間の「・」 [168ページ表7]薬剤名間の「・」と「	生徒にとって理解し難い表現である。 (「・」に単独の薬剤の区切りと2薬剤の混合の2つの意味があることおよび「,」との使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
			,」 [169ページ表8]薬剤名間の「・」と「 ,」 [191ページ表4]薬剤名間の「・」と「 ,」			
			[207ページ表4]薬剤名間の「・」 [207ページ表5]薬剤名間の「,」			
80	119	表5	[ハマキムシ類]IGR剤・BT剤	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
81	119	表5	[ハマキムシ類]IGR剤 [キンモンホソガ]IGR剤 [207ページ表5 カキノヘタムシガ]IGR(昆虫成長制限剤)	表記が不統一である。	3-(4)	
82	126	図4	02:21%→呼吸により減少→2% CO2:0.03%→呼吸により増加→4%	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (呼吸だけで減少や増加させると誤解する。)	3-(3)	
83	126	側注1	Atmo-sphere	不正確である。	3-(1)	
84	132	表1	年次 中国 アメリカ アルゼンチン チリ その他 合計の数値	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
85	133	2 - 3	ニホンナシは、温暖で生育期間中の降水量が多い日本の気候に適している [11～13行]青ナシの二十世紀は、生育期間中に降水量の少ない鳥取県・長野県などが主産地である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「生育期間中の降水量が多い日本の気候に適している」と「生育期間中に降水量の少ない鳥取県・長野県などが主産地である」との関係が理解し難い。)	3-(3)	
86	133	3 - 6	栽培適地の気温は、年平均気温7℃以上、4～10月の平均気温が13℃以上とされている。セイヨウナシは、年平均気温6～14℃、4～10月の平均気温13℃以上、4～10月の降水量1,200mm以下の	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			地域が適している。 [142ページ図13]全体 [152ページ図2]全体			
87	133	10 - 13	赤ナシの豊水、中間色ナシの幸水は、茨城県・千葉県・福島県・埼玉県・栃木県がおもな産地となっている。青ナシの二十世紀は、生育期間中に降水量の少ない鳥取県・長野県などが主産地	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
			である [14～15行]セイヨウナシは、冷涼で乾燥した気候に適し、山形県を中心として東北地方の各県、北海道・長野県・新潟県などで栽培されている。			
			[16～17行]チュウゴクナシは、夏の降水量の少ない岡山県などの一部の地域で栽培されている程度で、きわめて少ない。 [134ページ8～10行]セイヨウナシでは			
			パートレットが多く栽培されていたが、ラフランス(図5)などの生食用品種が多くなり、チュウゴクナシは鴨梨(図6)が中心である。			
88	141	7 - 8	ニホンナシは、地表面から40～50cmの深さのところにとくさんの細根が分布する。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
89	142	表4	[黒星病]EBI剤	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
90	143	1	関東地方、福島県・長野県などの中部地帯、	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
91	149		[コラム]ナシは、特有のシャリシャリとした歯ごたえ	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (セイヨウナシも同様の歯ごたえがあると誤解する。)	3-(3)	
92	151	14	ねん枝(→p.190図10)	誤りである。 (図10)	3-(1)	
93	155		[左下図]芽 [文章2～3行]えき芽	表記が不統一である。	3-(4)	
94	156	6 - 7	ブドウには、用途別に生食用・ワイン用・ジュース用・干しブドウ用とがあり、 [175ページ図1]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (用途別の説明が異なり理解し難い。)	3-(3)	
95	156	表1	生食用、干しブドウ用の出典名 [総生産量]日本 世界 [ワイン用]中国 イタリア トルコ 日本 世界	不正確である。	3-(1)	
96	157	2 - 3	ブドウは、日本の果樹の中で栽培面積に占める施設栽培の割合が高い。 [10～13行]栽培適地の条件は、年平均気温が7℃以上、4～10月までの平均気温が14℃以上、冬季の最低気温が-20	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			℃以上(欧州種は-15℃以上)、4～10月までの降水量が1,600mm以下(欧州種は1,200mm以下)とされている。 [表2]全体 [158ページ12～13行]1975年頃の日本			
			の主要品種はデラウェア・キャンベルアーリーが中心であった [162ページ図6]全体 [162ページ表1]全体 [163ページ図7]全体			
			[163ページ表2]全体 [164ページ表3]全体 [175ページ8～10行]普通冷蔵による貯蔵期間は、巨峰では30～40日、デラウェアでは30日、シャインマスカットで			
			は30～90日程度である。 [175ページ表3]全体 [178ページ表1]全体 [180ページ図3]全体 [180ページ図4]全体			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
97	157	8 - 9	日本では北海道から九州まで広く栽培されている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (沖縄県で栽培されていないと誤解する。)	3-(3)	
98	157	17 - 22	巨峰は山梨県・～岡山県で栽培されている。	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
99	158	13 - 17	最近では，デラウェアは徐々に，キャンベル アーリーは急激に減少している。一方，大粒系で品質のすぐれた巨峰・ピオーネ・甲斐路(赤嶺)・藤稔などが増加し，品種の多様化が進む中，	生徒にとって理解し難い表現，図である。 (「最近」の年次が不明確であり，また図の増減と本文の記載が異なる品種があり理解し難い。)	3-(3)	
			2010年以降シャインマスカットが急速に増加している(図3)。 [図3]全体			
100	162	図5	岐肩 [165ページ8行]花穂に岐肩がある場合 (→p. 162図5)	生徒にとって理解し難い表現である。 (「岐肩」の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
101	168	1	笠掛け [2行]笠掛け	誤りである。	3-(1)	
102	168	表7	[晩腐病]チアジアジン水和剤 [169ページ表8]NAC・PAP乳剤 NAC水和剤 2か所	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ブドウに登録がある農薬と誤解する。)	3-(3)	
103	170	11 - 12	長梢せん定仕立ては，甲州のほか樹勢の強い巨峰・甲斐路・デラウェアなどの品種で行われている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (記載の品種では長梢せん定仕立てでなければならぬと誤解する。)	3-(3)	
104	173	図25	寒さがきびしい地方	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (寒さがきびしい地方だけと誤解する。)	3-(3)	
105	174	表1	デラウェア	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「巨峰」「ピオーネ(種なし)」「シャインマスカット(種なし)」からみて種ありと誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
106	175	15	約48%	誤りである。	3-(1)	
107	175	図1	全体 [18～20行]収穫量の約9%が加工利用され、そのほとんどはワイン用で、ジュース用にもわずかに用いられている(図1)。	誤りである。 (図1全体 9%)	3-(1)	
108	175	表3	フランス原産 5か所	生徒にとって理解し難い表現である。 [156ページ ブドウの履歴書]「栽培品種は西アジア原生の欧州種」からみて理解し難い。	3-(3)	
109	176	図1a	舌接ぎ	生徒にとって理解し難い表現である。 ([42ページ]②接ぎ木苗の育成にも説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
110	178	6 - 7	高接ぎ更新をする場合は5月中・下旬の緑枝接ぎや8月下旬～9月上旬の腹接ぎなどで行うとよい。 [160ページ図1 植え付け 枝の管理]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (本文と図で異なり理解し難い。)	3-(3)	
111	178	図1	全体	最新のものをを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	
112	179	19	一般にpF2.2～2.7程度で生育が良好 [59ページ表1 ブドウ]全体	生徒にとって理解し難い表現、表である。 (数値が異なり理解し難い。)	3-(3)	
113	184	8 - 9	昭和初期には岡山県・香川県・大阪府・神奈川県などの温暖地域で栽培されていた [12～15行]モモの栽培品種は、ほかの果樹に比べて変化が激しく、いちじは	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			大久保など生食加工兼用の品種が多く生産されていたが、現在では、白鳳や白桃から育成された白肉の生食用品種が大半を占めている。 [185ページ7～8行]栽培適地は、年平			
			均気温が9℃以上、4～10月の生育期間の平均気温が15℃以上とされている [185ページ10～11行]年間降水量1,300mm以下と少なく、日照時間の長い地域が適している。			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			[185ページ側注1]モモの耐寒性は中程度(-15~-20℃)で、ネクタリンはモモより劣る。 [188ページ図3]全体 [196ページ図2]全体			
114	184	表1	年次 中国 アメリカ エジプト 韓国 チュニジア 北朝鮮 その他の数値	誤りである。	3-(1)	
115	186	5	八幡白桃	誤りである。	3-(1)	
116	186	5 - 7	栽培面積が増加傾向にある品種は、あかつき・川中島白桃・日川白鳳・なつっこ・黄金桃・まどかななどである。	誤りである。	3-(1)	
117	186	側注1	全国の栽培面積が100~150haである品種には、ゆうぞら・なつっこ・黄金桃・ちよひめ・暁星・加納岩白桃・夢みずき・一宮白桃・みさか白鳳などがある。	誤りである。	3-(1)	
118	186	表2	[川中島白桃]上海水蜜桃×白桃	誤りである。	3-(1)	
119	187	図1	[植え付け 枝の管理]全体 [195ページ4~5行]9月上旬~中旬に行う芽接ぎと、春先に行う切り接ぎがある。	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (本文と図で異なり理解し難い。)	3-(3)	
120	190	14	土壌pHは5.5~6.0に調整する。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([54ページ図9]モモの最適と異なり理解し難い。)	3-(3)	
121	190	表3	全体	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (地域の記載がなく全国統一の施肥基準と誤解する。)	3-(3)	
122	191	表4	[黒星病]がく割れ [表5 シンクイムシ類]芯折れ	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
123	193	15 - 16	成木になると日陰部に枝がなくなり	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (日陰部の全ての枝がなくなると誤解する。)	3-(3)	
124	194	17 - 18	加工用生産量は、全体の約12%である。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
125	196	3 - 4	日本のモモの施設栽培面積は、約108ha(2009年)で、おもに山梨県・福岡県・熊本県などで行われている。	最新のものをを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがあり、また、学習上必要な出典が示されていない。	2-(11)	
126	200	7	近年はスペインでの生産量が急激に増加し、 [15～17行]以前から日本ではカキの主要品種は富有であったが、渋ガキである平核無とその枝変わりの刀根早生の	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
			生産量が増え、現在は三大栽培品種となっている。			
127	200	9 - 10	イタリア・イスラエルなど世界の広い地域で栽培されている(表1)。 [表1]ウズベキスタン、その他、合計の数値	生徒にとって理解し難い表現、表である。 (ウズベキスタン、その他、合計が誤りで、表にイタリア・イスラエルがなく理解し難い。)	3-(3)	
128	200	10 - 11	日本では800以上の地方品種があり、 [カキの履歴書]日本でのカキの栽培は、7世紀頃に始まり、10世紀にはかなり普及した。現在知られている地方品種は、17世紀頃にこれら実生の中から	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			選抜されたものである。 [201ページ10～13行]甘ガキは年平均気温13℃以上、渋ガキは10℃以上の地域が適する。渋ガキの温度適応性は高く、冬季-15℃前後まで耐えられるが			
			、平核無・西村早生などの品種では発芽期に晩霜害を受けやすい。 [201ページ側注1]主要品種の富有は、9月の平均気温21～23℃、10月は15℃以上の地域で高品質の果実が生産			
			[204ページ側注1]冬芽の休眠完了は12月下旬頃である。カキの自発休眠は、7℃で約900時間で打破される。 [204ページ表1]全体 [205ページ側注1]カキは、1花あたり			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			の花粉量が少ない(500花で約1mL) [205ページ表2]全体 [211ページ表2]全体 [212ページ3～4行]カキの施設栽培面積は、約42ha(2018年)で、奈良県などで行われている。			
129	200	図1	2008, 2013, 2018年のデータ	不正確である。 (富有・次郎に松本早生富有, 早生系次郎が含まれている。)	3-(1)	
130	201	17 - 19	甘ガキは奈良県・福岡県・岐阜県・愛知県で、渋ガキは和歌山県・福島県・山形県・新潟県で多く栽培されている(図3)。 [図3]全体	生徒にとって理解し難い表現, 図である。 (図3から甘ガキと渋ガキの個別の栽培状況はわからず理解し難い。)	3-(3)	
131	201	図3	全体	誤りである。	3-(1)	
132	202	表3	滋賀県原産 奈良県原産 新潟県原産 長野県原産 広島県原産	誤りである。 (「200ページ カキの履歴書」「カキの原産地は、中国」)	3-(1)	
			京都府原産 岐阜県原産 静岡県原産 岐阜県原産 愛媛県原産			
133	204	側注1	冬芽の休眠完了は12月下旬頃である。カキの自発休眠は、7℃で約900時間で打破される。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「7℃で約900時間」が理解し難く、また冬芽の休眠完了とカキの自発休眠の打破されるとの関係が理解し難い。)	3-(3)	
134	206	表3	全体	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (地域の記載がなく全国統一の施肥基準と誤解する。)	3-(3)	
135	207	表4	[炭そ病]せん除	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
136	210	8	果粉(→p. 172) [270ページ]果粉……172	誤りである。 (p. 172 172)	3-(1)	
137	210	側注1	ポリエチレンフィルムで1果ごと個別包装し、	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ポリエチレンフィルムだけと誤解する。)	3-(3)	
138	211	表4	全体	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (地域の記載がなく全国统一の栽植距離と誤解する。)	3-(3)	
139	212	12 - 13	カキの発芽には、10℃以上の積算温度が約90℃、発芽から開花までには300℃が必要となる [表1]それぞれの期間中の10℃以上の温度と時間の積を表す。	誤りである。 (単位「℃」および温度と時間の積の「時間」。)	3-(1)	
140	216 - 217	16 - 3	日本のおもな産地は和歌山県・群馬県・長野県・山梨県・福井県である。スモモはウメと同様に環境適応性が強く、山梨県・長野県・和歌山県・山形県・青森県などの各地で栽培されている	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
			。[221ページ3～4行]日本のおもな産地は山形県・北海道・山梨県・秋田県・青森県である [223ページ13～14行]日本のおもな産			
			地は、長崎県・千葉県・鹿児島県・香川県・愛媛県である。 [223ページ16～17行]長崎早生、なつたより、茂木、大房および田中の5品種で約94%を占めている			
			[226ページ15～16行]日本のおもな産地は茨城県・熊本県・愛媛県・岐阜県・宮崎県である。 [229ページ9～10行]近年、輸入果実が急増しており、流通している果実の約			
			85%は輸入果実 [229ページ16～17行]日本のおもな産地は愛媛県・福岡県・和歌山県・神奈川県・静岡県である。 [234ページ17～22行]イチジクの仕立			
			て方は、開心自然形・開心形・X字型整枝が中心である。～最近、～一文字整枝が増えている [235ページ18～19行]日本のおもな産地は東京都・群馬県・長野県である。			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
141	217	図1	全体 [226ページ7～8行]輸入量は、生産量をこえてピークを示した2000年以降、減少し、生産量の約25%に相当する量(2020年)が輸入されている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
			[226ページ14～15行]冬季に-15℃より低下する地域では、凍害を受けて胴枯病の発生が多くなる。 [229ページ3行]キウイフルーツは、世界でも最も新しい経済栽培果樹で、			
			[229ページ4～8行]1980年代に栽培面積が急増した。～1990年代初頭をピークに栽培面積は減少している。 [230ページ図1]全体 [231ページ3～4行]pHは6.0～6.5の土			
			壤が好適 [232ページ15～16行]-9℃以下で樹体は寒害を受ける。 [238ページ6行]1970年にビニル被覆による結実安定技術が開発された			
			[238ページ18～20行]生産量(2018年)は沖縄県が約52%、宮崎県が約34%を占めている。施設栽培の普及により、現在は北海道でも栽培されている例がある。			
			[238ページ マンゴーの履歴書]種子の寿命が4～5週間と短い			
142	220	3	甘果オウトウは、果樹の中では単価が最も高い。	不正確である。	3-(1)	
143	223	6	気象条件に恵まれた地域	生徒にとって理解し難い表現である。 (「気象条件に恵まれた」の具体的な条件が理解し難い。)	3-(3)	
144	223	19 - 20	最近、種なしビワの希房が開発された。	不正確である。 (年次の記載がなく、「開発」の意味も不明確である。)	3-(1)	
145	230	2 - 3	ヘイワードが経済栽培品種となっている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ヘイワードだけが経済栽培品種と誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
146	237	9 - 10	酸性土壌(pH4.3~5.3)で生育がすぐれる	生徒にとって理解し難い表現である。 ([54ページ図9]ブルーベリーの最適 と異なり理解し難い。)	3-(3)	
147	240	11	スリップス類	表記が不統一である。 ([96ページ表3]「アザミウマ類」と表記が不統一)	3-(4)	
148	242	17 - 18	宅配便による販売	生徒にとって理解し難い表現である。 (「宅配便による販売」が理解し難い。)	3-(3)	
149	243	図2	全体	最新のものをを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	
150	244	18 - 25	出荷経費 個人出荷する場合も～販売できる場合が多い。 [245ページ表1]集出荷経費 [247ページ7行]出荷経費	生徒にとって理解し難い表現である。 (出荷経費の説明がないためおよび[245ページ]表1に出荷経費の項目がないため「出荷経費」と「集出荷経費」との違いが理解し難い。)	3-(3)	
151	245	表1	[ウンシュウミカン 卸売価格]66.0 [ウンシュウミカン 仲売価格]76.1 [ウンシュウミカン 流通手数料]23,852	誤りである。	3-(1)	
152	246	9 - 11	単位面積あたりの粗収益を高めるとともに、できるだけ経営費をおさえる必要がある。近年の果実の農業経営費の内訳は図2のとおりである。 [247ページ図2]全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (本文の記載と異なり図2が単位面積当たりでなく理解し難い。)	3-(3)	
153	247	図2	全体	生徒にとって理解し難い図である。 (1農家あたりの栽培面積の違いを考慮しておらず理解し難い。)	3-(3)	
154	248	図3	0.3ha未満のデータ	誤りである。	3-(1)	
155	256	31	RPDCAサイクル	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-3		学校 高等学校		教科 農業	種目 果樹	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
156	260	14 - 15	わが国における品種登録出願については、平成19年の1,533件をピークに令和元年には784件	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
157	267		[87図3, 87図4]農林水産統計 [94表1]静岡県作物別施肥基準 [101図5]作物統計調査 [105図1]鈴木晴夫, 石田隆・静岡県柑橋試験場研究報告	不正確である。	3-(1)	
			[268ページ110図4]果樹生産出荷統計 [268ページ117表3]りんご生産指導要項 青森県りんご生産指導要項編集部会・青森県りんご協会 [268ページ134図4]果樹生産出荷統計			
			[268ページ156図1]果樹生産出荷統計 農林水産統計 [268ページ157図2]果樹農業に関する資料 農林水産統計 [268ページ158図3]果樹農業に関する			
			資料 特産果樹生産動態等調査 [269ページ190図8]園芸学研究集録6 福田照, 島村和夫 [269ページ195図1]園芸学会誌44 加藤公道, 佐藤良二・園芸学会			
			[269ページ200図1]果樹生産出荷統計			
158		裏見返 9	[クワコナカイガラムシ 成虫]写真 [ドウガネブイブイ 被害状況]写真	生徒にとって理解し難い写真である。	3-(3)	
159		裏見返 10	[カキノヘタムシガ(カキミガ)]成虫(体長10mm)	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	6	12 - 14	すべての都道府県の農業生産額で、各種畜産物の産出額が上位3位以内にはいないのは、東京都、大阪府など8都府県のみ(2019年)	生徒にとって理解し難い表現である。 (出典および何の農業生産額と各種畜産物の産出額を比較しているのか不明で理解し難い。)	3-(3)	
2	7	図1	PDCA	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
3	12	16	ヒツジ□	表記が不統一である。 ([12ページ図1]「メンヨウ」)	3-(4)	
4	12	図1	日本、南アメリカ以外のニワトリの値 中国のブタの値 日本のメンヨウの値 [16行]ニワトリは約6割、ブタやヒツジは5割以上	不正確である。	3-(1)	
			[18行]世界の約1.2% [側注3]中国は世界のブタの37%、ニワトリの20% [13ページ図3]全体			
5	13	2 - 6	世界の平均と比べてウシの割合が高いのはアメリカやアフリカ、オセアニア、ブタはヨーロッパや北米、アジア、メンヨウはオセアニアやアフリカ、ヤギはアフリカやアジア、ニワトリはア	生徒にとって理解し難い表現である。 (「アメリカ」、「北米」、「北アメリカ」の使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
			ジアや北アメリカなどとなっている(図3)。			
6	13	7 - 14	日本はメンヨウやヤギが非常に少ないが、ニワトリやブタなどの中小家畜の割合は高い。この理由として、～日本では単位あたりの収量が多い稲作を水田で行い、飼料作物は稲作が不可能な	生徒にとって理解し難い表現である。 (日本はメンヨウやヤギが非常に少ないが、ニワトリやブタなどの中小家畜の割合が高い理由として理解し難い。)	3-(3)	
			農地などで栽培されてきた。			
7	13	24	1957年には90万頭以上も飼育されていた。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
8	13	図2	ウシの原産地	不正確である。	3-(1)	
9	13	側注1	家畜単位はウシを1としたとき、ブタを0.2、メンヨウを0.1、ニワトリを0.01として算出している。	生徒にとって理解し難い図である。 (ヤギの家畜単位の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
10	14	14 - 15	2015年現在、約8千の経営体が約4万人以上の常勤従業員を雇用している。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
11	14	表1	[ピーク年頭羽数 乳牛]頭羽数 ピーク年 [1戸あたり頭羽数 1981]ブロイラー [1戸あたり頭羽数 2001]採卵鶏 ブロイラー	誤りである。	3-(1)	
			[1戸あたり頭羽数 2019]採卵鶏 [1戸あたり飼養頭羽数の増加指数 1981]肉牛 ブロイラー [1戸あたり飼養頭羽数の増加指数 2001]乳牛 肉牛 採卵鶏			
			[1戸あたり飼養頭羽数の増加指数 2019]ブロイラー以外 2001年までは、畜産物流統計による。			
12	14	表1	ブロイラーの1960年の値は1965年の数値。 [表1][1960 ブロイラーの4つの欄]- 1戸あたり飼養頭羽数の増加指数	生徒にとって理解し難い表である。□ (「1965年の数値」が「-」になることおよび「増加指数」の説明がないことが理解し難い。)	3-(3)	
13	15	9	魚粉, 肉骨粉③	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (魚粉を反すう家畜へ給与してもよいと誤解する。)	3-(3)	
14	15	10 - 11	国産濃厚飼料の約6割はぬか類	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
15	15	17	「家畜排せつ物法」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (正式名称と誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
16	15	図4	2018年 [16ページ図1]2019年 2018年には33.5kg	不正確である。 (年, 2018年には33.5kg)	3-(1)	
17	15	側注5	国産濃厚飼料供給量の1割程度	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
18	16	13 - 15	(図2)。1人あたりの年間食肉消費量が最も多いのは、北アメリカの112.0kgであり、	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (図の数値と大小関係が本文と異なり理解し難い。)	3-(3)	
19	16	15	日本人の1年あたりの米の消費量が60kg程度	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
20	16	18	日本人の1年あたりの卵の消費量は、19.2kgと世界で最も多い	誤りである。 (「19.2kg」, 「世界で最も多い」が誤りである。)	3-(1)	
21	17	2 - 3	飲用乳の消費量は、1人あたり年間46.1kgとアジアのなかでは多いが、世界的にみると平均的な水準である。	誤りである。 (図3(b)の数値の大小関係と本文の記載が異なる。)	3-(1)	
22	17	3 - 5	チーズは年間2.9kgにまで増加したが、それでも北アメリカやヨーロッパの5分の1程度である。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
23	17	図2	北アメリカ、オセアニアの値	誤りである。	3-(1)	
24	17	図3	[卵]オセアニアの値 [飲用乳]世界、アジア、北アメリカ、オセアニア、オーストラリアの値 [バター・ギー]世界、アジア、オセアニア、オーストラリア、EU(28か国)の	誤りである。	3-(1)	
			値			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
25	17	図3	アメリカ [160ページ11行]アメリカ [160ページ表2]アメリカ [251ページ9行]アメリカ [253ページ3行]アメリカ	表記が不統一である。 （[17ページ図2]アメリカ合衆国）	3-(4)	
26	19	15 - 17	牛乳・乳製品の消費も2010年代には増加に転じたが、乳製品消費の増加によるところが大きい。とくにチーズ消費の増加が顕著だが、輸入チーズの増加が中心となっている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
27	21	12 - 16	各種畜産の産出額が農業部門中で上位3位までにはっていないのは、東京都、大阪府など8都府県のみである。一方、北海道、群馬県、神奈川県、香川県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎	誤りである。 （出典がなく、[21ページ図2]「農業部門」と本文記載の農業部門が異なっている。）	3-(1)	
			県、鹿児島県、沖縄県の10道県は畜産物が1位となっており、			
28	21	図1	品目別食料自給率(供給熱量ベース)の推移	誤りである。 （品目別食料自給率(供給熱量ベース)）	3-(1)	
29	22	8 - 10	酪農家1戸あたりの飼料作物の作付面積は、全国平均で1971年の2haから2020年には約34haと20倍近くになっている(図3)。	生徒にとって理解し難い表現、図である。 （図に1971年と2020年のデータがなく理解し難い。）	3-(3)	
30	22	側注2	地域別では北海道で73ha、都府県で7.5haである。農家平均が3haであることに比べれば、酪農家の農地集積は進んでいるといえる(農林水産省「作物統計」,「畜産統計」)。	生徒にとって理解し難い表現である。 （出典に値がないこと、北海道73ha、都府県7.5ha、農家平均3haの関係、この値の違いと農家の農地集積は進んでいることとの関係が理解し難い。）	3-(3)	
31	24	8	2019年には26年ぶりに豚熱(CSF)が発症し、	誤りである。 （2019年）	3-(1)	
32	25	側注1	男女平等など	誤記である。	3-(2)	
33	26	図1	全体	生徒が誤解するおそれのある図である。 （分野間に重複部分が全くないと誤解する。）	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
34	27	側注3	採卵鶏では、海外の2社がエリートストック(鶏卵や鶏肉を産出しているニワトリの元)を保有し、日本の9割以上のシェアをにぎっている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
35	28	図4	未受精卵子の採取、除核、体細胞核の注入の図	生徒にとって理解し難い図である。 (「除核」の大きい丸と小さい丸が何であるのか、「体細胞核の注入」されているものが何であるのかが理解し難い。)	3-(3)	
36	29	図5	全体	生徒が誤解するおそれのある図である。 (ヒトの細胞を移植するとヒト型抗体やヒト型臓器がつくられると誤解する。)	3-(3)	
37	33	9 - 10	哺乳類の農用家畜14種から推定して、世界中には家畜になりそうだった動物がおおよそ150種近くもいた。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
38	33	表2	[ウシ]中近東から西アジア [ブタ]東南アジア [ニワトリ]約5千年前	不正確である。 (ウシの原産地、[117ページ3行]「ブタは、世界各地でイノシシが家畜化されたもの」[80ページ4行]「約3000～4000年前」からみて不正確である。)	3-(1)	
39	34	表3	寺島福秋, 1995年	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
40	35	28	摂取した飼料(→カラーページ8)	生徒にとって理解し難い表現である。 (参照先として理解し難い。)	3-(3)	
41	37	図3	Bianca, 1968年	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
42	39	表4	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
43	39	表5	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
44	41	図1	ウシにおいて乳生産に使われるエネルギーは、摂取した飼料の総摂取エネルギーのおよそ6分の1程度である。残りは損失エネルギーであり、乳生産には直接利用されない。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (乳生産に使われるエネルギーは飼料のエネルギーだけであり、また乳生産に利用されなかったエネルギーは損失エネルギーだと誤解する。)	3-(3)	
45	43	表2	ホルスタイン種、育成豚、成豚、産卵鶏、肉用鶏、初生びなの値	不正確である。 (出典と異なっている。)	3-(1)	
46	45	表5	D. W. Bates, 1989年	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
47	47	3 - 4	アニマルウェルフェアは動物の生活と死にかかわる環境に関連する肉体的および精神的な状態	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (環境に関連する状態だと誤解する。)	3-(3)	
48	47	9	動物園動物	表記が不統一である。 ([32ページ13行]「展示動物」)	3-(4)	
49	48	26	動物に対して過度に乱暴に扱う	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (過度でなければよいと誤解する。)	3-(3)	
50	49	21 - 25	「動物は命ある存在であることから、動物をみだりに殺し、傷つけ、または苦しめることのないようにするのみでなく、人と動物の共生に配慮しつつ、その習性を考慮して適正に取り扱うよ	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「 」内が法律の条文と誤解する。)	3-(3)	
			うにしなければならない」と定めている。			
51	49	側注1	室内のみの方式はバーン、屋外に出られる方式はフリーレンジとよばれる。 [84ページ8～9行]野外にアクセス可能な鶏舎や、完全な屋外での放牧飼育方式であるフリーレンジシステム	生徒にとって理解し難い表現である。 (フリーレンジの説明が異なり理解し難い。)	3-(3)	
52	49	調べてみよう	公益財団法人畜産技術協会	誤りである。 (公益財団法人)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
53	52	13 - 14	家畜排せつ物の管理の適正化および利用の促進に関する法律	不正確である。	3-(1)	
54	53	側注2	水を空気にさらすこと。なお、エアレーションは曝気とは違い、水に空気を送り込むことをいう。	生徒にとって理解し難い表現である。 (曝気とエアレーションの違いが理解し難い。)	3-(3)	
55	53	表2	全体	生徒にとって理解し難い表である。 (合計値が100%を超えるものがあり理解し難い。)	3-(3)	
56	58	表1	Maynard, 1979年	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
57	59	側注3	牛用飼料では、現地で得られる粗飼料や食品副産物などが有効に利用されることが多い。TMR (Total Mixed Rations) とよばれる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (現地で得られるものを有効利用したものをTMRと誤解する。)	3-(3)	
58	61	11	生理活性物質⑧ [側注8] 生体の特定の生理的調節機能に対して作用する化学物質のことで、サイトカインなどの情報伝達物質、ホルモン、成長因子などがある。	生徒にとって理解し難い表現である。 (脂質の項目でタンパク質の生理活性物質が記載されていることが理解し難い。)	3-(3)	
59	68	19	みかけの消費率	誤記である。	3-(2)	
60	68	表4	家畜の飼料要求量 [肉豚 飼料要求率]3.0 [卵用鶏, 肉用鶏の出典]第10次家畜改良増殖目標	誤りである。	3-(1)	
61	70	6 - 7	飼料安全法 [7行]薬事法 [8行]BSE対策特別措置法	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (正式名称と誤解する。)	3-(3)	
62	70	表6	プリオンタンパク質(BSE1) 1)BSEプリオンとよばれる病原体 [191ページ16～17行]プリオンという一種のタンパク質が原因である。 [231ページ20～21行]プリオンが原因	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (プリオンタンパク質が病原体で、全てのプリオンが病原性を持つと誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			物質の感染症であり、プリオンを摂取させないことで防止できる。			
63	79	側注2	2008年 SS:40～46g S:46～52g MS:52～58g M:58～64g	不正確である。 (以上, 以下, 未満等がない。)	3-(1)	
			L:64～70g LL:70～76g			
64	81	17 - 18	シャモや比内鶏などは、JAS地鶏の種鶏として用いられる(図18)。 [図18]土佐ジロー	生徒が誤解するおそれのある表現, 図である。 (土佐ジローがシャモや比内鶏を親として作出されたと誤解する。)	3-(3)	
65	81	26	(→p. 289付録①-1)	誤りである。	3-(1)	
66	86	17 - 20	ビークトリミングについても、～赤外線照射による方式が用いられている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (普通の赤外線をあてるとビークトリミングができると誤解する。)	3-(3)	
67	87	12	緑餌	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
68	87	図33	アルギニン・バゾトシン [88ページ15行]アルギニン・バゾトシン	誤記である。	3-(2)	
69	87	図33	アルギニン・バゾトシン→卵殻, 20時間	誤りである。 (アルギニン・バゾトシンの作用部位が誤りである。)	3-(1)	
70	88	7	精子細管 [側注2]精子貯蔵管	表記が不統一である。	3-(4)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
71	88	31 - 32	種卵は、交尾後3日目から約2週間産卵する。	生徒にとって理解し難い表現である。 (主語述語の関係と人工授精の場合も交尾ということが理解し難い。)	3-(3)	
72	93	表3	全体	最新のものをを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	
73	93	表3	CPはp. 60	誤りである。 (p. 60)	3-(1)	
74	93	表4	育すう中の適温	不正確である。 (出典の説明と異なる。)	3-(1)	
75	95	20 - 21	タンパク質は粗タンパク質(CP)で16%含まれていればよいとされている。□	不正確である。 (日本飼養標準の値と異なる)	3-(1)	
76	96	表6	単味飼料のCPとME量の数値	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(11)	
77	99	表8	C. G. Chewning, C. R. Stark, J. Brake, 2012年	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
78	100	2 - 3	27℃をこえるとヒートストレスとなりやすい	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
79	100	10	食肉取引規格	誤記である。	3-(2)	
80	100	21 - 22	ブロイラーの飼育期間は短いので、飼料の摂取量と、と体重の増加量との関係がブロイラー飼育の利益に影響する。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (飼育期間は短い場合だけ利益に影響すると誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
81	100	図50	③もも肉 ⑤かわ ⑥きも(内臓)	生徒にとって理解し難い図である。 (「③もも肉」, 「⑤かわ」の部位の位置が理解し難く, 「⑥きも(内臓)」が何であるかが理解し難い。)	3-(3)	
82	100	表9	親雌 親雄	不正確である。 (出典の記載と異なる。)	3-(1)	
83	102	表13	全体	最新のものを用いておらず, 学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	
84	102	側注2	化学処理などによって死んだ病原体を接種するワクチンのことをいう。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「死んだ病原体」とウイルスの関係について誤解する。)	3-(3)	
85	103	図53	ケージに発生したワクモ	生徒にとって理解し難い写真である。 (ワクモであることが理解し難い。)	3-(3)	
86	103	表14	[家禽サルモネラ症(家畜伝染病)] 全体	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (家禽サルモネラ症はひな白痢だけと誤解する。)	3-(3)	
87	105	13 - 14	上位9組織のインテグレーターが, 年間の食鳥処理羽数の約6割のシェアを占めている。	生徒にとって理解し難い表現である。 (出典がなく, [側注2]「2021年時点で, 肉用鶏で3社, 採卵鶏で2社」との関係が理解し難い。)	3-(3)	
88	105	側注1	川上から川下までの部門を統合したシステム。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「川上」, 「川下」の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
89	105	側注2	2021年時点で, 肉用鶏は3社, 採卵鶏は2社の欧米の育種会社が実用鶏のほとんどを供給する寡占体制となっている。日本でも9割以上を欧米の会社からの輸入に依存している。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
90	107	8	特色JAS規格 [側注1]特色JAS規格	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (特色JAS規格があると誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
91	107	表18	[鶏卵生産者経営安定対策事業 実施主体または窓口]農林水産省	誤りである。	3-(1)	
92	108	12	えつけ	誤記である。	3-(2)	
93	109	6	ニワトリを安楽死させ、放血後に皮をはぐ。	生徒にとって理解し難い表現である。 (安楽死させたのち放血することが理解し難い。)	3-(3)	
94	112	10 - 14	世界中でブタは7億5,200万頭以上飼われ(2021年①), 豚肉は世界中で最も消費量の多い食肉である。飼養頭数を国別にみると, 中国が4億650万頭と最も多く, EUが1億5,000万頭, アメリカ	生徒にとって理解し難い表現である。 (12ページ図1や13ページ図3と出典や年次が異なり, 値も大きく異なることが理解し難い。)	3-(3)	
			合衆国が7,700万頭, ブラジルが3,700万頭などとなっている。日本におけるブタの飼養頭数は929万頭で(2021年②), [側注1]USAD「Livestock and			
			Poultry:World Markets and Trade」 [側注2]日本ハム・ソーセージ工業協同組合「食肉加工品等流通調査」			
95	112	10 - 11	豚肉は世界中で最も消費量の多い食肉である。	誤りである。 ([17ページ図2]世界の値と異なっている。)	3-(1)	
96	112	14 - 16	日本におけるブタの飼養頭数は929万頭で(2021年②), 鹿児島県や宮崎県などの南九州, 茨城県, 群馬県, 千葉県などの関東地方, 北海道や岩手県, 青森県などの東北地方で多く飼われて	誤りである。 (出典にデータがない。)	3-(1)	
			いる。 [側注2]日本ハム・ソーセージ工業協同組合「食肉加工品等流通調査」			
97	112	20 - 22	加工品仕向け量は, 国産肉が7万2,000t, 輸入肉が30万6,000tとなっている(2020年④)。 [側注4]農林水産省「畜産統計」	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
98	112	図1	農林水産省「食肉流通統計」，財務省「貿易統計」	誤りである。 (出典にデータがない。)	3-(1)	
99	112	側注1	USAD	誤記である。	3-(2)	
100	116	図7	全体口	不正確である。 (出典と異なる。)	3-(1)	
101	117	5 - 8	紀元前8000年頃の古代遺跡からブタの骨が発掘されている。移動が困難であることや草しかない乾燥気候に合わないことなどから，遊牧には適さず，定着農耕民が飼育していたと考えられて	生徒にとって理解し難い表現である。 ([33ページ表2 ブタ]「6千～8千年前」と異なり理解し難い。)	3-(3)	
			いる。			
102	117	13	なお，肉用家畜としてのブタの改良は1200年頃から始められ，	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
103	117	17 - 18	ブタの品種は100種以上あるが，世界各地に普及しているおもな品種は約30種である	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
104	128	図29	精のう腺 [173ページ図34]⑤精嚢	生徒にとって理解し難い表現である。 (「精のう腺」と「精嚢」の使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
105	130	20 - 22	MVAC法により長期保存と現場での加温・希釈ができ，高い生存性が得られるようになった。 [側注3]MVAC(Micro Volume Air Cooling)法は，胚を封入したストロー	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (一般に普及した技術と誤解する。)	3-(3)	
			内で，気相を液体窒素中で冷却し胚をガラス化する方法。			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
106	136	図46	中央畜産会資料	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
107	138	12 - 13	日本では、食品の供給量の約1/4が廃棄されており、	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
108	139	図49	生体流通の矢印が食肉センターに入って枝肉流通、部分肉流通で出ていく [235ページ図66]生体流通の矢印が食肉センターに入って卸売段階へ出ていく	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (と畜場のない食肉センターでと畜していると誤解する。)	3-(3)	
109	142	3 - 4	最近の欠格の第一の原因は重量範囲にあり、次に厚脂や均称・肉づき、薄脂である。 [5～7行]肉質は肉の締まりおよびきめ・色沢、脂肪の色沢と質・脂肪の沈着	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
			が評価され、それぞれ格落ち原因の3～10%を占める。			
110	142	5 - 7	肉質は肉の締まりおよびきめ・色沢、脂肪の色沢と質・脂肪の沈着が評価され、それぞれ格落ち原因の3～10%を占める。	生徒にとって理解し難い表現である。 (出典の値と異なり理解し難い。)	3-(3)	
111	143	8 - 9	脂肪のしまりが悪い(→p. 144)	生徒にとって理解し難い表現である。 (p. 144に関連する記載がなく理解し難い。)	3-(3)	
112	146	8 - 9	日本は約3/4が精肉用で、かつ国産豚肉の多くは精肉となる。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
113	148	表5	流行性脳炎(家畜伝染病) 全体 [149ページ表6]流行性脳炎 全体	生徒にとって理解し難い表である。 (同一の病名が別の表に記載され、その説明が異なっていることが理解し難い。)	3-(3)	
114	150	側注1	肥育豚では0.8m ² /頭、繁殖豚では1.2m ² /頭がめやす。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
115	152	3 - 6	飼養頭数は、1990年以降では減少傾向にあったが、2003年以降はBSEの影響により増加、あるいは横ばい傾向で推移している。また、1戸あたり飼養頭数は年々増加している。(→p.14)	生徒にとって理解し難い表現である。 (p.14からは2003年以降の増加、あるいは横ばい傾向が理解し難い。)	3-(3)	
116	152	9 - 10	繁殖専門の経営は、戸数、頭数ともに年々減少している(表7)。 [12行]経営あたりの肥育規模は、年々増加している。 [表7]全体	生徒にとって理解し難い表現、表である。 (表7は割合であり、戸数、頭数の減少傾向や肥育規模の増加が理解し難い。)	3-(3)	
117	152	18 - 19	豚枝肉価格は短期間に変動し、一般的に夏季は国産物が高くなる。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
118	156	図1	⑩腰、⑫十字部、⑭つなぎの図中の位置	生徒にとって理解し難い図である。 ([242ページ図①]「腰」「十字部」「つなぎ」の指示位置と異なり理解し難い。)	3-(3)	
119	157	1 - 4	乳牛の体格の特徴として、～しかし、近年では体部は力強い四角形で [200ページ11～14行]乳牛との体型の違いは、～おおむねクサビ形(三角形)をしている	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明が異なり理解し難い。)	3-(3)	
			[200ページ図1]全体			
120	157	12	重曹	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
121	158	7 - 8	第1胃内の微生物(図5)は、ビタミンB群のような水溶性ビタミンも合成し、 [図5]ウシの第1胃のプロトゾア	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (プロトゾアが主にビタミンB群のような水溶性ビタミンを合成すると誤解する。)	3-(3)	
122	158	側注1	微生物が増殖することは、微生物の体タンパク質が増えることになり、下部消化管に多くの動物性タンパク質を供給することになる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (微生物の体タンパク質と動物性タンパク質の関係が理解し難い。)	3-(3)	
123	159	19 - 20	2020年①現在、世界で飼育されている乳牛はおよそ1億4千万頭であり、インドで最も多く、次いでEU諸国である。 [160ページ1行]2019年①では	生徒にとって理解し難い表現である。 (①の記載位置が理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
124	159	20	EU諸国 [160ページ11行]EU諸国 [160ページ表2]EU	表記が不統一である。	3-(4)	
125	159	側注1	アメリカUSDA, foreign Agriculture Service, 2021年 [160ページ表2 アメリカUSDA, 「Word Markets and Trade」]2021年□	誤りである。	3-(1)	
126	160	2	4.4%	不正確である。	3-(1)	
127	160	2 - 4	飼養頭数は、飼養戸数の減少により前年に比べて4,000頭(0.3%)減少したが、飼養戸数の減少が大きい割に頭数減は小さく、	誤りである。 (4,000頭(0.3%)減少していない。)	3-(1)	
128	160	13 - 14	日本では、このほかに400万tを原材料として輸入し、1年間で1,200万tの牛乳および乳製品を消費している。	最新のものをを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがあり、また、学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(11)	
129	160	表2	2020年以外のアメリカ、世界合計の値 2019年のEU、インド、中国、ニュージーランド、メキシコ、オーストラリア、その他の値 2018年のインドの値	誤りである。	3-(1)	
130	161	2 - 3	乳牛の供用年数は約6年であるが、個体が健康で飼育管理が良好な場合、10産以上する乳牛もめずらしくはない。□	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
131	161	図9(a)	「24～26か月」と「2年」の位置関係 「24～26か月」と「分娩間隔(365日)」と「3年」の位置関係	不正確である。	3-(1)	
132	162	12	乳牛検定協会の検定記録では、平均乳量は9,000kgをこえる。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
133	162	21 - 22	平均乳量は約6,000kg～乳脂肪5%以上	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
134	163	1	ガンジー種(Guernsey) [2行]ガンジー島 [図13]ガンジー種 [側注1]ガンジー種	生徒にとって理解し難い表現である。 (Guernseyからみてガンジーということが理解し難い。)	3-(3)	
135	163	5	乳量は年間5,000kg程度	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
136	163	10	乳量は5,000kg程度で, 固形分含量が高く,	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
137	163	17 - 19	乳量は5,000kg程度で, 乳脂肪は3.9%程度だが, タンパク質含量が高い	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
138	164	2 - 3	日本で飼育されている乳牛の99%以上はホルスタイン種である。	誤りである。 (99%以上は誤りで, 出典, 年次もない。)	3-(1)	
139	164	表3	現在の乳脂肪以外の値	不正確である。 (出典と値が異なる。)	3-(1)	
140	172	16	発情回帰(→p. 215)	生徒にとって理解し難い表現である。 (乳牛の発情回帰で肉牛を参照するのが理解し難い。)	3-(3)	
141	174	図36	[横軸]太線部分 発情ホルモン	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
142	177	表9	ウシ 精子以外の5つの値	不正確である。 (出典と異なっている。)	3-(1)	
143	185	17 - 19	現在, 分娩間隔は380日前後が目標とされているが, 2019年の平均で425日(北海道)および448日(都府県)であり, 繁殖成績の向上が課題となっている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
144	185	図59	寛骨の側望と座骨の4.00以上	不正確である。 (出典と異なっている。)	3-(1)	
145	188	7	パルセータ	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
146	189	表12	全体	誤りである。 (出典にない殺菌法の記載がある。)	3-(1)	
147	189	表14	全体	誤りである。	3-(1)	
148	193	表20	低血糖とケトン体が多量に生成される。	生徒にとって理解し難い表現である。 (低血糖が多量に生成されるが理解し難い。)	3-(3)	
149	194	9	乳腺実質	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
150	195	7 - 8	1966年に加工原料乳生産者補給金等暫定措置法が制定された。	不正確である。 (制定)	3-(1)	
151	196	図72	[その他]12.2%	不正確である。	3-(1)	
152	196	表21	岡山県畜産協会資料 [受胎に要した平均授精回数]1.8回	不正確である。 (出典名が不正確で出典と値が異なる。)	3-(1)	
153	197	図①	⑤腰角幅 ⑥寛幅	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
154	201	図2	全体	誤りである。 (出典名が誤りであり、出典と値が異なる。)	3-(1)	
155	201	側注4	ロース断面積	不正確である。	3-(1)	
156	203	3 - 5	和牛では30か月齢で体重が780kg程度まで、乳用種去勢牛では21か月齢で780kg程度まで肥育されるのが一般的である。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
157	203	3 - 5	和牛では30か月齢で体重が780kg程度まで、乳用種去勢牛では21か月齢で780kg程度まで肥育されるのが一般的である。 [224ページ22～24行]黒毛和種では生	生徒にとって理解し難い表現である。 (「程度」と「以上」で説明が異なり理解し難い。)	3-(3)	
			後30か月齢以上、体重は780kg以上が多く、乳用種去勢牛では生後21か月齢以上、780kg以上が一般的となっている			
158	203	図6	全体 [214ページ4行]約9か月の妊娠期間	生徒にとって理解し難い表現、図である。 ([214ページ3～4行]「生後14か月齢程度で初回種付け」[214ページ4～5行]「24.5か月齢程度で初回分娩」[214ページ5行]「平均6産まで」[214ページ21行]「体重300kg以上」[215ページ9行]「約285日」と異	3-(3)	
				なっており理解し難い。)		
159	204	24 - 26	日本の肉牛飼養頭数は約256万頭で、そのうち黒毛和種などの肉用種は70%、交雑種やホルスタイン種など乳用種から生まれた肉牛が30%となっている(2020年)。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
160	204	24 - 25	黒毛和種などの肉用種 [206ページ1行]肉専用牛 [206ページ2行]肉専用牛 2か所	表記が不統一である。 ([図7]「肉専用種」)	3-(4)	
161	204	図8	全体	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (0%で図に記載されていることおよび出典名が理解し難い。)	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
162	204	表1	合計雌, 合計合計, その他合計の値 構成比%の値 食肉流通統計	誤りである。	3-(1)	
163	205	図9	[アフリカ]23.9%	不正確である。	3-(1)	
164	206	2 - 3	肉専用牛は178万頭(2020年)であり, [表3 構成比率]0.5%	誤りである。	3-(1)	
165	206	表3	家畜改良センター	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
166	207	側注1	80頭ほどが生息	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
167	207	側注2	約50頭生息	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
168	208	表5	Falconer & Mackay, 1996	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
169	211	12	粗飼料管理	生徒にとって理解し難い表現である。 (粗飼料の何を管理するかが理解し難い。)	3-(3)	
170	213	29 - 30	日本では3か月齢以内の実施や, それ 以降は必要に応じて麻酔剤や鎮痛剤を 使用することが望ましいとされている 。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (3か月齢以内は麻酔剤や鎮痛剤を使用しなくてよ いと誤解する。)	3-(3)	
171	213	31 - 32	英国の法律では生後1週間以内に実施 し, 2か月齢以上の子牛は麻酔下で実 施することが決められている。	誤りである。 (英国の法律で生後1週間以内に実施することは決め られていない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
172	213	32 - 34	また除角についても、日本では生後2か月齢以内に麻酔下で実施し、化学的方法でなく焼きごてが推奨されている。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (必ず麻酔下で行う誤解する。)	3-(3)	
173	214	20 - 22	体高が115cm以上、体重が300kg以上になっていることが初回授精のめやすとされている。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
174	214	24 - 25	和牛の初回授精の受胎率は55～65%である	不正確である。 (出典がなく、出典と値が異なる。)	3-(1)	
175	215	16 - 17	はっきりとした発情が再びみられるのは分娩後20～70日、平均で48日である。	誤りである。 (出典がなく、出典と値が異なる。)	3-(1)	
176	215	表6	全農飼料畜産中央研究所，1988年	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
177	217	図40	全農飼料中央研究所，2004年 △の意味	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
178	217	側注1	酢酸，プロピオン酸，酪酸などの有機酸のこと。	表記が不統一である。 ([157ページ24行～158ページ1行]酢酸，プロピオン酸，酪酸などの揮発性脂肪酸(VFA))	3-(4)	
179	221	11	臍帯炎(→カラーページ7)	生徒にとって理解し難い表現である。 (カラーページ7に臍帯炎がなく理解し難い。)	3-(3)	
180	221	表8	肥育各期の区分はp. 222図47に準じ，	誤りである。 (p. 222図47)	3-(1)	
181	222	14	牛肉の発育	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
182	222	図48	山崎敏雄, 1991年	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
183	222	表9	全体	生徒にとって理解し難い表である。 ([221ページ表8 乾物中粗飼料割合(%)]「20~25」および[222ページ21~22行]「粗飼料は飼料全体の20%程度以上」からみて粗飼料がないことが理解し難い。)	3-(3)	
184	223	23	飼料用粃米 [241ページ側注1]飼料用粃米	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (加工処理等を行わず、粃のまま飼料にすると誤解する。)	3-(3)	
185	226	13 - 16	4項目を評価し、項目ごとに高い順に5~1等級の5段階に格付される。~7段階に判定される。	生徒にとって理解し難い表現である。 (最終的な等級の判定法の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
186	227	表12	胸最長筋の面積と枝肉重量の全ての値 黒毛和種の BMS No. と皮下脂肪の厚さの値 交雑種のはらの厚さの値 日本食肉格付協会	誤りである。	3-(1)	
187	229	10	分娩間隔が平均13.3か月(399日)となっている(2019年)。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
188	230	図56	恒光裕, 2009年	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
189	230	表13	ロタウイルス コロナウイルス [図56]サルモネラ	不正確である。	3-(1)	
190	232	1	新生子牛虚弱症候群 [図58]新生子牛異常 2か所	生徒にとって理解し難い表現である。 (「新生子牛虚弱症候群」と「新生子牛異常」の違いが理解し難い。)	3-(3)	
191	232	7	1.5%	誤りである。 (図58と異なる。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
192	232	図58	2017年 [(b)]41% 12%	誤りである。	3-(1)	
193	233	4 - 6	肥育牛の3大死亡原因は心不全・肺炎・鼓脹症であり、これらで全体の半数以上を占めている (p. 234図60)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (p. 234図60の引用位置が理解し難い。)	3-(3)	
194	233	図59	2017年 [(b)]外傷・不慮2.6% [(b)その他]32.8%	誤りである。 (年次のデータでなく、外傷・不慮は疾病ではない。)	3-(1)	
195	233	表14	栄養疾患 [234ページ6行]栄養疾患	表記が不統一である。 ([233ページ表14 タイトル]「栄養性疾患」)	3-(4)	
196	235	3 - 4	牛肉のうち約6割が輸入牛肉であり、そのほとんどが部分肉(パーツ)の荷姿で輸入され、	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
197	235	9 - 10	牛の特徴として、とくに和牛では卸売市場を経由する割合が高い。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
198	235	図66	日本食用協養会	誤りである。	3-(1)	
199	236	2 - 3	枝肉の販売価格は枝肉単価(1kgあたりのせり価格)と枝肉(→p. 140. p. 226)の重量で決まる。	生徒にとって理解し難い表現である。 (ウシの枝肉でp. 140を参照することが理解し難い。)	3-(3)	
200	236	図68	出典	不正確である。	3-(1)	
201	237	表15	[1産取り経営]交雑雌牛	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
202	237	表16	[1戸あたり飼養頭数]153.2 198.2 331.9 農林水産省，2019年2月調査	誤りである。	3-(1)	
203	238	8	(p. 237表17)	誤りである。	3-(1)	
204	238	10 - 13	飼養戸数は，小規模層を中心に減少しており，近年は年率5～7%の割合で減少している。飼養頭数は，牛肉の輸入自由化(1991年4月)以降も増加傾向で推移したが，近年は300万頭くらいで	不正確である。 (出典がなく，「5～7%」，「牛肉の輸入自由化(1991年4月)以降も増加傾向」，「近年は300万頭くらいで横ばい」が不正確である。)	3-(1)	
			横ばいである。1戸あたり飼養頭数は，着実に増加している。			
205	238	14 - 17	飼養規模は，繁殖雌牛10頭以上の層，～において，農家数と飼養頭数の割合が年々上昇し，規模拡大は着実に進展しており，1か所で千頭以上を肥育する企業の経営も各地に出現している。	不正確である。 (出典がなく，「年々上昇」が不正確である。)	3-(1)	
206	238	図70	農林水産省，2019年2月調査	不正確である。	3-(1)	
207	238	表17	農林水産省資料，2018	不正確である。	3-(1)	
208	239	13	配合飼料価格安定制度(→p. 15側注6)	誤りである。	3-(1)	
209	240	側注5	菜食厳守ではなく，少なくとも週に1回は肉食のない食事にしようとする人のこと。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (少なくとも週に1回は肉や魚を食べないと考えただけの人や無意識のうちに食べなかった人を含むと誤解する。)	3-(3)	
210	240	側注5	ベジタリアンよりはるかに多い。アメリカ人の38%，欧州ではもっと高くドイツでは69%に達する。現在の食生活では日本人はほとんどがフレキシタリアンといえる。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
211	240	表18	[1～2行] (牛肉輸出の政府の方針や～食生活の変化など	誤記である。 (文末に「) 」がない。)	3-(2)	
212	241	8 - 10	現在、牛肉の銘柄数は約350で、その半数以上は黒毛和種であり、肉専用種の約半数は品種名を入れた商標登録がなされている。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
213	241	9 - 10	肉専用種の約半数は品種名を入れた商標登録がなされている。	生徒にとって理解し難い表現である。 (主語述語の関係が理解し難い。)	3-(3)	
214	242	図②	W…管囲	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (管囲の計測部位が理解し難い。)	3-(3)	
215	247	2 - 3	現在、地球上に生息しているウマの仲間は、家畜として飼養しているウマ、シマウマ、ロバ、オナガの4種類である。	不正確である。 (亜属で分類しておらず、シマウマは家畜化が困難である。)	3-(1)	
216	247	3	Equuscaballus	誤りである。	3-(1)	
217	247	5 - 6	シマウマの仲間は、種として現在3種(ヤマシマウマ、グレーヴィーシマウマ、パーチェルズシマウマ)があり、	不正確である。 (シマウマ亜属の分類ではない。)	3-(1)	
218	247	側注3	野生の個体は、アジアノロバとソマリアノロバで現存しているが、絶滅危惧種である。	不正確である。 (ロバ亜属の分類ではない。)	3-(1)	
219	248	図4	全体	生徒にとって理解し難い図である。 (胃、小腸、大腸の枠の太さや長さの違いについて説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
220	249	図7	写真 ペルシュロン種、黒鹿毛	生徒にとって理解し難い表現、写真である。 ([カラーページ3]「写真」が同じであるのに「鹿毛」と違うことが理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
221	250	7 - 9	とくに、欧米を中心とする先進諸国のウマ飼育頭数の変化は小さく、一方で発展途上国では減少が大きい。	誤りである。 (適切なデータに基づいていない。)	3-(1)	
222	250	10 - 13	日本における現在のウマ飼養頭数は、10万頭にみえない。1960年代初めまで、日本の飼養頭数は150万頭にも及ぶほどであったが、その後激減し、1990年代からほぼ10万頭を前後して、2004	誤りである。 (適切なデータに基づいていない。)	3-(1)	
			年以降は再び徐々に減少する傾向にある。			
223	251	8 - 10	イギリスでも競走用サラブレッド種が占める割合は30%程度、アメリカでは20%程度といわれている。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
224	251	19 - 21	世界的に国民1人あたりの馬肉消費が多い国は、第1位がベルギーであり、第2位がオランダとイタリアである。日本の消費量は年間5千t程度で、例年第5から6位を占めている①。	誤りである。 (適切なデータに基づいていない。)	3-(1)	
			[側注1]Eurostat Database, 2014年			
225	251	図10	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(11)	
226	253	3 - 4	アメリカで飼育されるウマの8割を占めている一般作業馬	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
227	255	11 - 12	1957年には約60万戸の農家が約67万頭のヤギを飼養していた。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
228	256	12 - 13	2015年に～改正された	不正確である。 (2015年)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
229	256	19 - 20	動物介在教育や動物介在活动(→p. 30), あるいはペットとしての利用もされている(図18)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (本文における図18の参照位置が理解し難い。)	3-(3)	
230	256	側注1	ヤギのチーズはシェーブルチーズとよばれ、その純白さはヨーロッパなどで好まれている。近年は国産チーズの品質が向上し、内外のコンテストで賞を獲得することも、めずらしくなくなっ	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (シェーブルチーズだけ賞を獲得することも、めずらしくなくなったと誤解する。)	3-(3)	
			た。			
231	257	19 - 21	角の遺伝子は、無角P, 有角hで、Pが優性だが、PPの遺伝子をもつ無角の雌は間性になり、繁殖能力をもたない	生徒にとって理解し難い表現である。 (「P」, 「h」, 「優性」, 「間性」が理解し難い。)	3-(3)	
232	258	側注2	過剰なコレステロールの排せつ作用がある。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (強すぎるコレステロールの排せつ作用があると誤解する。)	3-(3)	
233	259	9 - 10	現在では、世界で1,000種以上のメンヨウが飼育されている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
234	259	13 - 14	ウシ(約15億頭)について多く(約12億頭)飼育されている。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
235	260	8 - 11	昭和30年代初期には全国約64万戸で約95万頭が飼育されていたが、平成10年代中期には1,000戸で1万頭にまで減少した。平成30年には、	生徒にとって理解し難い表現である。 (出典がなく、年次や値の概数の表記も異なり理解し難い。)	3-(3)	
236	260	13 - 15	飼養頭数は2万頭にまでやや回復している。飼養農家数は950戸、1戸あたりの飼養頭数は21頭である。	不正確である。 (出典がなく、値も不正確である。)	3-(1)	
237	260	図21	アジアの値 北アメリカ	不正確である。 (中央アメリカとカリブが南北どちらに含まれるかの記載がなく不正確である)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指 摘 事 項	指 摘 事 由	検 定 基 準	
	ページ	行				
238	260	表4	ナイジェリア, 世界合計の値	誤りである。	3-(1)	
239	260	表5	オーストラリア以外の値	誤りである。	3-(1)	
240	261	7 - 8	生産量は, 1990年をピークに減少傾向にあり, □	不正確である。 (出典がなく, 1990年はピークではない。)	3-(1)	
241	264	17 - 18	1970年代の50万人をピークに減少を続け, 現在は20万人を割り込んでいる(図2)。 [図2]全体	誤りである。	3-(1)	
242	264	19	ワナ捕獲者についてはやや増加傾向にある。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
243	265	12	全国で42万ha(2015年)にもおよぶ耕作放棄地	不正確である。 (出典がなく, 値も不正確である。)	3-(1)	
244	266	15 - 17	現在, シカ, イノシシともに年間60万頭以上が捕殺されている。このうち狩猟以外の助成金による有害駆除が約8割を占めている。	不正確である。 (出典がなく, 60万頭以上は不正確である。)	3-(1)	
245	266	24	2004年	誤りである。	3-(1)	
246	266	29 - 30	稼働中の野生鳥獣処理加工施設は, 全国に677か所(2019年度)ある	誤りである。 (出典がなく, 値も誤りである。)	3-(1)	
247	266	側注1	国は2023年度までの10年間にシカ・イノシシの頭数を半減(シカ135万頭, イノシシ52万頭)する計画を立てているが, 2019年度現在でもシカ256万頭, イノシシ80万頭と目標を達成するには	誤りである。 (出典がなく, 値も誤りである。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
			むずかしい状況になっている。			
248	270	13 - 17	たとえば、ピッグサイクルは、価格が上昇すると生産者は供給量を増加させようと繁殖豚を増加させるが、増加した繁殖豚から生まれた子豚が肥育されて市場に出回るまでに時間がかかり、	生徒にとって理解し難い表現である。 (市場に出回るまでに時間がかかることと需給バランスがずれることの関係が理解し難い。)	3-(3)	
			需給バランスがずれることにより、価格が上昇と下降を繰り返すことで現れる。			
249	270	18	ビーフキャトルサイクルは和牛では10年周期	不正確である。	3-(1)	
250	270	図3	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
251	272	図5	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
252	273	表1	従量税で4.3% 従価税で50円/kg	誤りである。 (従量税 従価税)	3-(1)	
253	273	表1	(国産チーズ使用条件の抱き合わせ関税が有名無実化されるおそれ)	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
254	275	15 - 16	TMRセンター、キャトル・フィード・ステーション	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
255	275	側注3	全国に約300の酪農ヘルパー組合や会社があり、酪農家1戸あたり約月2回利用されている。専任酪農ヘルパーは全国で約1,000人おり、新規就農するヘルパー員も多い。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
256	275	側注3	ヘルパー員	表記が不統一である。 ([13行]「ヘルパー」)	3-(4)	
257	276	9	現在では牛肉349, 豚肉では441 [側注1]日本食肉消費総合センター「 銘柄牛肉ハンドブック」(2017年), 「 銘柄豚肉ハンドブック」(2018年) [241ページ8~9行]現在, 牛肉の銘柄	最新のものを用いておらず, 学習上の支障を生ずる おそれがある。	2-(11)	
			数は約350で,			
258	277	6 - 7	牛の個体識別のための情報の管理およ び伝達に関する特別措置法	不正確である。 (および)	3-(1)	
259	278	18 - 19	2019年までに300以上の畜産農場が認 証されている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
260	283	8	SNP	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
261	283	16	血統構成は, 若百合×安福久×第1花 国で,	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
262	287	図8	写真	特定の商品の宣伝になるおそれがある。	2-(7)	
263	289		[上から4番目の表 寒地型]ケンタッ キー, ブルーグラス [暖地型]タリスグラス	誤記である。	3-(2)	
264	300		[え]枝肉……140, 226 [き]黄豚……143 [302ページ な]軟脂豚……143	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-4		学校 高等学校		教科 農業	種目 畜産	学年
番号	指摘箇所		指 摘 事 項	指 摘 事 由	検 定 基 準	
	ページ	行				
265	裏見返 9□		[上段 媒精]精子と卵子を受精させる	不正確である。 (受精)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業経営	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	表見返 3		[上段右]農業経営体数 の出典	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
2	表見返 3		[下段右]耕地面積 の出典	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
3	表見返 3		[下段右 凡例]20%未満 10以上 5以上	誤りである。	3-(1)	
4	12	図1	全体	不正確である。	3-(1)	
5	13	3 - 5	世界の耕地面積のうち穀物の収穫面積は、1981年までは増加し続けて約7.3億haになったものの、これをピークに減少に転じた。その後再び増加し始め、2017年には約7.3億haとなった。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
6	13	3	耕地面積 [6行]耕地面積 [20行]農地面積 [15ページ1行]農地 [15ページ17行]農地	生徒にとって理解し難い表現である。 (「耕地」と「農地」の違いが理解し難い。)	3-(3)	
			[15ページ19行]耕地 [15ページ20行]耕地 [15ページ22行]耕地 [52ページ15行]農地 [52ページ16行]農地			
7	13	6 - 8	耕地面積を増やし続けることがむずかしいのは、地球全体での土壌の劣化や、砂漠化の進行、また、水資源などに制約があるためである。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (記載されたことだけがむずかしい理由と誤解する。)	3-(3)	
8	13	11 - 13	生産量は、約10億t(1965年)から約30億t(2020年)へと、年平均2.2%の伸びを示している。これは、単位面積あたりの収量(単収)の増加によるものである(図2)。	生徒にとって理解し難い表現、図である。 (図2と本文とで基準とした年次が異なり理解し難い。)	3-(3)	
9	13	図2	1人あたり収穫面積の2019年	生徒にとって理解し難い図である。 (現時点のFAOSTATに2019年人口データはなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業経営	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
10	14	表1	④生産する作物による分類	生徒にとって理解し難い表現である。 （〔分類された例〕「畜産農業」からみて「作物による分類」が理解し難い。）	3-(3)	
11	15	17 - 18	2020年時点で農地437万haのうち238万haが水田となっている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
12	16	10 - 11	かつて500万～600万戸あった農家数は、1965年以降は急減し、2020年では175万戸となった。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
13	17	7 - 8	1975年に500万人はいた基幹的農業従事者	不正確である。	3-(1)	
14	17	9	平均年齢は67.8歳	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
15	17	11	49歳以下の占める割合は約50%	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
16	17	12 - 13	認定農業者が23.4万人	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
17	17	13	企業による農業参入の数も3,600をこえる	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
18	17	図7	全体	誤りである。	3-(1)	
19	18	図8	出典	不正確である。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業経営	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
20	18	側注1	フランスでは、～60年かけ経営規模は約7倍に拡大し、農家の平均年齢も40代なかばと10歳以上若返っている。	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
21	19	図10	耕地及び作付面積統計	不正確である。	3-(1)	
22	19	図11	[2000]34.4 15.5 [’05]38.5	不正確である。	3-(1)	
23	19	側注1	耕地面積 農用地面積	生徒にとって理解し難い表現である。 (耕地面積と農用地面積の違いの説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
24	19	側注7	有機JASの基準は、播種・植え付け前2年以上、化学肥料や化学合成農薬を使用しない圃場で生産することなど。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (永年性作物にも該当すると誤解する。)	3-(3)	
25	22	図13	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
26	24	24 - 25	農協出資農業法人 [99ページ11行]農協出資農業法人	不正確である。	3-(1)	
27	29	図5	全体	学習上必要な年次が示されていない。	2-(10)	
28	29	図6	[イタリア]面積割合と190 [世界]698	誤りである。	3-(1)	
29	29	側注2	エコファーマーとは、堆肥の施用などによる土づくり技術、化学肥料を減らす技術、化学農薬を減らす技術を一体的に導入している農業者のこと。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (エコファーマーは認定を得る必要のないと誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業経営	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
30	30	10 - 12	どの経営部門をみても平均規模は拡大してきており(表3)、現在では、畜産の生産規模は、欧米なみに達している。 [表3]農家1戸あたりの平均経営規模の推移	生徒にとって理解し難い表現である。 ([表3]「経営規模」と「生産規模」の違いの説明がなく、何を比較しているかが理解し難い。)	3-(3)	
31	30	23 - 24	農業もむずかしいとはいえ、例外でない。	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ「農業もむずかしい」かの説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
32	30	図7	いも・豆・麦類	不正確である。	3-(1)	
33	30	表2	2010年 都府県30ha以上の割合	不正確である。	3-(1)	
34	30	表3	2020年の販売農家の全て、水稻、果樹出典	誤りである。	3-(1)	
35	31	図9	[右図]全体	生徒にとって理解し難い図である。 (推計方法の記載がなく理解し難い。)	3-(3)	
36	32	図10	人工環境下で、レタスが栽培される。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (レタスだけが栽培されると誤解する。)	3-(3)	
37	32	側注4	農業が加工・販売など新たな事業領域を手がけること	誤りである。 (農業)	3-(1)	
38	32	側注3	Internet of Thingsの略称で、モノのインターネットのこと	生徒にとって理解し難い表現である。 (「モノのインターネット」の説明がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業経営	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
39	33	側注3	他国で生産されたカンキツの品種(不知火)やブドウの品種(シャインマスカット)が海外市場で流通したり,	生徒にとって理解し難い表現である。 ([16~17行]「国内で開発された優良品種が海外に流出することも深刻な問題となっている。」との関係が理解し難い。)	3-(3)	
40	34	コラム	[右段]マーケットイン	表記が不統一である。 ([10~11行]「マーケット・イン」と表記が不統一である。)	3-(4)	
41	35	図2	'17年以外の食品製造業の全て 食品関連流通業の'95, 2000, '05年 外食産業の'11年 年次の'17年	不正確である。 (「'17年」は誤りであり、他は不正確である。)	3-(1)	
42	37	6	フェアトレード① [側注1]生産者の継続的な利益や環境 保護などに配慮した公正な取引。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全ての生産者を対象としていると誤解する。)	3-(3)	
43	37	18	生き物マーク [図4]生き物マークの例	不正確である。	3-(1)	
44	37	側注4	一定の基準を満たした健康食品。機能 性表示食品として認められた	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (機能性表示制度について誤解する。)	3-(3)	
45	39	側注3	危害分析・重要管理点	不正確である。	3-(1)	
46	41	図11	全体	不正確である。	3-(1)	
47	42	7 - 15	農産物輸入国の多くは先進工業国であり、ドイツやアメリカ合衆国が多い。 ～日本の輸出は輸入額の1/10にも満たない。	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
48	42	18 - 20	肉類などでは, 海外依存度が高いのがめだつ(図14)。たとえば, 牛肉の国内生産量は微減しているが, その分を輸入によってまかなっている	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (図14では海外依存度が高いことはわからず, 国内生産量は微減分を輸入によってまかなっているから牛肉の消費量は一定と誤解する。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業経営	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
49	43	1 - 3	野菜は、輸入が約300万tと、この30年で約2倍に増えている。最近では、中国やアメリカ合衆国からのタマネギやニンジン、トマトなどの輸入が多く、	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
50	43	17	輸出額は、この10年間で倍増し、2021年には1兆円に達した。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
51	43	図14	全体	生徒にとって理解し難い図である。 (左右の縦軸が何の輸入額の説明がなく理解し難い。)	2-(10)	
52	44	15	38% [16行]61%	誤りである。 (2020年の値ではない。)	3-(1)	
53	44	側注1	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
54	45	図17	労働充足率	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
55	49	15	農家の法人化 [92ページ2行]農業経営の法人化	生徒にとって理解し難い表現である。 (使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
56	49	図6	年	不正確である。	3-(1)	
57	50	図7	'15と'18の間の横軸の間隔	誤りである。	3-(1)	
58	51	1 - 3	農政の将来展望によれば、主業農家や団体経営体において耕地全体の8割程度を担う者が約86万人、それ以外の者を加えて、約140万人の農業就業者と見込まれている。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業経営	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
59	51	6 - 8	農地所有適格法人は約2万となり、そのうち株式会社は7,000をこえている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
60	51	18 - 20	具体的には、持続性の高い農業生産方式をめざすエコファーマーの認定(図9)、持続型農業促進法、家畜排せつ物および肥料の扱いかたを定めるなどの「農業環境三法」を制定した。	生徒にとって理解し難い表現である。(何が農業環境三法であるかが理解し難い。)	3-(3)	
61	51	図8	一般法人の農業参入の動向	誤りである。	3-(1)	
62	53	8	中山間地域等直接支払い	表記が不統一である。 ([51ページ側注1]「中山間地域等直接支払」と表記が不統一である。)	3-(4)	
63	54	側注1	関税貿易一般協定	不正確である。	3-(1)	
64	55	図15	全体	誤りである。	3-(1)	
65	58	図1	肥沃土	誤記である。	3-(2)	
66	58	側注2	自然条件と立地条件は、創業後は内部環境といえる。	生徒にとって理解し難い表現である。(なぜ「創業後は内部環境といえる」かの説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
67	63	図6	経営形態別経営統計	不正確である。	3-(1)	
68	64	図7	米 かんしょ ばれいしょ 大豆	不正確である。 (作物名の表記法として不正確である。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業経営	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
69	68	参考	農業士	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
70	71	8 - 9	農産物の販売先(チャンネル) [9行] 資材の調達先(チャンネル) [144ページ6行]販売チャンネル	生徒にとって理解し難い表現である。 (異なる用語を「チャンネル」で示すことおよび「販売先(チャンネル)」と「販売チャンネル」の使い分け方が理解し難い。)	3-(3)	
71	73	図19	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
72	76	20	比較有利性の原則 [参考]比較有利性の原則 比較有利性の高い	誤りである。	3-(1)	
73	78	側注1	異なる作物を交互に作付けすること。□	誤りである。 (交互に作付けすることではない。)	3-(1)	
74	79	側注2	同じ作物	不正確である。	3-(1)	
75	80	2	多角(複合)経営より単一経営のほうが多くみられる(図6,	生徒にとって理解し難い表現である。 (図6が参照先として理解し難い。)	3-(3)	
76	82	図10	稲作のデータ 農業経営体の経営収支	誤りである。	3-(1)	
77	83	図12	園芸用施設の設置等の状況	不正確である。	3-(1)	
78	85	22 - 23	借地の割合を高めながら、規模拡大をとげている大規模経営が増えている(図16)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (図16から本文の記載が理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業経営	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
79	85	図15	農林水産省経営局資料 '15と'16の間の横軸の間隔	不正確である。	3-(1)	
80	85	図16	1経営体あたりの借入面積の全データ [タイトル]販売農家1戸あたり	誤りである。	3-(1)	
81	86	図17	出典	不正確である。	3-(1)	
82	90	側注1	地域農業の発展と農業者の福利増進を 目的として、都道府県や市町村が運営 する公共企業体。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (都道府県や市町村だけが運営していると誤解する 。)	3-(3)	
83	91	3	共助(補完)関係(→p.78)	誤りである。 (→p.78)	3-(1)	
84	92	図7	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
85	93	表1	常時従業者のうち、組合員(同一世帯 の家族を含む)は、常時従業者全体の 2/3以下	誤りである。	3-(1)	
86	94	24	4)法人化によって、制度上の利点が得 られなくなる。 [側注2]農業者年金制度を利用できな い、利益がでない場合でも地方税がか かることなど。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 ([側注2]「全体」が何に関する「制度上の利点が得 られなくなる」かの説明がなく、表3の農業法人経営 の「制度上」の「利点」と誤解する。)	3-(3)	
87	95	側注1	作型とは、栽培時期や方法の違う作付 体系をさす。	誤りである。 (作付体系ではない。)	3-(1)	
88	95	図9	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業経営	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
89	96	7	固定資本装備率 [側注1]農業固定資本装備率	表記が不統一である。	3-(4)	
90	98	23	都道府県の連合会は全国連合会の支所	不正確である。 (支所)	3-(1)	
91	115	側注4	税法では残存価格を0(零)としている。	誤りである。	3-(1)	
92	121	10 - 29	◆安全性分析 安全性分析は～19.5% [122ページ1行～123ページ9行]◆収益性分析 収益性分析は～0.5回 [123ページ10～17行]◆成長性分析 成長性分析は～12.5%	生徒にとって理解し難い表現である。 (121～123ページと表4とで用語等が異なっており理解し難い。)	3-(3)	
			[123ページ側注1]売上高のほか、総資産・自己資本などを用いることもある。 [207ページ表4]全体			
93	130	9 - 10	豚コレラ	誤りである。	3-(1)	
94	132	表1	[販売・出荷]ドリフト被害	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
95	133	図4	2019年	不正確である。	3-(1)	
96	133	側注1	天災融資法 激甚災害法	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (正式名称と誤解する。)	3-(3)	
97	138	20 - 21	日本の人口は2008年をピークに減少に転じた(図1)。	誤りである。 (2008年はピークではない。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業経営	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
98	138	25 - 27	物質的な豊かさから心の豊かさへと変化している(→p. 37)。	生徒にとって理解し難い表現である。 (p. 37で心の豊かさの記載がなく理解し難い。)	3-(3)	
99	138	図1	'10から'50までの間の横軸の間隔	誤りである。	3-(1)	
100	143	15	野菜であれば100品目をこえる [側注3]農林水産省によると、生産量などが統計で把握されているのは約100品目。	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	
101	143	側注1	中央卸売市場(2021年時点で40都市60市場)と、都道府県から許可を得て開設される地方卸売市場(全国約1,000市場)	誤りである。 (出典がなく、60市場は誤りである。)	3-(1)	
102	145	表1	全体	最新のものをを用いておらず、学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	
103	147	20 - 21	バリューチェーンの全体を見渡して行う農業をフードチェーン農業という。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([34ページ コラム 左段]「フード・バリューチェーンを視野に入れた農業、通称「フードチェーン農業」とよばれる」と異なり理解し難い。)	3-(3)	
104	163	側注2	JAS有機 [図18]JAS有機	誤りである。	3-(1)	
105	174	図1	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
106	174	図1	1965～'85の間の横軸の間隔	誤りである。	3-(1)	
107	198	図1	全体	生徒にとって理解し難い図である。 (YES, NOが同じ線の中で分岐しており理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-5		学校 高等学校		教科 農業	種目 農業経営	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
108	202	表3	見積利益(売上高+総費用)	誤りである。	3-(1)	
109	208	17	3)自己資本比率⑩は、まざまざである。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([121ページ10~29行]「安全性分析」にも自己資本比率についての説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
110	211	8 - 9	カキをはじめ、数種類の果樹を植え、10haで有機栽培の通年生産を行っている①。 [側注1]カキのほか、ウメ、ブリーベリー、スモモ、カリン、キウイなども	生徒にとって理解し難い表現である。 （「数種類」と「ウメ、ブリーベリー、スモモ、カリン、キウイなど」の関係および「通年生産」が理解し難い。）	3-(3)	
			通年生産している。			
111	212	6 - 7	耕地放棄化したブルーベリー園	生徒にとって理解し難い表現である。	3-(3)	
112	214	12 - 13	農業主導型6次産業化整備促進事業	不正確である。	3-(1)	
113	215	22 - 24	ベビーリーフに含まれる栄養素の葉酸に注目し、葉酸含有量の増加、葉酸の割合が低い時期の栽培方法（水のやり方、種をまく品種の割合）などを研究し、	生徒にとって理解し難い表現である。 （「葉酸含有量の増加」と「葉酸の割合が低い時期の栽培方法(水のやり方、種をまく品種の割合)」の関係が理解し難い。）	3-(3)	
114	217	側注1	全体	学習上必要な出典、年次が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 地域資源活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	6	26 - 28	1990年代に入ると、「自給自足」, 「エコライフ」, 「半農半X」といったことばが出現し,	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (1990年代に自給自足ということばが出現したと誤解する。)	3-(3)	
2	7	8	子育て世代の農山村移住(「Iターン」)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (Iターンの説明がなく, 子育て世代だけの農山村移住と誤解する。)	3-(3)	
3	7	図3	2005年のデータの出典	誤りである。 (農山漁村に関する世論調査)	3-(1)	
4	8	図6	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(11)	
5	9	14	東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故	生徒にとって理解し難い表現である。 (東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故の関係が理解し難い。)	3-(3)	
6	10	16 - 19	どこへでも移転させて供給できるわけではなく, 実際に農村を訪問しないと体感・体験したりできないという特性(「非市場性」)を有している。	生徒にとって理解し難い表現である。 (本文記載の特性をなぜ「非市場性」というかが理解し難い。)	3-(3)	
7	11	6	特産物や土産物を販売する「直売所」, □	不正確である。 ([152ページ7~8行]「直売所とは, 生産者が自家農産物や加工品を消費者に直接販売するための場所」からみて不正確である。)	3-(1)	
8	11	コラム	昭和30年には約6,300人であった人口が, 平成22年には1,800人を切るまでに減少し, 65歳以上の人口割合(高齢化率)が52.4%と, 四国4県のなかで最も高くなった。	最新のものを用いておらず, 学習上の支障を生ずるおそれがあり, また, 学習上必要な出典が示されていない。	2-(11)	
9	16	3 - 4	地域資源活用という科目を学ぶ目的は, 食品の安全かつ安定的な製造に必要な資質や能力を身につけることである。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (「食品の安全かつ安定的な製造に必要な資質や能力を身につけること」が地域資源活用の目的と誤解する。)	3-(3)	
10	18	図1	全体	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 地域資源活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	19	図2	(『図説 集落』)	不正確である。 (出典名として不正確である。)	3-(1)	
12	22	図6	全体	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(11)	
13	23	17 - 21	農業の後継者が減少しているなか，新たに農業経営を始める新規参加者は，微増減はあるものの増加傾向である。国の青年就農給付金が創設された2012年には約3千人となり，前年と比べて	生徒にとって理解し難い表現である。 (「微増減」と「約4割増えた」との関係および「青年就農給付金」の現状が理解し難い。)	3-(3)	
			約4割増えた。			
14	24	24 - 28	都市人口(DID)でみると，1960年には全国の人口約9千万人のうちDID人口は43.7%，2015年には全国の人口約1億3千万人のうちDID人口は68.3%に増加した。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(11)	
15	25	9 - 11	東京都内の市街化区域内には，約3000ha(2020年)の農地が生産緑地に指定されている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(11)	
16	25	11 - 12	東京都内にある都市計画公園・緑地は，約10900ha(2019年)である	学習上必要な出典が示されていない。	2-(11)	
17	29	33	精神的障がい [162ページ図13]精神的障がい	表記が不統一である。 ([38ページ3行]「精神障がい」)	3-(4)	
18	30	側注2	日本には，現在13万5千ほどの集落がある。	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(11)	
19	32	16	一次的	誤記である。	3-(2)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 地域資源活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
20	33	図4	都市住民と連携した保全活動の実施割合	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全農業集落に対する割合と誤解する。)	3-(3)	
21	33	図5	NPO・学校・企業と連携した保全活動の実施割合	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全農業集落に対する割合と誤解する。)	3-(3)	
22	35	14 - 16	第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略～感染症の影響をふまえた今後の地方創生～」(2020改訂版)	不正確である。	3-(1)	
23	36	図9	全体	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
24	36	側注1	「中小企業成長促進法」，「地域未来投資促進法」に受けつがれる。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (正式名称と誤解する。)	3-(3)	
25	37	表2	立山の風土を器(越中瀬戸焼)で味わう、うまい米と水 日本中に海の幸 いかの加工品をお届けします 中山間地域の耕作放棄地解消と所得向	不正確である。	3-(1)	
			上をめざして 美濃焼 伝統と産業がはぐくんだ土岐のとおきおきの陶器 落語「鯉沢」の舞台の「落語のまち」 東郷湖～ ゆりはまWalking Resort ～			
			「白河小峰城と城下町ツーリズム」～藩主松平定信の歴史と文化・産業(白河そば・日本酒など)を求めて～			
26	38	20 - 22	農場でのトマト生産への参加，生産したトマト加工でのケチャップづくりへの参加，トマト料理によるレストランでのサービス労働としての参加の形態がある。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (記載された参加方法しかないと誤解する。)	3-(3)	
27	39	3	第三セクター	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 地域資源活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
28	39	30	植物や土壌への炭素固定④ [側注4]光合成により大気中の二酸化炭素が合成されて炭水化物になり、植物や藻類などの内部にとり込まれて固定されること。	生徒にとって理解し難い表現である。 (土壌への炭素固定の説明がなく、また「大気中の二酸化炭素が合成されて」が理解し難い。)	3-(3)	
29	43	図3	生態系に配慮した農法	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのように生態系に配慮したがが理解し難い。)	3-(3)	
30	48	側注1	日本全国の農業用水路の長さを合計すると、地球約10周分(約40万km)にも及ぶとされている。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
31	56	5 - 7	森林率は、フィンランドは74%、スウェーデンは69%、日本は68%である。森林率が33%と日本よりはるかに低いドイツ	学習上必要な出典が示されていない。	2-(11)	
32	56	25 - 26	2020年までに現在のエネルギー使用量を60%削減し、	生徒にとって理解し難い表現である。 (2020年と現在の関係が理解し難い。)	3-(3)	
33	56	33	有機的な飼料	生徒にとって理解し難い表現である。 (「有機的な飼料」が理解し難い。)	3-(3)	
34	70	9 - 10	都市の重工業発展のために、農山村地域からの多くの若者を就職させる政策をとってきた。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (政策によって農山村地域の若者が都市の重工業発展のために就職したと誤解する。)	3-(3)	
35	71	図1	EBPMの推進	生徒にとって理解し難い表現である。 (EBPMの説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
36	72	19 - 20	グリーン・ツーリズムは、当初は小学生を中心とした教育旅行の側面が強かった。	学習上必要な出典が示されていない。	2-(10)	
37	72	20	農村漁村余暇法	誤りである。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 地域資源活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
38	73	7 - 9	昭和60年代に入り，三大都市圏を中心として地価が高騰するなか，宅地化が強く求められたことで，市街化区域内の農地は減少した。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (昭和60年代から市街化区域内の農地は減少したと誤解する。)	3-(3)	
39	74	20	市民農園促進法	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (正式名称と誤解する。)	3-(3)	
40	74	図4	心のやすらぐ緑地空間	誤りである。 (都市農業基本法第3条1項に記載がない。)	3-(1)	
41	78	3 - 4	植物の生長	誤記である。 (生長)	3-(2)	
42	78	27 - 28	こども農山漁村交流プロジェクト□ (こども)	誤記である。 (こども)	3-(2)	
43	81	9	無人で走行できるロボットトラクタ [図4]全体	生徒にとって理解し難い表現，写真である。□ (本文と図4との関係が理解し難い。)	3-(3)	
44	81	17 - 20	一方，こうした技術革新により多くの作業が機械によって自動でできるようになり，さらに熟練者の技術や経験がデータ化されることで，農作業をする人がいなくなり，日々変化する環境の	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (多くの作業が自動でできると，農作業をする人がいなくなると誤解する。)	3-(3)	
			なかで農作業を通じて得ることができていた知見が得られなくなってしまう。			
45	85	27 - 29	報徳社運動がある。これは，農山村地域の人たちが，共同で出資を行って企業を創設	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (必ず企業を創設したと誤解する。)	3-(3)	
46	88	3	ステーキホルダー	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 地域資源活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
47	120	図11	リゾート法による大規模開発への反省	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく理解し難い。)	3-(3)	
48	121	1 - 2	日本は高度成長期を経て、1969年には世界第2位の経済大国にまで上り詰めた。	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (日本は高度成長期は1969年以前と誤解する。)	3-(3)	
49	121	2	1969年には世界第2位の経済大国にまで上り詰めた。	誤りである。 (1969年)	3-(1)	
50	128	図23	日本政府観光局, 2016年	不正確である。	3-(1)	
51	130	側注4	resources	不正確である。	3-(1)	
52	130	コラム	全国で17か所～(2021年3月時点)。	不正確である。 (17か所)	3-(1)	
53	138	22 - 23	全国63～(2018年3月)。	最新のものをを用いておらず, 学習上の支障を生ずるおそれがある。	2-(11)	
54	143	左下図	全体	誤りである。 (図番号がない。)	3-(1)	
55	147	16 - 17	むかしながらの栽培・飼育法や製法, 自然にやさしい, 手づくり, 手間を惜しまないなど特徴があるストーリー性 ② [側注2]持続可能な開発目標(SDGs)の	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (ストーリー性を持続可能な開発目標と誤解する。)	3-(3)	
			コンセプトに注目した商品開発も注目されている。			

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 地域資源活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
56	150	4	人口約1000人,	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
57	155	表1	(青果物地域流通研究会「都市近郊の青果物産地における地域流通の販売管理マニュアル」をもとに作成	誤記である。 (「」)がない。)	3-(2)	
58	156	図6	2018年	誤りである。	3-(1)	
59	157	9	地域の関係者① [側注1]ステークホルダー(→p.96) (stakeholder)という。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「[210ページ30行]「利害関係者をステークホルダーという。」と異なり理解し難い。)	3-(3)	
60	160	13 - 14	全国の市民農園の数は, 約4000, 区画数は約18万である。	学習上必要な出典, 年次が示されていない。	2-(10)	
61	163	19	都市農地貸借法	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (正式名称と誤解する。)	3-(3)	
62	163	表4	農林水産省	不正確である。	3-(1)	
63	164	9 - 10	全国的に応募する地区は, 全国棚田(千枚田)連絡協議会に登録されており, 全国に数十地区ある。 [13~15行]中山間地域等直接支払制度では, 農地保全のための取組の一つと	生徒にとって理解し難い表現である。 (全国棚田(千枚田)連絡協議会の数十地区と中山間地域等直接支払制度の100~300地区の関係が理解し難い。)	3-(3)	
			して, 棚田オーナー制度を用意している。年によって変動はあるが, 100~300地区で実施されている。			
64	164	表5	年2~4回程度 2か所 年5回以上 年11回以上	不正確である。	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 地域資源活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
65	165	5 - 7	アロットメントの数は、～およそ33万区画が利用され、あきを待っている市民が十数万人いると推定されている。	学習上必要な出典，年次が示されていない。	2-(10)	
66	165	10 - 11	ドイツのクラインガルテンは、1区画の面積が約330m ² と広く	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (全て面積が約330m ² と誤解する。)	3-(3)	
67	165	側注2	2016年時点では、イタリア全土で、社会的農場において389組合が活動しており、3992人が雇用され、総生産額は1.8億ユーロ(約220億円)にのぼるといふ報告がある。	誤りである。 (出典がなく、2016年時点のデータではない。)	3-(1)	
68	167	5	大豆トラスト	不正確である。	3-(1)	
69	171	コラム	アメリカのCSAの原型はドイツとフランスにあるといわれており、	誤りである。 (出典がなく、フランスは誤りである。)	3-(1)	
70	177	側注1	Educational	誤りである。	3-(1)	
71	177	側注2	内閣府	誤りである。	3-(1)	
72	182	図11	全体の数値	誤りである。	3-(1)	
73	185	20	障害者総合支援法	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (正式名称と誤解する。)	3-(3)	
74	187	側注1	ユニバーサルデザインは、人々がさまざまな個性や違いにかかわらず、最初からだれもが利用しやすくするデザインをいう。	生徒にとって理解し難い表現である。 ([202ページ側注1]「全体」との説明が異なり理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 地域資源活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
75	188	16 - 17	障がい者が主体的にたずさわって生産した農林水産物と、それを原材料とした加工食品を認証する。	不正確である。 (主体的にたずさわって生産した農林水産物とそれを原材料とした)	3-(1)	
76	194	側注2	ことばとして発音可能なものをブランド・ネームといい、シンボル・デザイン・色・レタリングなどで表現され発音できない部分をブランド・マークという。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「発音可能なものをブランド・ネーム」, 「発音できない部分をブランド・マーク」が理解し難い。)	3-(3)	
77	195	17	地域の名称名	誤りである。 (名称名)	3-(1)	
78	198	14	四則演算のすべての計算に用いることはできない。 [17～18行]たし算や引き算を行うことはできるが、かけ算や割り算に用いることはできない	生徒にとって理解し難い表現である。 (「計算に用いること」, 「かけ算や割り算に用いること」が理解し難い。)	3-(3)	
			[19～20行]四則演算のすべての計算に用いることができる情報である。			
79	205	7	消毒, 殺菌を加えた7S	不正確である。 (消毒)	3-(1)	
80	207	20	1992年にたち上げられた。	誤りである。 (1992年)	3-(1)	
81	207	図1	全体	不正確である。	3-(1)	
82	207	側注1	会員数は220名(正会員150名, 協力会員70名), およびメルマガ会員140名である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (いつの会員数の記載がなく理解し難い。)	3-(3)	
83	210	11 - 12	地域のもつ理想(ビジョン) [211ページ16～17行]理想と現状のギャップ(課題) [211ページ17行]次にあるべきである理想(目的)	生徒にとって理解し難い表現である。 (理想(ビジョン), 理想, 理想(目的)の違いが理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 104-6		学校 高等学校		教科 農業	種目 地域資源活用	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
84	210	24	学校や地域を実際に歩くなどのフィールドワーク	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (実際に歩くことをフィールドワークを誤解する。)	3-(3)	
85	215	31 - 33	幼児から高齢者まで、さまざまな参加者が活動することを考慮して、車いすへの対応やトイレの配慮などバリアフリーに対応すること	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (バリアフリーは幼児から高齢者まで、さまざまな人に対応することと誤解する。)	3-(3)	
86	226	4 - 5	生活のなかで流域の恩恵を受けている森林の健全育成	生徒にとって理解し難い表現である。 (「生活のなかで流域の恩恵を受けている森林」が理解し難い。)	3-(3)	
87	228	31	秋田県・岩手県の本州以南に	生徒にとって理解し難い表現である。 (「秋田県・岩手県の本州以南」が理解し難い。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。